

令和3年高取町議会第3回定例会会議録

---

招集年月日 令和3年10月11日（月曜日）  
招集の場所 高取町議会議場  
開閉会日時及び宣言  
開会 令和3年 9月13日 午前10時00分  
閉会 令和3年11月15日 午前11時29分

---

出席議員（8名）

1	番	森川彰久	君
2	番	西川侑彦	君
3	番	谷本吉巳	君
4	番	松本圭司	君
5	番	野口勝也	君
6	番	新澤良文	君
7	番	森下明	君
8	番	新澤明美	君

---

欠席議員（0名）

なし

---

会議録署名議員

1	番	森川彰久	君
2	番	西川侑彦	君
3	番	谷本吉巳	君

---

職務のため出席した者

議 会 事 務 局	新 田 靖 幸
書 記	佐々木 一 雄

---

説明のため出席した者の職・氏名

町			長	中	川	裕	介	君
副		町	長	東		扶	美	君
総	括	参	事	武	平	年	史	君
総	務	課	長	芦	高	龍	也	君
福	祉	課	長	榎	井	貞	男	君

---

証人として出席した者の職・氏名

町			長	中	川	裕	介	君
福祉課地域包括支援センター			保健師	濱	坂	知	子	君
福祉課兼住民課			保健師	藤	原	香	織	君
福祉課保健センター			保健師	松	本	聖	子	君

議事日程

令和3年10月11日 午前 9時00分 開議

---

本日の会議に付した事件

議事日程のとおり

追加議事日程

- 1 議第7号 令和3年度高取町一般会計補正予算（第5号）

午前9時00分 開議

○議長（新澤良文君） ただいまより本会議を再開いたします。

本日の出席議員は8名中8名でございますので、本会議は成立いたします。

それでは、議事を進行したいと思いますが、初めに、追加議事日程を配付いたしておりますので、御確認ください。お手元でございますか。

お諮りいたします。お手元に配付されました追加議事日程を本日の日程に追加したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。したがって、追加議事日程を本日の日程に追加いたしました。

---

○議長（新澤良文君） お諮りいたします。追加日程第1 議第7号について、会議規則第35条第3項の規定により、委員会の付託を省略したいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 異議なしと認めます。追加日程第1 議第7号については、委員会の付託を省略することに決定いたしました。

それでは、追加日程第1 議第7号、令和3年度高取町一般会計補正予算（第5号）の提案理由説明をお受けいたします。榊井福祉課長、御登壇願います。

〔福祉課長 榊井貞男君 登壇〕

○福祉課長（榊井貞男君） それでは、令和3年高取町議会第3回定例会提案理由説明をさせていただきたいと思っております。

本定例会に追加上程いたします議案は、議決案件1件でございます。

追加日程1 議第7号、令和3年度高取町一般会計補正予算（第5号）。

歳入歳出予算の補正といたしまして、補正予算額1,497万8,000円でございます。財源内訳といたしましては、国庫支出金、国庫補助金で1,497万8,000円でございます。補正後予算総額は37億1,674万4,000円でございます。新型コロナワクチン接種体制確保事業費につきまして、高取町新型コロナワクチン接種事案の対象者につきまして感染症検査、抗体検査を実施させていただくために各費目合計で1,497万8,000円を増額補正させていただきたく上程させていただいているものでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） ちょっと、この新型コロナワクチン接種事案はどういうこと。

○議長（新澤良文君） 質疑でええわ。細かく言わないと。

ありがとうございました。

追加日程第1 議第7号、令和3年度高取町一般会計補正予算（第5号）を議題といたします。

上程となっております本案について、これより質疑を行います。質疑はございませんか。新澤議員。

○8番（新澤明美君） まず歳入ですが、国庫負担金ということですが、これはどういう内容の国庫負担金なのか御説明をいただきたいというのと、それから歳出ですが、感染症検査ということですが、感染症の種類をお聞きをしたいのと、それと今回これ新たに補正予算として上がってきているわけでございますので、実際にその対象者となる方というのはどういう事案の対象者なのか具体的に御説明お願いいたします。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

一応これ配ったやつ、新澤議員、持ってきてはりますね。

○8番（新澤明美君） すみません。こういうの見えなかった。

○議長（新澤良文君） じゃ、それにのっとって説明してください。榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 大変恐れ入ります。まず提案理由の説明、先ほどさせていただきますけれども、補正予算内容の御説明を申し上げたいと思います。大変恐れ入ります。

まず、すみません、議第7号、令和3年度高取町一般会計補正予算書（第5号）でございます。補正予算書の1ページをお開きいただきたいと思います。令和3年度、2021年度高取町一般会計補正予算（第5号）でございます。

令和3年度高取町の一般会計補正予算は、次に定めるところによる。歳入歳出予算の補正、第1条、既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ1,497万8,000円を増額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ37億1,674万4,000円とする。

2、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、第1表、歳入歳出予算補正による。

令和3年、2021年10月11日提出。奈良県高取町長、中川裕介。

予算書につきましては、7ページと8ページでございます。お手元の一般会計補正予算説明資料に基づきまして御説明を申し上げたいと思います。

歳出予算といたしまして、目名は新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費

でございます。事業名は、新型コロナウイルス抗体検査及び感染症検査でございます。事業内容といたしまして、新型コロナウイルスワクチンの集団接種をされた方のうち、7月11日の59人と8月1日の53人のうち7月11日と重複している13人を除いた40人との計99人に対する抗体検査及び感染症検査に要する費用を増額補正させていただくものでございます。感染症検査につきましては、B型・C型肝炎ウイルス検査とHIVの感染症検査でございます。また、集団接種された方のうちリベルテホールで接種された7月21日の306人、7月25日の623人、7月28日の306人、地域交流スペースいくせいで接種された95人、特養たかとりで接種された入所者及び従事者115人、へいせいたかとりクリニックで9月15日、9月22日に個別接種された34人の計1,479人に対する抗体検査に要する費用を増額補正させていただきたく上程させていただいてるものでございます。役務費といたしまして60万6,000円、郵送料でございます。委託料といたしまして1,413万7,000円、警備委託料と抗体検査及び感染症検査委託料でございます。償還金利子及び割引料23万5,000円、検査費用の自己負担の償還金でございます。補正予算の内容につきましては以上でございます。

- 8番（新澤明美君） 歳入の国庫の内容。
- 福祉課長（榊井貞男君） ごめんなさい。歳入につきましては、衛生費国庫補助金の新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費国庫補助金の予防接種事故発生調査費といたしまして上程をさせていただいているものでございます。
- 議長（新澤良文君） 新澤議員。
- 8番（新澤明美君） 事故ということで、これは歳入が確保できるということなんでしょうか。
- 議長（新澤良文君） 榊井課長。
- 福祉課長（榊井貞男君） 国の接種体制確保事業費の項目の中に予防接種事故発生調査費という項目がございます、県のほうからもこの補助金の該当になるということで返事をいただいているものでございます。
- 議長（新澤良文君） いいですか。
- 8番（新澤明美君） はい。終わります。
- 議長（新澤良文君） ちょっと僕のほうから、これまず事故案件ということで、国に事故は事故として申請しないと下りないでしょ。今、申請されてるんですか。報告もしてないですよ。榊井課長。
- 福祉課長（榊井貞男君） まだでございます。

- 議長（新澤良文君） 加えて、これはうちは2か月ぐらい前の、2か月以上前の案件ということで、これ100%国からいただけるかどうかということ保証できるんですか。榊井課長。
- 福祉課長（榊井貞男君） 今のところ、県のほうに照会させていただきましたら、補助の対象になるということでございます。
- 議長（新澤良文君） 県のほうというのは、どなたにお尋ねされたんですか。榊井課長。
- 福祉課長（榊井貞男君） ワクチン対策室でございます。
- 議長（新澤良文君） カサハラ先生。カサハラさん。対策室の誰。担当課やねんから。榊井課長。
- 福祉課長（榊井貞男君） マニワさんという方でございます。
- 議長（新澤良文君） マニワさん。これ今回上がってきてるのは、コロナ接種体制確保事業費ということで上がってきてんのだけでも、国に申請されるのは事故ということで申請されるんでしょ。事故でよかったんじゃないですか、これ。何で事故と入れてないんですか。榊井課長。
- 福祉課長（榊井貞男君） 国の補助金の交付要綱の中で接種体制確保事業国庫補助金というのがございまして、その中の一つの項目として予防接種事故発生調査費ということになってますので、国の補助金の表題に合わせさせていただきました。
- 議長（新澤良文君） もう1点、この対象者の方1,479人ということなんだけど、この方らについては事故ということで認めないと国から下りないんですよ。僕、調べたところによるとね。今みたいにあやふやに念のためにじゃ下りないんですよ。その辺の認識は、事故は事故ということで認めはるんですね。榊井課長。
- 福祉課長（榊井貞男君） 最終的にこれは事故というふうに認めざるを得ないと思いますけども、ちょっと最終的な御判断は町長にお願いしたいと思います。
- 議長（新澤良文君） じゃ、これ何で上げてきてんの。担当課でしょ。そんな意思の疎通もできてないわけ、これは。認めるから、認めないとこれ下りないんですよ。厚生労働省に事故ということで届けないとね。今まだやってないじゃないですか、うち。後付けで2か月ぐらい前にやってしまいましたということ、隠蔽しとったわけやないけども、その後づけでやって下りんの。これ結構検査きついと、検査というか、あれはきついと聞いてんやけども、調べるところによると。そこら辺聞いとかなないと、もしかしたらうち持ち出しになる可能性が高いやんか。自分ら国からの補助だと、100%と言うてるけども、まだ報告もしてない、何の見通しもない中

で財源は国から補助いただきますということ言い切っているの。下りへん可能性が大やで、これ。厚生労働省も俺、電話してるけども。榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 万が一、下りなければ町の責任で一般財源ということも、国が認めていただかなければそうなってしまいますけれども、現時点では国の補助の対象になるものとして上げさせていただいているものでございます。

○議長（新澤良文君） そこ説明しとかないと、せやから事故ということで認めて、お認めになって申請するということでもいいですね。そうじゃないと下りないんやから。榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） もうおっしゃるとおり、これは事故として申請させていただくものでございます。

○議長（新澤良文君） だからお金だけをもらうために事故として申請するんじゃないし、もうこの今回の件は、これ事故やということお認めになるということによろしゅうございますね。もうばれてんのやからしゃあない。榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 文字どおり事故として申請させていただくものでございます。

○議長（新澤良文君） ほかに質疑ございませんか。森川副議長。

○1番（森川彰久君） 質問します。今この説明あった議第7号の事業内容についてなんですが、先日、10月9日付で奈良新聞で新たにコロナワクチン再冷凍の疑い接種ということで、ここには5月7日から6月15日の町内の特別養護老人ホームでの入所者、職員115人分、5月13日の町の集団接種95人分、9月15、22日の個別接種34人分、こういった方に対しても町は対象者に抗体検査を実施するという新聞記事が報道あるんですが、この取扱いは新聞報道のとおりと解釈しているんですか。それとまた、この対象者に対する予算申請、また新たに追加で補正予算組まれるんですか。そこらどうなんですか。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 今おっしゃった方々の分も含めまして、町の費用負担で抗体検査をさせていただくということで今回上程させていただくものでございます。

○議長（新澤良文君） 副議長。

○1番（森川彰久君） それは、ほんなら今回、今私言いました対象者、ここ明細に入っていないの。入ってるんですか。どの人数になってんの。

○議長（新澤良文君） 課長、答えたれや。榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 今おっしゃっていただいた対象者の方々の分も事業内容

に含めまして、この今回の金額の中に含ませていただいて上げさせていただいてるもんでございます。

○議長（新澤良文君） 7月25日、28日となってるでしょ。それが新聞報道あった分です。森川副議長。

○1番（森川彰久君） 新聞報道では5月と書いてますよ。5月7日。

○議長（新澤良文君） 特養の分か。

○1番（森川彰久君） うん。特別養護老人ホームでの入所者と職員115人分、6月13日の町の集団接種95人分、9月15日、22日の個別接種34人分、これ入っとるんですか。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 副議長おっしゃるとおり、入っております。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） どの部分に入ってるんですか。

○福祉課長（榊井貞男君） この事業内容の書類の中の、また、集団接種された方のうちの続きに、7月21日、7月25日、7月28日306人、その後、地域交流スペースいくせいで接種された先ほどおっしゃった95人、特養たかとりで接種された入所者及び従事者115人、へいせいたかとりクリニックで9月15日、9月22日に個別された34人の計1,479人ということで含ませていただいてるのでございます。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 了解。ということは、新聞には日にち、きちっと期日記載あったんですが、この事業内容の今、榊井課長回答あった95人と115人については、7月25日、28日とちょっと混同するような内容の報告であったので、そういう解釈聞きました。それ了解。これ付け加えさせていただきますけど、やはりこの新聞報道を見られて、数名のお方が、森川さん、議員さんやからどうなってるんですかいう、やはり皆さん心配されてるんで、不安を持っておられるんで、そういったことで再確認の質問させていただきました。一日も早く事実関係を説明していただきたい、要望しておきます。

○議長（新澤良文君） そこついでにあの臨時会で言うとなったらよかったやん。確定してんのやったら。ほかないですか。谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 委託料の内訳なんですけれども、感染症検査については一人当たりいくらか、それと抗体検査については一人当たりいくらかというのと、あと

この22節の償還金利子及び割引料23万5,000円、自己負担ということの補填になると思うんですけど、この内訳についてお聞かせください。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 抗体検査と感染症検査でございますけれども、抗体検査と感染症検査合わせて行う場合は単価が1万6,500円でございます。抗体検査のみの場合は6,930円でございます。

この償還金利子及び割引料で組ませていただきました検査費用自己負担償還金でございますけれども、基本は町で集団接種なりでさせていただこうとは思ってるんですけども、もし仮に個人的に、もう個別に医療機関でそういう検査受けたいというふうな方がおられて、もう既に医療機関で払ってきたという方がいらっしゃった場合に、もう一旦払われた領収書つけていただいて、その分を御本人に償還払いということさせていただけたらということで柔軟な取扱いをさせていただこうと思ひまして、償還金利子及び割引料でそういった費用を組ませていただいたものでございます。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） この23万5,000円の内訳ですよ、どの程度の人数を見込んでおられるのか。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） それにつきましては、一応、頭出しで抗体検査、感染症検査、両方受けられる方10人と抗体検査だけの方10人で組ませてはいただきますけれども、それ以上おられる場合は予算の中で流用するなり柔軟に対応したいというふうに考えております。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 当初にそういう詳細な説明をしていただければと思います。以上で終わります。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 説明不足で大変申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） ほかにございませんか。西川議員。

○2番（西川侑壱君） すみません。99名の感染症検査されると思うんですけども、それはどなたというか、どこか医療機関であったりだとか相談されたかというのと、先ほどの報告の中に恐らく梅毒は入ってなかったと思うんです。HIVとB肝、C肝しか入ってなかったと思うんですけど、梅毒の検査されるんですか、その確認

だけさせていただきます。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 検査機関につきましては、元々がん検診を委託している医療法人がございまして、それらに相談させていただきまして、させていただくという旨の内諾はいただいております。あと梅毒につきましては、今回入れさせていただいておりません。県の針刺し事故のマニュアルとかにも梅毒は入ってなかったということであるとか、あと有識者の方にお伺いさせていただきましたら、B型、C型、H I Vの検査は必要だということで、御相談させていただいた結果、梅毒は入れさせていただいてないところでございます。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） ちょっと有識者が僕もどなたかわからないですけど、普通は入れるかなと。僕、東京で医療機関で働いてましたけど、多分針刺し事故のとき検査してたんじゃないかな。ちょっとごめんなさい、僕も怪しいですけども、一般的に検査されてないという認識で大丈夫ですか。

○議長（新澤良文君） 榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 針刺し事故、今回コロナ接種に当たりまして、県のほうでも、もし、万が一そういう場合はどんな検査が必要やろうということで、いろんな資料が書いてましたけども、それらも確認させていただきましたら、B型、C型の肝炎とH I Vの検査が必要であるというふうにお伺いさせていただきましたので、それを受けまして、上程させていただいたものでございます。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） わかりました。有識者であったり、医療機関の方がそういうことを言っていたらであれば、それで間違いはないと思うんで、わかりました。すみません。

○議長（新澤良文君） ちょっと有識者ということ、僕ちょっと質問するけど、有識者は誰のこと言うの。榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） すみません。医師の方でございます。

○議長（新澤良文君） 誰ですか。

○福祉課長（榊井貞男君） 町内の奥村先生であるとか、あと医大の先生でございます。

○議長（新澤良文君） 奥村先生はH I Vの検査も必要ないという認識やったけども、これも感染症対策本部会議でこのように聞いてんねんけども、じゃ、そういう認識

の人が有識者と。ちょっと個人的に聞いている人と、個人的に僕調べたんで、ちょっと言わせてもらいますね。本来針刺し事故でどういう調査するか。針刺し事故は、いわゆる針刺し事故に準じて対応すればよい。肝機能検査、肝炎ウイルス、H I Vウイルス、R N A抗体を約1年追えばよいだけですという、これが本来のマニュアルという、医師的なね。1年追うと書いてありますが、この辺は1年追われるんですか。というのはこの前、新型コロナウイルス感染症対策本部会議なるもので僕も質問させていただいたんですけど、医大の看護師等々の医療関係者の間では常識なんですよね。点滴等で例えば針、指先突いた場合は1年間追うんですよ。これ本町はやるんか、やれへんのかと。それで僕がこの質問させてもらったときに、高取町の医師会の会長の方の発言覚えてはりますか。覚えてない。いてたよね、感染症対策本部。

○福祉課長（榊井貞男君） はい。

○議長（新澤良文君） どない言うてはった。えっ、専門家の意見、感染症対策本部会議で聞いてたんでしょ。せやから専門家の意見を参考にと言うてんのに、もう忘れたん。どない言うてはったんですか。有識者というのは、課長がおっしゃった方はどう言うてはったんですか、僕がこの質問したとき。僕は、医大等々の医療関係者に調査したところ、これは1年間、針刺し事故というのは何度も何度も感染症検査をするということ、これは常識ということなんですけど、どうなんですかとお尋ねしたときに、有識者という方が回答されましたよね。そんなことメモか何か控えて置いとるでしょう、有識者の意見なんやから。覚えてない。覚えてないんだったら覚えてないでもいいよ。榊井課長。

○福祉課長（榊井貞男君） 申し訳ございません。ちょっと今思い出せません。

○議長（新澤良文君） その有識者の意見というのもそれは十分に認識してないということやんか。その辺どうするんですかということ。これ、まあええわ。百条議会で、これはこれで通さんかったら取りあえずあかんねんから、町民の安全守るために、取りあえずは。あとそやからどうするんかということも町長に質問しますわ。ほかに何かございますか。ただ、せやけど、有識者というて、有識者の意見を聞いたと言うんであれば、有識者の意見ぐらい覚えとけよという話ですよ。メモするなりなんなりして。ほかないですか。

〔「なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 下がってよろしい。

これより討論を行います。討論はありませんか。

〔「なし」の声起こる〕

- 議長（新澤良文君） 討論なしと認めます。これで討論を終わります。  
議題となっております本案について、これより採決を行います。  
原案どおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

- 議長（新澤良文君） ありがとうございます。全会一致で本案は、原案のとおり可決されました。

- 
- 議長（新澤良文君） 次に、ここで暫時休憩をいたしまして、再開後は10月5日に引き続きまして、新型コロナウイルスワクチン接種に係る・・・、そうか・・・。  
次に、総務課より報告事項がございます。先ほど議会開会前にお配りさせていただいた資料に基づいて報告させます。芦高総務課長。

- 総務課長（芦高龍也君） 失礼します。総務課から1点御報告させていただきます。  
先ほど、お手元に資料をお配りさせていただきましたが、給与等請求事件の内容につきまして、私のほうから説明をさせていただきます。

令和2年4月21日に給与等請求事件について訴えがあった事件ですけれども、訴えの内容を簡単に御説明させていただきますと、元職員は、令和2年2月27日に盗難等無償譲受け罪で吉野警察署に逮捕され、翌日に釈放されました。本町といたしましては、元職員の刑事処分が決定する間、2月27日以降は本人の了承を得た上で代理で欠勤届を提出し、欠勤届に基づく自主的に欠勤したとして取扱いをいたしました。そのため、2月分支払い済給与から27日と28日の2日分給与の返金、そして3月分の給与の支払い停止による社会保険料等の引き去り類の納付を通知し、本人から納付されておりました。

しかしながら、元職員の主張は、令和2年3月2日以降も出勤しなかったのは、高取町が元職員に対して自宅待機命令を命じたためであり、自分は欠勤届を代理で書いてもらうことは了承していないということで、返金をした2月分の給与2日分と3月分未払いの給料を支払えという訴えを起こされました。

判決につきましては、令和3年9月30日に言い渡されました。判決結果につきましては、1、2月27日と28日は欠勤していることが認められることから、2月分給与の返金請求は認められない。3月分の給料とこれに対する令和2年3月20日から支払い済みまで年5分の割合による金員を支払うこと。訴訟費用は、元職員が10分の1、本町が10分の9を負担すること、という判決内容でございました。

判決内容を報告させていただきますと、本町の主張としては、欠勤届提出について元職員の承諾を得た上で代理で欠勤届を作成しましたが、このことについて元職員の意思を慎重に確認し、これを記録化するなどの措置を講じておくべきであり、その手続がなされない以上は元職員の欠勤は町からの事実上の自宅待機命令に当たると判断されたものでございます。

今後の町の判断といたしましては、今回このような判決結果になったことにつきましては真摯に受け止め、この判決に対して控訴しないことを報告させていただきます。

また、今後このような事案が発生した場合は、当事者から意思を慎重に確認し、それを記録化するなどの手続を取り、確実に書面を求めるなど対応していきたいと思っております。

また、今回の裁判に係る費用などにおきましては、裁判所から金額が確定次第、通知が届くと思っておりますので、補正対応をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。私の報告は以上でございます。

○議長（新澤良文君） これいくらというの説明しとったほうがいいん違うの、金額。総務課長。

○総務課長（芦高龍也君） 一応請求されておる金額ですね、3月分の給料は31万4,300円、あとプラス5%の金利なんですけど、約2万3,000円、それと印紙代等の裁判費用として、ちょっとこれは確定ではないんですけども、約40万円前後になる可能性があります。

○議長（新澤良文君） いや、せやから、だからこの件についてはまた皆さんに御理解いただかんあかんと思っておりますけど、というぐらゐの説明はしとったほうがいい。個人的に払うの。

○総務課長（芦高龍也君） いえ。

○議長（新澤良文君） でしょ。

○総務課長（芦高龍也君） 一応、今説明させていただきました40万円前後に係る費用につきましては、金額が確定次第、補正対応をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

○議長（新澤良文君） それを言う。そこまでちょっと細かく説明しとかなあかん。この件について、どなたか御意見ございませんか。

○1番（森川彰久君） 1点だけ聞こうか。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

- 1番（森川彰久君）　この中で代理で欠勤届を提出して、この代理はどなたが代理で提出された。
- 議長（新澤良文君）　芦高総務課長。
- 総務課長（芦高龍也君）　環境事務所の所管は住民課でございますので、住民課長が代理で行ったということになります。
- 議長（新澤良文君）　森川副議長。
- 1番（森川彰久君）　弁護士費用。これ印紙代、何ですか、本町は10分の9負担。この請求金額に対する裁判費用みたいな僅かな金額やと思います。大きいのは弁護士費用です。弁護士費用いくらですか。
- 議長（新澤良文君）　芦高総務課長。
- 総務課長（芦高龍也君）　今、私どもの判断でさせていただいておる弁護士費用につきましては、令和2年の6月議会に報告させていただきましたとおり、着手金が確か33万円やったと思います。それを流用させていただきまして着手するというのを報告させていただいておりますのと、今回まだちょっと弁護士と話はできていないんですけども、敗訴してますので、費用はかからないとこちらのほうでは判断させていただいております。
- 議長（新澤良文君）　森川副議長。
- 1番（森川彰久君）　他所の市町村でも裁判事例に伴う弁護士費用というのを減額をお願いしてるとかというような話も多々聞いて、現に減額している事例もあります。本町においては、高取町土地開発公社の問題では多額の、何千万、1億以上の弁護士費用も払っておられると思いますので、同じ弁護士さんやと思います。ちょっとまけてくださいというぐらいの交渉はされたらどうかと思います。以上です。課長、すみません、答弁を。
- 議長（新澤良文君）　答弁できんの。総務課長。
- 総務課長（芦高龍也君）　今、副議長から御指摘のありましたとおり、私どももそういう形で交渉していきたいと思いますので、御理解よろしくをお願いします。
- 議長（新澤良文君）　ほかにございませんか。
- 〔「なし」の声起る〕
- 議長（新澤良文君）　それでは、ここで暫時休憩をいたしまして、再開後は、10月5日に引き続きまして、新型コロナウイルスワクチン接種に係る事故の実態と町幹部の関与についての調査を行いますので、本日出席要求しました証人に入室いただきます。暫時休憩。

午前 9時39分 休憩

午前 9時52分 再開

---

○議長（新澤良文君） 再開いたします。

10月5日に引き続きまして、これより新型コロナウイルスワクチン接種に係る事故の実態と町幹部の関与についての調査を行います。

本日出席要求しました証人は、中川町長、植山保健センター所長、松本保健師、濱坂保健師、藤原保健師の計5名ですが、植山保健センター所長は、これはもう検査のため欠席でございます。また次回に証人尋問いたします。したがって、本日は4名の証人に出席いただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

証言を求める前に証人の皆様に申し上げます。証人の尋問につきましては、地方自治法第100条の規定があり、これに基づき民事訴訟法の証人尋問に関する規定が準用されることになっております。これにより証人は、原則として証言を拒むことはできませんが、次に申し上げる場合には、これを拒むことができることとなっております。

すなわち、証言が証人または証人の配偶者、4親等内の血族、3親等内の姻族もしくは証人とこれらの親族関係にあった者、証人の後見人または証人の後見を受ける者の刑事上の訴追または処罰を招くおそれのある事項に関するとき及び医師、歯科医師、薬剤師、医薬品販売業者、助産師、外国法事務弁護士を含む弁護士、弁理人、弁護士、公証人、宗教、祈祷もしくは祭祀の職にある者、もしくはこれらの職にあった者がその職務上、知った事実であって黙秘すべきものについての尋問を受けるとき及び技術または職業の秘密に関する事項について尋問を受けたとき。以上の場合には証人は証言を拒むことができます。

また、公務員または公務員であった者が、職務上の秘密に属する事項について尋問を受けるとき、その監督官庁の承認を得る前は、証人は証言を拒むことができます。これらに該当するときは、その旨お申出をお願い申し上げます。それ以外には証言を拒むことはできません。もし、これらの正当な理由がなく、証言を拒んだときは、6か月以下の禁錮または10万円以下の罰金に処せられることになっております。

さらに、証人に証言を求める場合には、宣誓をさせなければならないことになっております。この宣誓につきましても、次の場合はこれを拒むことができることとなっております。

すなわち、証人または証人の配偶者、4親等内の血族、3親等内の姻族もしくは証人とこれらの親族関係にあった間、証人の後見人または証人の後見を受ける者に著しい利害関係がある事項につき尋問を受けるときには、宣誓を拒むことができます。それ以外には拒むことはできません。なお、宣誓を行った証人が虚偽の陳述をしたときは、3か月以上5年以下の禁錮に処せられることになっております。

以上のことを御承知お願い申し上げます。

法律の定めるところにおきまして、証人の皆さんそれぞれに宣誓を求めます。

宣誓の後、証言を求めることとなりますが、証言は証言を求められた範囲を超えないこと。また、発言の際には、その都度、議長の許可を得て、発言をいただきますようお願い申し上げます。

また、証人は議員に対して反論や質問することはできないこととなっておりますので、御了承をお願いいたします。ただし、尋問内容が不明確であり、それを明確にするための発言は認められております。

この際、議員各位に申し上げます。本日は、重要な問題について、証人から証言を求めるものでありますので、不規則発言等、議事の進行を妨げる言動のないよう御協力をお願い申し上げます。議員の発言につきましては、証人の人権に十分留意されますよう、併せてお願いいたします。

また、証人への尋問は正当な理由がある場合を除き、次に述べる質問は制限をいたします。1、証人を侮辱し、または困惑させる質問。2、誘導尋問。3、既にした質問と重複する質問。4、争点に関係のない質問。5、意見の陳述を求める質問。6、証人が直接経験しなかった事実についての陳述を求める質問。以上、御留意の上御発言ください。

それでは、ただいまより尋問に入ります。

これより証人から証言を求めたいと思います。

なお、今お揃いの証人におかれましては、公務もあることから尋問をお受けいただく方のみ入室いただき、ほかの皆さんにおかれましては順番が来るまで通常業務をされながら待機していただき、尋問終了後は退室いただくこととしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声起る〕

○議長（新澤良文君） それでは、最初に、松本保健師、藤原保健師、濱坂保健師、そして中川町長、この順番で証言をお願いいたします。

それでは、松本証人以外の方は御退席ください。

それでは、松本証人、宣誓の上、宣誓書に署名、捺印をお願いいたします。

- 証人（松本聖子君） 宣誓書。私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓います。

〔松本証人 宣誓書に署名、捺印〕

- 議長（新澤良文君） それでは、松本証人にお尋ねいたします。ワクチンの取扱いや接種についての研修体制についてお尋ねいたします。

いろいろな議員さんから御質問がございましたけども、ズームによる国や県の会議が頻繁にあったそうですが、保健センターの職員は参加していましたか。そして、ほかにはどなたが参加していましたか。松本証人。

- 証人（松本聖子君） 国からの当初のズーム会議には、保健センターは職員3名全員で参加をしておりました。案内については、当時、総務課、福祉課のほうに共有をしておりましたので、本庁においても関係する職員のほうが視聴参加されていたと認識しています。その後、プロジェクトチーム発足後は、県からの案内がプロジェクトチームのメールを通じて受け取るような形に次第に変更になりましたので、プロジェクトチームがまた視聴メンバーに加わったように記憶しています。

- 議長（新澤良文君） いろいろな議員さんから保健センターが意思の疎通ができてないとか、伝達事項はされてなかったからこういう事故が起きたんじゃないかという質問もされたわけなんですけども、ワクチンの取扱い、接種についての研修等々には、ほかの総務課、そして福祉課、そしてワクチンプロジェクトチーム発足後は、ワクチンプロジェクトチームも参加していたという認識でよろしゅうございますか。松本証人。

- 証人（松本聖子君） そのとおりです。

- 議長（新澤良文君） この件につきまして、また先ほど申しましたとおり、保健センターとワクチンプロジェクトチームあるいはこのワクチン接種に関わった職員との意思の疎通、伝達等々ができてない、こういった指摘をされる議員さんがいらっしゃるんですけども、この件についてどう思われますか。松本証人。

- 証人（松本聖子君） 意思の疎通となると、かなり漠然としたところなんですけども、会議の内容についてはお互いが同じものを視聴している、その同じ時間を共有しているということで、復命書などのやり取りに関しては当初行っておりましたが、各々必要な業務というところで確認を、お互い同時に国からの指示を受けていたと考えています。細かな町の体制をつくっていくということに当たっては、私の主観にはなりますが、今どういう動きがあるのだろうとちょっとわからない、わかりに

くい部分というのは正直あったことは否めませんが、都度、確認をしてチームの方、本部の方に指示を仰いだり、こちらの意見を機会のあるときには伝えるというような形であったのですが、私自身がプロジェクトチームに在籍している状況ではなく、保健センターの通常業務をこなしながら、というところでありましたので、密に連絡が受けられていたかというところ、そうでない部分というのはたまにあるんじゃないのかなというふうに感じます。

- 議長（新澤良文君） 本町のこのワクチン接種体制等々に関することに関しましては、それぞれ行き違いもあった部分もあるかと思うのですが、そもそもワクチン接種についての基本的な国から、あるいは厚生労働省から、あるいはファイザー等々のメーカーからというのは、この指導というのは一貫してまして、それは伝達がうまくいってないであるとか、そういうことには当たらないと判断されると思うんですけども、この辺はどういう御認識をされておりますか。松本証人。
- 証人（松本聖子君） 国からの研修内容については、伝達というよりは、国からの指示を理解して町としての体制をつくるということですので、その部分には当てはまらないと思います。
- 議長（新澤良文君） この体制というのは、本町については例えばワクチンを事前にシリンジを用意しておくとか、事前に運んでいるとか、そういう体制については各自治体、市町村ごとに異なると思うんですけども、このワクチンの取扱い、あるいは接種方法ということについては、これもどこも同じと判断してもよろしゅうございませうか。松本証人。
- 証人（松本聖子君） おっしゃるとおりだと思います。国のズーム会議の際には、ファイザー社の方が来られて、自社のワクチンの取扱いについて丁寧な説明を設ける時間帯もありましたので、そのように思います。
- 議長（新澤良文君） 次に、ワクチンの管理責任者は保健センター所長の植山さんとのことですが、ワクチンの接種担当責任者はどなたですか。松本証人。
- 証人（松本聖子君） ワクチン接種事業については、プロジェクトリーダーが責任者であると認識しています。
- 議長（新澤良文君） 具体的に名前申し上げますと。
- 証人（松本聖子君） 石尾プロジェクトリーダーです。
- 議長（新澤良文君） 次に、家庭用冷蔵庫の購入や家庭用冷蔵庫での薬液の保管、棒温度計での温度管理などが保健センター、植山所長の指示であるとの認識や証言があります。このことについて知っていることを述べてください。松本証人。

○証人（松本聖子君） 指示であると今質問でおっしゃられた言葉には個人的に違和感がとてもありました。家庭用冷蔵庫の使用については、保健師職でも大丈夫なのかという話を接種前の準備の段階ですることがありましたが、国の手引にも温度管理が取れる冷蔵庫であれば構わないと、家庭用冷蔵庫は使ってはいけないという文はありませんでしたし、実際全国の医療機関さん、小規模であれば家庭用冷蔵庫を使用しておられるという実態も知っておりましたので、温度管理というところについて慎重になるべきであって、家庭用冷蔵庫を一切使ってはいけないということではないというような話をした記憶があります。そのためにデータロガーと言われる温度管理できる機械を保健センターで購入し、お渡しをしたもので、棒温度計をと今おっしゃっていただいたんですが、棒温度計がいつどなたが購入されたかというのもちよっとわかりませんで、私も接種業務に入ったときに冷蔵庫に棒温度計が入ってるのを見て初めて、あっ、これが入っているんだなというふうに感じました。棒温度計のことについて少し思い返してみたんですが、確かに保健師職同士で話しているときに、一医療機関さんに保健事業の他業務として病院を訪れる機会のあるときに、それこそ4月とか、実際の接種業務が始まる前の時期ですが、ワクチン管理をしないといけないから、うちの病院では道具ないから、こうやって温度見てんねんというような形で見た記憶はありますが、実際に接種業務に棒温度計を使われているというところは確認したのもでもございませぬし、情報として持っていたものではないので、データロガーを購入するということでしか温度管理は保健センターとしては想定しておりませんでしたので、保健センター、植山所長の指示でというところには違和感を感じました。

○議長（新澤良文君） 何か保健センターの責任が、という認識されてる議員さんが多いみたいなんですけども、例えば御所市のほうで家庭用冷蔵庫が使われていたについても、何かそれが保健センターあるいは植山所長、これは植山所長御自身にも伺わないと、松本証人はわからないことかもしれないですけど、保健センターがあたかも御所市の例を挙げて家庭用冷蔵庫でも大丈夫ですよと、もしくはまた加えて棒温度計でも温度管理できますよということを行ったという証言が今のところ上がってきて、それについての質問等々は議員の人からございますけども、この御所市云々という話はどなたからどういうふうな話になって出てきたんですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 今、御所市という名前をいただきましたので、恐らくは予防接種事業、健診事業に関して御所市医師会様と委託契約をする際、私が御所市内の医師会長さんの医療機関にお伺いをして、そのときに先ほど申しました冷蔵庫を見

せてくださったという場所になりますので、その一つのエピソードトーク的なところであるかと思えます。御所市という形で大きく名前が出て、当該市に迷惑がかかるのはすごく申し訳ないなという思いでおります。

○議長（新澤良文君） 御所市のほうには僕、確認に行きました。医療用冷蔵庫等々、ワクチンについて、ワクチンを保存、保管してる冷蔵庫は5台あって、医療用冷蔵庫が3台、そして家庭用冷蔵庫は2台使用されてるらしいんですけども、御所市さん、家庭用冷蔵庫には必ずデータロガーを入れてますと、うちはそんな高取町みたいなことしませんというような回答だったんですけど、本来このワクチンについては、取扱いといいますか、全体的な条件で申し上げますと、やはり冷蔵においては2度から8度という温度を確実に記録に残るような形で保存しなければいけないという厚生労働省からの指導、問い合わせたらそうなんですけど、保健センターについてもそういう形で認識されておりますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） ワクチンの冷蔵保存温度は2度から8度と、当初の国からの説明会、またファイザー社担当者のズームでの説明会でもそのように指示がありましたので、その温度帯を確保できるもの、担保できるものという認識でございました。

○議長（新澤良文君） 次に、ワクチンを保健センターのディープフリーザーから出して、リベルテホールへの移送方法についてお伺いします。先日から尋問でワクチン管理をしている保健センターの、特に植山所長からの情報提供不足や指導不足により7月16日の再冷凍の事故が起こったとの指摘がありますが、どのようにお考えですか。植山所長がおられませんが、わかる範囲でお答えください。松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。今の御質問なんですけど、16日の事故というのが16日に冷凍庫に入れたことであるのか、その後、使用となったことであるのか、ちょっと私の中でもはっきり整理ができてないのですが、16日に私が聞いた部分ですと、運搬された後、チームのメンバーの方から冷凍庫に入れたけど、大丈夫かという問合せが保健センターの植山所長に質問としてあり、その際、再冷凍に該当するということで指摘をし、使用してはいけないとその時点でお伝えをしているので、再冷凍という事態が起きてしまったことについてではなく、住民さんに使うことになってしまったということにおいて言えば、保健センター所長は指示を出されていたのではないかと考えています。私もそのようにお伝えをしました。

16日、運搬したとき、夕方冷凍庫に入れてしまったということについては、7月の時点で5月から集団接種を実施している担当者が受け取りに来たときに、情報提供シート、無論国からの指示でお出しするものですし、全く扱いを知らない方が来

るという想定が私の中にもなかったですし、16日にワクチンを取りに来られたのが初めて見る方、初めてワクチンを扱う方であれば、無論4月から実施してきている中で、こうです、これが6本です、これが希釈用です、というような形で御説明はさせていただいております。

○議長（新澤良文君） この情報提供シートですね、9月29日に提出を受けた情報提供シートについて、用紙の左側はワクチン管理者である保健センターで記入し、受け取りの署名を受けておられます。右側は空白になっていますが、誰がどのように記入するものですか。また、受渡し後のワクチン管理者は誰になりますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 用紙の右側については、ワクチン受渡し後、受け取られた施設で使用実態を確認するために記録していただく用紙ですので、保健センターが保管する情報提供シートは右側の使用欄は常にどこの施設であっても空欄の状態でお渡しをしているものになります。ですので使用実態として、ワクチンを受け取った側の施設さんなりがどのように使ったかを確認するため、記録するために使用されるものになります。

○議長（新澤良文君） 本町におきましては、この情報提供シートについて、先ほど松本証人のほうから証言がございましたけども、空白のまま、何も書いてないということは判明しましたが、これはこういう取扱いでいいんですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 取扱いについては、その欄を御利用くださいということで様式として設けられていますので、そこに記入をされている施設、医療機関さんも無論あると思います。ただ、施設なり接種会場の管理体制として、いや、このシート、紙ベースでなくデータで管理したいんだとか、違う形で接種実態をきっちり確認をされていることもあるのではないかとと思います。ただ、どう使ったか、いつ使ったかを確認していないということはまずないのではないかと考えています。

○議長（新澤良文君） 今のところ、この右側の空白の欄につきまして、データ、あるいは違う形で使用日、使用本数、残り本数等々記入した、あるいは記録に残したものは出ておりません。今、松本証人の証言の中では、この紙に書くか、もしくは何かの形で残しておくかということなんですけども、本町においては残してないという可能性もあるかと思われるんですけども、これは記録等々は残さずにでもいいものなんですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 使用実績は、後に県を通じてワクチンの調査、事業実態の調査などでも問われてくる部分にも関係しますので、情報提供シートに必ずという形

ではなくても、いつ出したものがいつ使われたのかという記録は必ず必要なものと思われま

○議長（新澤良文君） 次に、この温度管理という部分についてお尋ねします。新聞等々の報道でもございましたけども、本町においては、もしかすると温度管理ができてないワクチンを住民の方、町民の方にそれを知ってて接種したという可能性があるという新聞報道等々がございましたけども、これについて何か知ってることがございましたらお聞かせください。松本証人。

○証人（松本聖子君） 新聞報道などを詳しく私も把握できておりませんが、16日のワクチンについては、私・・・。

○議長（新澤良文君） いやいや、16日じゃない。

○証人（松本聖子君） すみません。温度管理。

○議長（新澤良文君） せやから今、新聞報道でされてるのは、7月25日、7月28日というワクチン、この管理方法についてということで奈良新聞で出てるんですけど、これについて何か知ってることがあればお聞かせください。松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。温度管理については、リベルテホールでの接種前の段階でデータロガーの数字が逸脱するという情報がありましたので、そこをクリアできてない、そこをクリアせずに事業を継続していたという点においては、御指摘があってもやむを得ないという語弊がありますが、認識がなかったのかと問われたときに全くなかったと言えないのではないかと思います。

○議長（新澤良文君） このデータロガーについて、7月15日に家庭用冷蔵庫を購入した。そして当然次の日からその家庭用冷蔵庫を使用する、ワクチン接種の保管に使用するという事だったんで、データロガーで記録を残した。ところが、このデータロガーの記録の中では絶対満たさなければいけない要件である2度から8度という温度管理ということができなかった。温度が安定しなかったということで、データロガーを外して、棒温度計で温度を管理するようになったということなんですけど、これ僕もちょっとプロジェクトチームの言うてる意味がもう一つ理解できないんですけど、普通考えると温度管理ができてないデータロガーで測って、できてなかったということであれば、このデータロガーの故障という、こんな証言まで出てるんですけど、故障してるのであればまた違うデータロガーで温度確実に2度から8度で保存できるというのを示さないと、これは保管できない冷蔵庫ということになってくるんですけども、そもそもデータロガー故障していたんで外しましたということなんですけど、このデータロガー故障しとったんですか。松本証人。

- 証人（松本聖子君） 冷蔵庫の測定値が逸脱しているというところで故障してるんじゃないかと言われ、一度保健センターの医療用冷蔵庫で温度をデータロガーを入れて測りましたが、故障という数値は医療用冷蔵庫では出ませんでした。ですので、故障ではないということで、再度データロガーはまたリベルテホールのほうにということでお渡しをしておりましたので、いつの段階でそのロガーを外されたのか、外す判断がいつなされたのかということは存じておりません。
- 議長（新澤良文君） プロジェクトチームでの証言の中で、このデータロガーに関しては江口証人が外したと、私の判断で外しましたという証言をされてるんですけども、ちょっとこの温度管理、頭の中整理しますので、温度管理が、15日に冷蔵庫を買った。次の日に使う冷蔵庫買った。データロガーで温度を測ったけども、2度から8度という安定はしなかった。だからデータロガーを外した。データロガーが故障してるということでデータロガーを外した。ところが、保健センターに持って帰って、保健センターがデータロガーの確認したらデータロガーは故障していなかった。その後にデータロガーで温度を測らずに棒温度計で温度管理をしたということなんですけども、これらについて保健師の立場として証人はどう思われますか。松本証人。
- 証人（松本聖子君） 国の説明にのっとれば、データロガーと家庭用冷蔵庫は一体のものという形での運用が必要だと思われしますので、ロガーを外す時点で家庭用冷蔵庫の使用形態、実施体制を見直すべきであったと思います。
- 議長（新澤良文君） この件については、担当した証人等々は、この件について、データロガーを外した等々については何か意見等々は言わなかったんですか。松本証人。
- 証人（松本聖子君） 外されたということを私が知ったのが、25日の接種に薬液充填担当で勤務された植山保健センター所長から翌日の勤務した後に聞きました。私が7月18日に勤務した際はロガーはつけられていた状態でしたので、外されているということを知るまでの間もその使用が継続されているという状態であったこと、それから意見として述べたかという御質問ですが、対策チーム本部などに強く訴えるということができずにいたとは思いますが、ロガーを外して大丈夫なのかというところは、すみません、記憶が大分あやふやなんですけども、ロガーが外されているという状況で使用しているということの危険性は恐らく認識している者はいました。
- 議長（新澤良文君） 証人は、このロガーを外された状況というのは、25日の後

の26日ですか、に把握したということによろしゅうございますね。その上で、この新聞等々で御指摘がある内容もそうなんですけども、今の証人の証言等々を聞いておりますと、本町においては不適切な温度管理の中で、そういった温度管理をきちっとした形をしてないワクチンを知ってて町民に接種したということに当たるんじゃないかと思うのですが、どう思われますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 御指摘のとおりかと感じます。

○議長（新澤良文君） 証人も保健師というお立場で、町民に対してどういう健康被害があるかどうかということもわからない、この温度管理をしていないワクチンを知ってて、認識しながら打ったということで、大変罪深いと思いますけども、何かこの現場の中で、あるいは対策本部、証人は対策本部会議には入ってないと思うんですけども、この現場の中で何とかこれ止める方法はなかったんですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 対策本部の会議は、会議録で出されているものを文字として見させていただいたり、あとはプロジェクトチームにも在籍をしているわけではない状況ですので、意思決定とか体制の決定というのがどういう形で行われてきたのかというのは知り得るところではありません。ただ、国からの説明等々、製薬会社の説明等々を同じタイミングで同じ情報を共有しているメンバーは、この事業に携わっているというところの前提がなかったということであれば、危険性は本当に大きかったんだなと改めて思います。

○議長（新澤良文君） この件については、対策本部会議にも上がってきてもおりません。今ちょっと思うんですけども、現場の中で何とかこの25日、26日のときに、25日か、確認したときに、そうか、その後、対策本部会議等々で御発言がいただければ、もう少し早く町民に対する感染症検査であるとか、抗体検査であるとかいう対策もできたかと思うんです。新聞や週刊誌でリーク等々されずに、対策本部会議の中で議論できたと思うんです。その点については、僕は勇気を出して対策本部会議、これも証人じゃなしに、植山証人のほうに僕は言おうと思ったんですけども、対策本部会議に入っていないとはいえ、証人も現場の声を何とか上司にということで上げてほしかったなというのが今率直に思うことなんですけども、何とかこの方法というのはなかったんですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 対策本部会議とプロジェクトチームの会議については、保健センター所長が出席されるメンバーに入っておりましたので、ここの部分はちょっと不安だとか思うところは保健センター内で共有をし、発言をしてくださっているというふうに思っておりますが、実際のところは会議の中でも思うような発言が保

健センター所長自身できずに帰ってこられることもあり、個人的なことでここで言うとはよくないのかもわかりませんが、かなり体調を崩されてお休みされるに至ったというところについては、会議に出てくれるというところに私は甘えてしまっていて、言いにくいようなことでも、これもあれもというような形でたくさん抱えてもらうような結果になってしまっていたというのをすごい強く感じましたので、私の声を決定されるその場所に届けるという方法は、今でも、すみませんが、思い当たりません。

○議長（新澤良文君） だからこれが伺い書という形で上がってくる等々の理由になった部分は、この再冷凍についてはそうなんですけども、この不適切な温度管理という形も伺い書等々で上司に報告するというような、伺い書もそもそも握り潰されてたということも証人は以前の証言でなされてたんで、その辺もちょっと難しかったなと思う中でなんですけども、だけど、それはそれとして、事実を伺い書等々で上司に報告するという手もあったんじゃないですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 7月11日の時点の伺い書、またその後、16日の再冷凍に関する書面のほうが今現在も手元には、私の上げた7月11日の伺い書については今もまだ手元に戻っていない状況です。今御指摘いただきました伺い書、書類という形で現場の声を上げるという方法を思い至らなかったのは、反省すべき点と受け止めさせていただきました。

○議長（新澤良文君） この伺い書の中で、厚生労働省健康局健康課予防接種室に対して新型コロナウイルス感染症に係る予防接種に係る間違い報告書というのがあるんですけども、これは以前の証言の中でもございましたけども、この事故が起きたときはこの報告書上げるというのは、これもう義務ということで承知してるんですけども、この7月11日の針刺し事故、そして再冷凍、そして温度管理等々については、今日、先ほどの本会議において感染症あるいは抗体検査等々の予算を議会として認めたんですけども、これは100%国からの補助がいただけるというような説明だったんですけども、これ事故報告書を上げないで国からお金が、助成がいただけるという、そもそもこの事故ということでお認めになったのであれば、これ厚生労働省健康局健康課予防接種室に報告する義務があるんじゃないですか。御認識等お尋ねいたします。松本証人。

○証人（松本聖子君） 今質問内容に含まれていましたとおり、事故が発生したときには所定の様式にのっとって国に、県をまたいで国のほうに報告をすべしというのは手引にも当初から載っております。ですので、7月11日時点の伺い書で重大な

健康被害の発生する可能性のある事例ということで報告書を作って伺い書につけました。今回、抗体検査、感染症検査に動いていただくための費用面のことですが、事故として報告していないものがその補助額にのるかということ、のらないのではないかと私の認識ではあります。健康被害とか間違い調査に関する費目は確かに補助要綱にも載っておりましたが、そこに計上、上げるとどういう事故で、どう体制取ったかということが必然的にひもづいてなされないと、事故がなかったのにこれだけの額補助くださいというのは通常通らない話なのではないかと思えます。すみません。ちょっと要綱自体を読み込めておりませんので、今の私の認識ということでお願いいたします。

○議長（新澤良文君） では、申し上げます。この高取町針刺し事故、そして再冷凍ワクチン、そして温度管理ができてなかったワクチンを接種したという、これは証人の認識の中では事故と考えたほうが、事故として報告すべき案件ということでお考えですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 報告案件に該当すると認識しています。国の所定の様式にもどのような事故かと事故種別のところに選択肢が11程度ありまして、その中の選択項目の一つに不適切な温度管理のワクチンという文言が含まれておりますので、報告案件かと思えます。

○議長（新澤良文君） それある。その11項目のもの、その書類等々ございましたら、また証拠として上げてください。それでは、次に、リベルテホールでのワクチン接種体制についてお伺いします。これまでの証言で、保健センターの職員が初めから初回のワクチン接種に関わってきていることがわかっていますが、なぜ保健センター所長であり、プロジェクトサブリーダーの植山所長や松本保健師が統括保健師なり看護師とならなかったのですか。やっぱり現場のことを一番わかっている2人がなかったのか。誰がこの接種体制に係るシフトを指示したのですか。また、統括看護師の責任については認識していましたか。松本証人。

○証人（松本聖子君） リベルテホールでの接種体制をつくるに当たって、町保健師、プロジェクトチームから大体これだけの人数が要るよという大枠のシートの提供があったように記憶しています。そこに保健センター職員として、当時というか、2名ですので、平日に関しては1名、日曜日もどちらか1名は出られるようにということで、保健センターの事業実施日以外は植山センター所長もしくは松本の名前を入れた形でプロジェクトチームに提出しました。その後、プロジェクトチームから渡されたシフト表を見ますと、統括保健師に保健センター所長が一度も当たること

はなく、入れますよと回答した日数の半分ぐらいの回数の少ない動員になっておりました。統括保健師の職というところで、もう文言どおり接種会場での医療職の責任を負う者という認識でしたので、個人的には保健センター所長が出動される回は統括職に入られるものと思っていましたので、提供されたシート、シフト表を見たときは驚きました。統括看護師という職の名前はあったんですが、実際にどこまでの範疇を統括の職が担うのかという当日の細かいマニュアルはありませんでしたので、何度かこの職に当たる者は何を、どこまでの責任を担うのかということで質問を投げかけた記憶はありますが、まだ決まっていなかったとか、まだ何もないよというような形で、確かなものというのをいただけたのは15日とか16日とかの。

○議長（新澤良文君） 何月。

○証人（松本聖子君） すみません。7月の16日にスタッフの説明会をされる予定でしたので、その前日の15日、物品搬入を兼ねて保健センターで集まったときに今できてるものというので見せさせていただいて、そこに保健師職集まっていたので、そこに保健センター所長は不在でしたが、保健師職3名おりましたので、ここはこれが必要ではないか、このやり方ではミスが発生する可能性があるというようなところの意見を出し合いながら、ぱっとその場でつくっていただいたというか、まとめていただいたように記憶をしています。

○議長（新澤良文君） 今の証言の中で2つちょっと気になる点があったんですけども、このシフト表を示されたときにびっくりしたと、まず1点、驚いたと。どのように驚いた、何が疑問だったのか具体的にお答えください。松本証人。

○証人（松本聖子君） もう個人的な部分になりますが、一保健師である私が統括職に入っているのに、それこそ保健センター所長が統括職でないのに、一保健師である私が統括職に名前を入れていただいていたこと。当日の動員のメンバーによってはそういうこともあり得るのかとは思いますが、一度も植山所長が入っておられないというのは、ものすごく驚きました。

○議長（新澤良文君） 統括看護師に植山所長は入ってなかったということでもいいんですかね。そのシフトというのは誰が組んだんですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） シフトに関しては、プロジェクトチームのほうで組んでいたおりました。

○議長（新澤良文君） プロジェクトチームの誰がどのようにというのを具体的に。松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。どなたが担当であったかというところは確実に

聞いたわけではないんですが、その後、派遣で来ていただく看護師さんの日程変更などについてシフトの調整お願いしたいときは、前田サブリーダーさんに伝えるようにと指示を受けたことがあります。

- 議長（新澤良文君） もう1点の疑問なんですけど、統括看護師の責任等々ということでもかなり議論されたということなんですけども、どういうメンバーというか、どなたがおられる中でどういう議論になっていうことお聞かせください。松本証人。
- 証人（松本聖子君） すみません。15日、デモンストレーションの前日の夕方、14日まで保健センターでの接種業務ありましたので、そこから急ぎ次の会場に物品を運搬するというので、その場にいたのがプロジェクトチームの前田サブリーダーと江口さん、それから保健師職の濱坂さん、藤原さん、私の5人であったと思います。
- 議長（新澤良文君） それでは、最後に、僕のほうから、この再冷凍のワクチンについて、証人は奈良県の松井さん、ファイザー社の遠藤さん、厚生労働省等々に問い合わせたということでございます。この問い合わせた、保健センターのほうと、プロジェクトチームのほうと、お互いに質問があって、そして答えが違うと。プロジェクトチームのほうは、ファイザー社がこのワクチンを使ってもいいと言ったので、このワクチンを使用したということをおっしゃっております。奈良県あるいはファイザー社、厚生労働省に対して証人はどのようなことを質問されたのですか。松本証人。
- 証人（松本聖子君） 当初の説明会等々で認識していた方法で私が再冷凍に該当すると思ったケースが、ファイザー社に問合せをした結果、使用可能という返事であったという時点で私が大きな認識間違いをしていたのではないかとということで、取扱いの改定が、もしくは取扱基準の緩和がなかったのか、あったのかということをおまは問い合わせようと思いました。そのときに問い合わせましたら、3か所ともにワクチンの取扱いは当初から変わっておりませんと。なぜこの今に、こんな時期になってこのような質問するのかといったときに、実はこうこう、4時5分にディープフリーザーから出したワクチンを5時とか6時の段階で冷凍庫に、4時半頃に保健センターを出て運搬されたその間、保冷ボックスにあったワクチンを冷凍庫に入れた場合、これは再冷凍に当たりますか、当たりませんかというように少し私が知り得ている状況を御説明をして回答を得ました。
- 議長（新澤良文君） 証人が知っている事実について、と申しますのは事前にファイザーあるいは厚生労働省等々からのこのワクチンに関する取扱いについて証人は

認識があった中で、プロジェクトチームが、これに異なると申しますか、これに違反する再冷凍行為をしたということ、これは正しいという判断をファイザーがされたということに疑問を感じて問い合わせたという、こういう認識でよろしゅうございますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） そのとおりです。

○議長（新澤良文君） このファイザーから、あるいは厚生労働省、県から、証人は実際にあったことを報告して、答えをいただいたという証言をされておりますけども、一方では、プロジェクトチームは違う証言をされております。これについて何か感じる事、思われることがございましたらお答えを。松本証人。

○証人（松本聖子君） 回答を得るための質問が異なれば、おのずと回答は変わってくると思います。ただ、私自身がワクチンを運搬した担当でなかったというところで、私が照会をかけた内容は回答に値しないという判断がなされましたので、チームのほうで、本部のほうで質問なされた質問内容についてはファックスでいただいた回答書にもなく、どのように質問をしたかというところを私たちも情報として与えていただいておりますので、恐らくこの状況で考えられるのは質問した内容自体が違ったんであろうということしか私にはわかりません。

○議長（新澤良文君） 百条調査権の発動においてファイザー社から情報というか、このときのやり取りの議事録が提出されました。ちょっと読み上げます。

7月19日、高取町役場、石尾様からの問合せ。金曜の夕方にマイナス70度の冷凍庫から出し、ワクチンを接種会場へ保冷バッグに保冷剤を入れて配送した。移動時間は約5分ぐらい。接種会場にてワクチンが入った箱の中の温度はマイナス15度より低い状態であることを確認し、マイナス18度の冷凍庫へ入れた。次、スタッフより再冷凍に当たるのではないかと指摘され、2度から8度の家庭用冷蔵庫に出した。対応は間違っていたのか知りたい。間違っていた場合、ワクチンを使用できないため、正しい対応について知りたい、こういう質問が石尾リーダーからありました。これも確認しております。

ファイザー社の回答。マイナス15度より低い温度が保たれていたということで、マイナス15度からマイナス25度であれば冷凍されておりますので、冷凍庫での保管で大丈夫です。（1）冷凍保存、本剤はマイナス90度から60度からマイナス25度からマイナス15度に移し、1回に限り再度マイナス90度からマイナス60度に戻し、保存することはできます。（2）冷蔵保存、2度から8度に戻されたということですので、再冷凍はできません。31日、1か月の間に御使

用ください、こういうのがファイザー社からの回答。まさにおっしゃるように、質問が異なるから回答は違う。

もう一つ、松本保健師から同じ日に入ったということもファイザーの記録にございます。読みます。7月19日、高取町保健センター、松本様からのお問合せ。本日、高取町役場からも同様の問合せ受けてるかもしれないが、マイナス75度ディープフリーザーから取り出し、国からいただいた保冷ボックスで輸送し、ワクチンを接種会場の冷凍庫に入れてしまった。今回4時5分にディープフリーザーから取り出して、保冷ボックスで輸送して、冷凍庫に入れたのは5時前後、6時に連絡があり、冷凍庫から冷蔵庫に移し替えた。もしかしたら町役場からは取り出したのが5分ぐらいだと言ったかもしれないが、町役場がファイザーに問い合わせた際に冷蔵で配送し、冷凍庫に入れたものを使用しても大丈夫と言われたらしい。本当か。保冷ボックスの温度は2度から8度で間違いはないか。町役場がどのような問合せをしたか教えてほしい。

ファイザー株式会社コミナティ製品担当者回答。添付文書上、解凍後は再冷凍しないことと注意喚起しております。コミナティの凍結融解に関する安定性は確認されておりません。なお、本剤を再冷凍した場合の使用可否につきましては、承認された用法、用量以外で用いた際の体内動態や安全性及び有効性の検討を行っておりませんので、適正使用の観点から弊社としては推奨しておりません。保冷ボックスがどのような温度帯になるか弊社では情報を持ち合わせておりません。個人情報のためお伝えできかねますという回答がファイザーのほうからされております。

このような回答で、まさに松本証人がおっしゃるように質問が違うから回答も違うということだと思えるんですけども、もう簡単に申し上げます。どちらがほんまですか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 前回ここでお答えさせていただきました内容、今ファイザー社が情報提供くださった内容を、私は、しか認識しておりませんので、私に御質問いただきましたら、4時5分にディープフリーザーから出し、4時半前後に保健センターを立たれ、5時ぐらいに冷凍庫に入れたよと聞いた、その答えが私の中での本当のことになります。

○議長（新澤良文君） この後、ファイザー、この後に厚生労働省、あるいは前後しますけど、奈良県のほうにも証人は連絡されておりますけども、奈良県においても厚生労働省においても同じ質問をされ、この伺い書にあるとおり、照会に係る回答概要という形で伺い書で報告されているとおりの回答を得たということによろしゅ

うございますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） そのとおりです。

○議長（新澤良文君） ここで私からの質問を終わります。

何か松本証人につきまして御質問がある方がいらっしゃったらお受けいたします。

西川議員。

○2番（西川侑壱君） すみません。何点かちょっとあるんですけども、1点目からいきましようか。データロガーの取扱い、ほかの方にもちょっと聞いてるというか、ここで聞いてるんですけども、高取町においてデータロガーどのように扱われたら正解というか、ちゃんとした扱われ方だったというふうに思っておられるか。また、その取扱いがほかの方々、みんな結構ばらばらしてて、江口さんであったりだとか、総合政策課のほうでも結構ばらばらしてるので、その辺りどのように統一するというふうになったのか教えてください。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） データロガーの使用目的というところでいいますと、国からの説明会でありました温度管理の記録という1点に尽きますので、温度管理が必要な冷蔵庫、ワクチンを取り扱う冷蔵庫には装着しておくものというふうに認識をしています。基本的には目視でできるその場での温度と、あとは記録の中に残った1分刻みの過去データというものが抽出可能な機械を購入しましたので、必要なときに振り返り確認ができるというような運用形態を想定しております。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） その内容をほかの証人の方々全然知らなくて、ごめんなさい、こんなん言うとなんなんですけど、その辺りを僕はちょっと共有不足やったのかなというふうなことで、ちょっと前はお話しさせていただいたんですけど、その辺りはしっかりとやっぱり共有する必要あったかなというふうに思います。あと何聞こう。データロガーの冷蔵庫内で温度を測る際、ちょっとこれインターネットのほうで調べたんですけども、袋に入れて温度測らなければいけないとかというのがあったというのは御存じですか。その辺は国からの説明。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。国からデータロガー自体の取扱方法というのは、製品がたくさんありますので、統一した見解はなく、購入したデータロガーの取扱説明書をもって確認作業、運用するということになるかと思います。ただ、温度測定する先端は、床というか、庫内の1か所につかないようにというところでの配慮

はなされていたのかなというふうに思いますので、ロガー貸出しの際、取扱説明書もありましたし、私たちもそれを見ながら確認作業させていただいたようなところが実際になります。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） ありがとうございます。見ている資料やと、やっぱり冷気の吹き出し口の近くであったりだとか、庫内の外に近い部分であると温度が安定しないだとか、特に冷氣吹き出し口のところに行くとマイナスにもなるということもあったりだとかして、その間、温度測る部分というのは袋に入れて測りましょうということが書いてあったりするものもあったので、その辺りまた3回目の接種に向けてどういう対応していくかというところは、やっぱり全体で共有していかなければいけないかなと思います。先ほど医療用冷蔵庫で見ると故障していなかったということをおっしゃられたと思うんですけども、それに関してデータロガーのデータは残ってますでしょうか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。短時間で温度が下がっていくところの過程を見たのと、本当にすぐにお返ししなければというところでしたので、すみません、データの抽出というところまでは及んでおりません。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） 残ってないという認識で大丈夫ですね。

○証人（松本聖子君） そうです。

○2番（西川侑壱君） わかりました。もし残ってたらと思ったんですけど、故障していないというところの確認をするのに残ってたら情報欲しいなというところで、ちょっと聞かせてもらいました。あと棒温度計で温度を管理したというところは、先ほどのお話だと、植山所長が今おられない中での質問にはなるんですけども、基本的にプロジェクトチームの中で、植山所長も含めてですけども、棒温度計のほうにするというふうな話になったという認識をされてるということで大丈夫ですか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） いえ、植山所長含めたプロジェクトチームと言われますと、恐らくそうではなかったのかなと思います。ちょっとその理由というところで、先ほどの質問でお答えをちょっとしそびれたの思い出したんですが、保健師職集まってリベルテでの運用を相談した7月15日夕方のとき、恐らくということを書いていいのかわからないですが、恐らく前田補佐、サブリーダーのほうからそのときに

打合せをしたいというようなことで御連絡をいただいたように記憶をしています。その際、電話口でしたけども、医療面においての実施体制を検討するのであれば、植山所長が参加されないとまずいのではないかと、もう声はかかっているんですかねというようなことで一度お尋ねはしました。そうしましたら、いただいた回答は、いや、その必要はないと、統括看護師がそろって相談をしてくれればそれでいいのでというところで、私にすれば直属の上司ですので、チームメンバーの上司参加されないのに私が呼ばれて行くというのかなり気が引ける思いはしたんですが、統括看護師という役割をいただいている以上、当日のことを知らずに職務に就くのはもうかなり不安でしたので、参加をしたというのがその経緯です。そういったやり取りがありましたので、棒温度計のことに关していいますと、すみません、保健センター所内での話にはなりますが、びっくりしたと、保健センター所長も、私も聞いてびっくりしましたし、わあ、懐かしいねみたいないうぐらいで、全く棒温度計で温度管理を行うという想定が、ロガーの貸出しもしてましたので、想定は全くなかったです。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） ありがとうございます。ということは棒温度計、誰の判断でされたかというのはまだわからないということなんですね。わかりました。あと、もう1点、ロガーを外したということ知ったの25日ということでお話しされてたと思うんですけども、故障を確認したのいつですか。故障じゃない。故障していないということ。ごめんなさい。失礼しました。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 20日の日に、すみません、もうかなり日付に関しては自信100%ではないのですが、18日に接種が終わり、20日の日には恐らく保健センターに故障じゃないかということで戻ってきたような記憶があります。接種の日程はどんどん控えてましたので、一度うちの、じゃ、医療用冷蔵庫で確認をしようというところで確認をして、医療用冷蔵庫の示す温度帯と同じく数字が出ましたので、故障ではないんじゃないかということでお戻しをしたというのが次の接種までの・・・です。ロガーをつけずに運用されるという想定はございませんでしたので、急ぎ必要な物品であろうという認識で急いでお戻しをしたというのが記憶でございます。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） すみません。わかりました。外したということを知ったのは

25日ということやったんで、ほかのロガー使ってるかもというような認識やったという、4つあると思います。4つあると聞いてて。

○議長（新澤良文君） いやいや、もう返してるもんな。松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません。ロガー全体として、町は4台購入させていただきました。高齢者施設等々も接種会場になっておりましたので、貸し出さなければならぬという想定の下での台数です。リベルテホールで使用される冷蔵庫1台でしたので、2台お渡しすれば十分であろうということで、その当ても数台、1台、2台ほかの施設さんのほうに事前確認目的で貸出しの御依頼ありましたので、チームさんが持っておられたロガーは2台になります。

○2番（西川侑壱君） わかりました。ありがとうございます。最後に、もう1点、シフト表についてなんですけども、シフト表は残ってますか。それまたちょっと見せていただきたいんですけども、可能ですか。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 看護職の動員できる日の入替えですとか、途中に行けなくなったということでかなりシフト表の入替え頻繁でした。提供いただいたものは、私自身も看護職さんにお伝えしないといけないことも多かったので、コピーとして控えは持っておりますし、あとチームのほうで作成された最新のものが共有フォルダーの中にありましたので、フォルダー内のデータの更新はプロジェクトチームさんしていただいていたんですが、私が取ってる、控えているコピーであればお持ちできますし、お渡しもできます。

○2番（西川侑壱君） わかりました。ありがとうございます。またプロジェクトチームのほうから証拠品として出していただくかどうか、また考えさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○議長（新澤良文君） シフト表は、証拠品として出してください。それと、それプロジェクトチームで言いますけど、先ほどの11項目事項について、それも証拠品として。どなたかほかに質問のある方は。谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 1点お伺いしたいと思います。今年の4月の段階でこのワクチン接種事業については、所管が福祉課保健センターということであったと思うんですけども、5月10日の時点でプロジェクトチームが発足しました。でも5月12日から、もう接種事業が始まるということで期間が短かったので、その点について副町長に聞かせていただいたときに65歳以上の担当については保健センターで、64歳以下についてはプロジェクトチームで担当してもらおうという発言があっ

たと記憶しておりますが、松本保健師の保健センターとプロジェクトチームの業務の違いの認識についてお伺いいたします。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 確かに65歳以上が先行の事業でしたので、保健センターで受付体制から接種券等々、当日の運用マニュアルについても作成は担当させていただいておりました。ですが、高齢者の方の予約の際には多大な御迷惑、御不便をおかけしたという反省もあったので、64歳以下については新しく全庁体制でやってくださる形になったのかなと思ってはおります。ただ、国のほうからは、想定される業務量が一担当、一係で収まるものではないので、当初から全庁体制をしきなさいという通達というか、通知のほうは出ておりましたので、その辺も検討いただいたの体制なのかとは思いました。業務分担についてなんですが、明確な業務分担というものが指示があったわけではありません。新しくチーム担われた方もそこからのスタートというところもありますし、当初から・・・の会議としても本部ももちろん入っていただいていたけれども、そこからスタートされたので、チーム発足後もしばらくの間は保健センターが諸々、一緒にさせていただいているような状態であったかと思えます。接種業務に係る当初、私が聞きますのは、64歳以下の方の業務全部をというような明確な指示は私自身は聞いてはなかったのですが、ただ、ホームページとかに発表されているような発足しましたというページを見て、ああ、こういった業務を担ってくださるんだなというふうに理解をしたような形です。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） もう1点だけ、今の説明なんですけれども、そうしますと4月の段階で福祉課保健センターだけで業務を担うのは難しいと思っておられたのか、全庁的にやっぱりそういうプロジェクトチームをつくってほしいとか、あればよかったというふうな思いはあったのかどうかお聞かせください。

○議長（新澤良文君） 松本証人。

○証人（松本聖子君） 無論、当初からございました。突然、年明けに接種を全国で推し進めるという方針が出まして、予防接種業務は保健センター担当しておりますので、当然業務のほうに入っていたんですけれども、すみません、これもかなり記憶あれなんですけど、3月頃には接種券を発送するという事で納品を受けるようなタイムスケジュールでした。年明けにぎっと下りてきて、この納品物が3月中にないと、というぐらいのスピーディーな感じで事業が動いてました。それまでに課長会ですとか、本町で幹部職の方が入られる会議の席に、うち当時もう一人保健師、

保健センターにおりまして、主担が彼女でしたので、彼女もその大きい会議に入れていただいて、協力をお願いしたいっていうような、当時も本当に漠然とした情報の中だったんですが、お願いというのは保健センター所長を通じ、会議の席を通じ、早くからお願いはさせていただいたように記憶しています。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） ありがとうございます。終わります。

○議長（新澤良文君） ほかにございませんか。ちょっと私のほうから1点。先ほどからいろいろあるんですけども、この問題が取り上げられてから、保健センターのほうに議員さんは誰が話を聞きに来られました。松本証人。

○証人（松本聖子君） 私が席外してる時間帯のことはちょっとわからないんですけども、保健センターにこの形になってからお運びいただいたのは、新澤議長さんと森川副議長さんは来ていただいたように思います。

○議長（新澤良文君） ほかにどなたも来てないということですね。情報の共有という言葉が西川議員のほうからあったんですけども、そもそもこれ、大事なね、こんなこともう情報の共有も当たり前なんですけども、これぐらいのことは、それぞれワクチン接種する者等々、僕が聞いている等々でおっしゃられたと思うんですけども、マニュアル読んどけよという話だと思うんですけども、そもそもそういう思いはございますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） はい。当初、3人で体制をつくって、全部の契約を取って、物品をそろえて、通常業務も諸々ありましたので、赤ちゃんの訪問にも出ますし、マニュアル等々作ったものを伺いとして当然上げつつ、これでいこうと思うという連絡は上に上げながら進めておりましたが、細に至るまで保健センターが全て目配せをする、全部の責任を負うということは到底無責任な行為に思いましたので、途中から、途中というか、時期はちょっと未確定なんですけども、やはり関わる職員一人一人が会議に参加し、マニュアルを読み、保健センターから上げた、このコールセンターの案はこれでいこうと思いますというような伺い書に関しても、積極的に御意見をいただきたいし、出来上がりました、これですよとお一人お一人にできたマニュアルを届けて歩くような余裕はございませんでしたので、きっちりと伺い書の中では職に当たる方は認識していただきたい、共有していただきたいというお願いはかねてからしておりましたし、私たちも当初から関わっているとはいえ、本当ワクチン業務始まってから指示があった、初めての事業です。資料を持って帰って読んだり、Q & A、膨大な量を読んだり、かなり疲弊する中でしたので、ミスが起き

るということの怖さというのは保健センター内ではもう当初から意識として共有ありましたし、お願い、私たちが言わなかったからでなくて、一緒にやっていく形で進めてほしいということは当初からお願いをしていたのではないかと。そのようにお願いをしていかないと、この人間だけで、事務のプロもいらっしゃらない、補助もかかってくる、契約の労働派遣、わからない内容をこの3人で、じゃあ、やりまですって責任を負うことが無責任に感じておりましたので、そこはすみません、今さらという形にはなりますが、思いとしては当初からあった部分です。

○議長（新澤良文君） だから、その情報の共有という意味においては、きちんと伺い書において、これが通達やマニュアル、あるいは国から指示等々はワクチンに関わる人はきちっと勉強なり、意識を置いてください、持つといてくださいねということは伺い書に書いてあるということですのでよろしゅうございますか。松本証人。

○証人（松本聖子君） 文言自体ははっきりしませんが、すみません、全員が同じ会議を見て、同じ情報を認識する、学ぶという前提はありました。

○議長（新澤良文君） この件以外に、ほかにあえて、今、申しておかないといけないこと、ワクチン接種ってというのは町民の命あるいは健康に関わることで、この機会に何か言っておきたいこと等々がございましたらお聞かせください。松本証人。

○証人（松本聖子君） すみません、今の段階ですと、私のほうからはございません。

○議長（新澤良文君） 今の段階でなくてもいいんでね、思いついたことがあれば、このワクチン接種というのは本当に大事な大事なことでございますので、何か思い出したこと、あるいは気になったこと、気がかりなことあれば、また伺い書あるいは上司あるいはもう直接感染症対策本部のほうにお知らせいただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。それでは、松本証人の尋問をこれで終わります。

11時半から濱坂証人の尋問を始めます。11時半まで休憩。

午前11時20分 休憩

午前11時30分 再開

---

○議長（新澤良文君） それでは、再開いたします。

濱坂証人は証言台へ。宣誓の後、宣誓書に署名捺印をお願いいたします。

○証人（濱坂知子君） 宣誓書。私は良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また何事も付け加えないことを誓います。令和3年10月11日、濱坂知子。

〔濱坂証人 宣誓書に署名、捺印〕

- 議長（新澤良文君） それでは、濱坂証人に質問を行います。
- まず、ワクチンの取扱いや接種についての研修体制についてお尋ねいたします。
- ズームによる国や県の会議が頻繁にあったそうですが、統括看護師である濱坂保健師は参加していましたか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私はそのようなズームによる研修会であったり、そういう研修会には参加したことはありません。
- 議長（新澤良文君） なぜ参加しなかったんですか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） そのような研修会がいつ行われているかなど、全く知らなかったからです。
- 議長（新澤良文君） では、ズームによる研修会等々以外でも、マニュアル等々、このワクチン接種事業について、事前に何らかの知識を得るための勉強あるいは調査等々を行いましたか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） インターネットなど、そういう情報源から自己学習という形でしか学習できていませんでした。
- 議長（新澤良文君） では、そのインターネット等々は自己学習、どの辺の範囲あるいはどの辺の部分について、学習等々されましたか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） ファイザーから出されてるワクチンの取扱い説明書の一般的なものであったりとか、あと、薬液充填などの方法等の情報をインターネットから見勉強していました。
- 議長（新澤良文君） ファイザーからの情報等々をインターネット等々で学んでらっしゃったということをお答えいただきましたけども、であるならば、このファイザーのワクチンについては、冷蔵は2度から8度という部分において、あるいは再冷凍はどういうふうな案件というか、ことが再冷凍に当たる等々の御認識はございましたか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 冷蔵保存については、2度から8度ということは存じてました。冷凍保存については、冷凍するということがないと思っていたので、冷蔵ほど詳しく見ていなかったのかなと思います。ただ・・・、すみません。
- 議長（新澤良文君） どうぞ。ただ、いいですか。ファイザーの取扱い等々の管理等々の文書を読んでいくと、冷蔵の部分は読んで冷凍は読んでないということ自体が難しいかなと。僕もちよっとマニュアル等々、私が見たマニュアルと証人の読んだマニュアルとは違うファイザーのマニュアルなのかもしれませんけども、あそこには事細かくわかりやすく、図にもしながら冷蔵あるいは冷凍についての保存方法

等々は記されてたと思うんですけども、その辺について、冷凍は飛ばして読んでいたということによろしゅうございますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 冷凍のところを飛ばして読んでいたわけではなかったんですけども、全体を見ていました。ただ、冷蔵庫に入れることが想定されていたので、特に冷蔵庫のところを見ていたというところで、全般には見ていました。

○議長（新澤良文君） 統括看護師という濱坂証人のお立場を考えるとね、ファイザーの取扱い説明の中において、冷凍も冷蔵も、今思えば全ての部分において把握していく必要性があったんじゃないですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 冷凍することはしてはいけないということは、認識はありました。

○議長（新澤良文君） 今おっしゃった冷凍してはいけないというのは、一度、ディープフリーザーから出したワクチンを再冷凍してはいけない、この認識はおありだということによろしゅうございますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） はい。

○議長（新澤良文君） それでは、ワクチンの管理についてお尋ねいたします。  
家庭用冷蔵庫の購入や家庭用冷蔵庫での薬液の保管、棒温度計のみの温度管理などは保健センター植山所長の指示であるとの証言がありますが、知っていることをお聞かせください。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 冷蔵庫購入に関しては、業者の方と保健センター所長が相談して買ったということは聞いておりました。あと、温度計とか、そのことについては植山所長からの指示で購入したとか、そういうことは、私は知りません。

○議長（新澤良文君） では、この家庭用冷蔵庫を使ってワクチンを保管するということが本町はなったわけなんですけども、この家庭用冷蔵庫でワクチン、薬液を保管するときは2度から8度、これは必ず管理をされていなければいけなかったという御認識はございましたか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） はい、認識はありました。

○議長（新澤良文君） では、7月25日、28日、新聞等々で不適切な温度管理ということが取り上げられたわけなんですけども、この25日、28日、この不適切なと新聞で指摘されてるような事案については、御本人はどう思われました。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） ロガーで管理していた、24時間管理していたわけではないので、そのような状況になっていたかもしれないということを考えると、そのよう

に思います。

○議長（新澤良文君）　あまり濱坂証人ばかり責めるんじゃないですけども、統括看護師というお立場であるなら、この温度管理等々について、できてなかったということは知っておられて、町民に接種したってということになってくるんですが、その辺はどうなんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君）　この冷蔵庫で大丈夫なのかなという不安を持ちながらいたことは事実です。

○議長（新澤良文君）　いわゆる大丈夫かなというのは、家庭用冷蔵庫を使ってもいいということでありますけども、温度管理が必ずできてるという条件付ということでは御存じやったということであるということでもよろしゅうございますね。その上で、本町においては家庭用冷蔵庫で、温度管理はせずに、そのワクチンを町民に打ち続けたということに対する不安ということでもよろしゅうございますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君）　はい。そうです。

○議長（新澤良文君）　統括看護師の立場で不安だったことを、プロジェクトチームなり、あるいは上司なり、執行部なり、これはどうなんですかという助言等々されるということはお考えにならなかったんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君）　でも、それ以外の日、16日の日でも、それ以外のときにも、これで、この冷蔵庫で大丈夫なんですかってということをお伝えはしました。

○議長（新澤良文君）　誰に、ですか。

○証人（濱坂知子君）　皆さんが集まっているところだったので、ちょっとはっきり覚えていませんが、上司の方々がおられたように思います。

○議長（新澤良文君）　覚えてる範囲で結構ですんで、その場に誰がいらっしゃいましたか。

○証人（濱坂知子君）　芦高課長、石尾課長、副町長もおられたように思います。ごめんなさい。

○議長（新澤良文君）　町長は。

○証人（濱坂知子君）　町長は横におられたかもしれないですけど、ちょっと私の記憶にはないです。それもちょっとあやふやなところなので、思い出すところでは、そういうぐらいですという程度でしか、ちょっとお答えできません。

○議長（新澤良文君）　ちょっと、きついことも申し上げるかもしれませんけども、この2度から8度で必ず管理しなければいけないということも御承知だったということで、その上で、本町においては、この2度から8度という管理体制、保管体制

というのはなっとなかったということで不安だったという御自身の思いを、先ほど証言なさいましたけど、それを幹部職員との会議の中でされたということは、ものすごく重要なことだなと思うんですけども、それを報告されたときに、その場にいた人がどういう答えが返ってきて、どういう対応というか、なされたんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） まず、そこで業者の方に冷蔵庫を購入した経緯などを聞いたときに、これは所長と確認して買ったということを知ったのもあって、もうそれは皆さんの中で了解の下、使われるのかなというところで、それ以上、私から申し上げることはできませんでした。

○議長（新澤良文君） この7月15日に、この家庭用冷蔵庫を購入してるわけなんですけども、そのときに、ワクチンを保管する前に、データロガーでデータを取っておられます。これはワクチンを保管するのに適しているかどうかということで、データを取ったと思われるんですけども、このときのことについて、証人は何か御存じですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 購入したとき、購入して冷蔵庫が搬入されて、そこに1度見に行くと、準備等をしてるときに見に行ったときに、データロガーを入れて測っておられるような様子がありました。ただ、誰が入れて、誰が管理する等は知りませんでした。

○議長（新澤良文君） そのデータロガーを入れて、何で入れてということは御存じなかったということなんですかね。まず1点、先ほどから繰り返しになりますけども、証人は、このワクチンの保管、冷蔵保管という場合は2度から8度っていう温度で管理しなければ、これはもう大前提やということは承知やということを証言されました。だから、そのデータロガーという機械においてデータを取る中で、これが2度から8度保たれてるのかどうかというのが、それ、確認はしてないってことなのか、してるということなんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） そのデータの話を聞くと、不安定だということを知りました。

○議長（新澤良文君） 誰からですか。

○証人（濱坂知子君） そのとき、ロガーを触っていた江口さんです。

○議長（新澤良文君） では、そのプロジェクトチームの中では、この冷蔵庫については不安定な、温度がきちんと管理できてない、温度が安定しない冷蔵庫っていう情報は共有されてたということでよろしゅうございますか。濱坂証人。

- 証人（濱坂知子君） はい、そうです。
- 議長（新澤良文君） それでは、次に、ワクチンを保健センターのディープフリーザーから出して、リベルテホールなどへの移送方法についてお尋ねします。
- 先日からの尋問で、ワクチン管理をしている保健センターの植山所長からの情報提供不足や指導不足により、7月16日の再冷凍の事故が起こったとの指摘がありました。どのようにお考えですか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） これは、お互いの情報共有であったりとか、少し運ぶ際に、少しでも声かけ、これは運んだら冷蔵庫に入れてねというような一言でもあれば、こういうことにはならなかったのかなというふうには思います。ただ、お互い、それを確認するべきであったとは思っています。
- 議長（新澤良文君） では、保健センターからの伝達がきちんとしていなかったから、これを冷蔵保存しないで冷凍保存してしまった。保健センターの責任だという部分もあるとお考えですか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 保健センターだけの責任ではないと思います。お互いの情報共有ができていないところなので、両方の責任だと思います。
- 議長（新澤良文君） では、先ほどの一番初めの質問に戻りますけども、証人はファイザーのマニュアル等はお読みになったと、先ほど証言なさいました。その中で、冷凍については、する行為が及ばないということであったので、冷凍については読まなかったということも申されました。そして、この16日、再冷凍事故が起こったわけなんですけども、冷凍についての、通常は冷凍庫から出して冷蔵保存するものなんで、冷凍庫に入れないということなんで、冷凍の分はマニュアルを読まなかったという証言、それもどうなのかと思いますけども、それもそうなのかという点もあるんですけども、この今、冷凍されてますよね。だから、先ほどの証言とちょっと矛盾するんじゃないですか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 全く読んでないというわけではありません。
- 議長（新澤良文君） では、このマニュアルの中にはワクチンを運ぶとき、保冷ボックスで運ぶときのことにも記され、記入はされております。この部分はお読みになりましたか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） はい、読んでいます。
- 議長（新澤良文君） では、この7月16日の、先ほど、お互いにミスがあったんじゃないか、保健センターにもミスがあったし、私自身もミスがあったっていうことを証言なさいましたけども、一方で、保健師のほうからは、情報の共有において

は事前にどう取り扱っていただいたらいいかということは、それなりに知識を持っておいってくださいということはお伝えしたということ、保健センターのほうはおっしゃってるんですけど、そういう観点からしますと、伝達ミスっていうふうには当たらないんじゃないですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） そのようなことを直接聞いたことはありません。

○議長（新澤良文君） そもそも話を申し上げますと、ワクチンの接種統括看護師という任務に任命、任せられてる証人でございますんで、この辺のたかが15枚ぐらいのワクチンのマニュアルについては、認識としてきちんと持っていなければならなかったとは思われませんか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） もっと詳しく知り、また、これでいいのかというのを確認しながら、知識を得るべきだったと思います。

○議長（新澤良文君） だから、証人であるとか藤原証人であるとか、一方の話しか聞いてない人に、議員とか、あるいはそういう人らにとっちゃ、保健センターがちゃんと教えてくれなかったから、伝達してくれなかったから、保健センターが悪いんやというような極端な見方にもなると思います。そもそも、それは保健センターと証人やプロジェクトチームとの伝達というのが、それはあったに越したことはないんやろうけども、そもそも、これぐらいのことは認識していなければいけなかったことだと思われませんか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 思います。

○議長（新澤良文君） 私は何も保健センターをかばうわけでも何でもありませんけども、保健センターは保健センターで、また、真相を究明していくわけなんですけどもね。証言の中で、誰それが言うてくれたらよかったんだとか、伝達ミスだとか言う前に、御自身の認識不足だという部分も、今、お認めになったんですけども、そういう観点から、保健師として薬液の移送に関わられた責任について、どうお考えか聞かせてください。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 冷凍庫に入れてしまうときに、もっと強く止めるべきだったと思っています。

○議長（新澤良文君） この件では本町、高取町は二度も三度もミスをしてるわけなんですけども、一旦、16日のときに再冷凍してしまったワクチンを、この再冷凍してしまった事案というのは、全国的に自治体でもたくさん報告されてる、あってはならないミスなんですけども、されてる中で、これを21日、町民に接種するという行為、ここは罪深いと思うんですけども、この時点で再冷凍に当たるかもしれ

ないというワクチンを、これは保健センターのほうから何度も何度もプロジェクトチームや上司のほうにも、これは町民には接種しないでくださいと進言、諫言があったにもかかわらず接種してしまった。この件について、知ってることをお聞かせください。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 21日に使用してもいいっていう報告を受けたのは、石尾課長からです。松本保健師から、そのことは聞いていませんでした。使用可能だということをファイザーと県に確認してっていう文書でもいただきましたし、それで、それ以上、止めるというか、それ以上、私からはちょっと上の方に言うことできませんでした。

○議長（新澤良文君） ここでお諮りいたします。12時に間もなくなりますけども、このまま濱坂証人の尋問を続けさせていただきますけども、よろしゅうございますか。

〔「異議なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） 私が質問した内容は違って、事前に、21日までの段階で、保健センターから、これは再冷凍に当たるワクチンなので使わないほうがいいですよというような進言等々あったこと自体、証人は知らなかったということなんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 直接、それを保健センターも問い合わせてるということ自体は知りませんでした。ただ、16日の時点で、やはりこれはちょっと冷凍してはいけけないのではないかとということ、ちょっとファイザーに確認したほうがいいのではないかとということ、藤原保健師と役場に戻って話してました。そしたら、ちょうど江口さんが、今、冷蔵庫に入れ替えてきたということを私たちに伝えられたので、どこかに確認したのかって聞くと、確認して入れ替えられたということを返答されたので、そのときは、一旦、帰りました。やっぱりその次の日、土曜日ですが、気になったので、18日には金曜日に運搬したワクチンを使用しないで、当日、朝からもう一回取りに行ってもらうのが確実で、今、冷蔵庫に入ったワクチンは県等に確認してから使用するかを決めてもいいのではないかとということ、芦高課長と参事にお伝えはしました。18日、当日は朝取りに行ったワクチンを使用したんですけども、その接種業務終了後、会議をしたときに、次の19日の月曜日に、松本保健師が県やファイザーに確認してから、ワクチンの使用の、使用できるかできないかということを決めるっていうことで、会議で決定されていまして。その月曜日。

- 議長（新澤良文君） 今、松本保健師って言ったんかな。
- 証人（濱坂知子君） はい。
- 議長（新澤良文君） これ、ちょっと整理して。
- 証人（濱坂知子君） 18日の当日は、朝、ワクチン取りに行ったやつを使ってるんですけども、その接種業務終了後に、再冷凍されているかもしれないというワクチンの使用についての会議をしました。そのときに、松本保健師も出席されておられたので、その使用の、使用できるかできないかというところを松本保健師が県やファイザーに確認するというので、その会議で決まったと思います。その後、確認されたのは、あの用紙、大丈夫ですってという用紙には前田補佐の名前が書かれていましたけれども、それをお伝えに来ていただいたのは石尾課長で、21日にそのワクチン接種できることになりましたってという報告を受けました。そこで、県やファイザーに確認されたんですかっていうことを聞くと、そうですってというお答えいただきました。それでもう21日に使うことになったというふうに決定したからって聞いて、それ以上はちょっと私のほうでは何も言うことはできず、終わっています。
- 議長（新澤良文君） この業務終了後の会議というのは7月18日、日曜日、午後6時からということではよろしゅうございますか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） はい、その会議です。
- 議長（新澤良文君） 出席者は町長、副町長、参事、総務課長、石尾リーダー、前田サブリーダー、総務課長補佐、濱坂保健師、松本保健師となっておりますが、これではよろしゅうございますか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 総務課長補佐ではなく、総務課長だと思います。
- 議長（新澤良文君） もちろん総務課長も載ってます。総務課長と総務課長補佐と。
- 証人（濱坂知子君） 総務課長補佐は入っておられなかったように思います。私の記憶では。
- 議長（新澤良文君） では、この席上において、松本保健師のファイザー等々に対する返事を待って使用するかどうかということは、この席上で決まったという証言なさいましたけど、間違いございませんか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） その会議では、松本保健師がワクチンに詳しいこともあってなのか、そういうふうに決定したと、決定してるとなってます。
- 議長（新澤良文君） でも、この21日に結局打つことになったんですけど、この松本保健師、この18日の会議においてはワクチンにも詳しい松本保健師がファイ

ザーに問い合わせして、その結果をおいて、21日に使用するかしらないかということを決めたということ証言なさいましたけども、結局、松本保健師がファイザー等々に問い合わせして、これは使ったら駄目だというような、簡単に申し上げますと。

ちょっと読み上げますね。先ほども松本証人に読みましたけども、まず、質問が違ふから答えが違っている部分がございます、ファイザーから百条調査権発動に関して証拠、お客様相談室に問合せ、本町から2件の問合せがあった中身において、議事録はもちろんですけども、簡単に申し上げますと、石尾課長、ファイザーに問い合わせてるのは石尾課長だとファイザーは言ってます。石尾課長のほうからは、接種会場にて、ワクチンが入った箱の中の温度は金曜日の夕方にマイナス70度の冷凍庫から出し、ワクチンを接種会場へ保冷バッグに保冷剤を入れて配送した。移動時間は約5分ぐらい。接種会場にてワクチンが入った箱の中の温度はマイナス15度より低い状態であることを確認し、マイナス18度の冷凍庫へ、家庭用冷凍庫ですね、入れたと。スタッフより再冷凍に当たるのではないかと指摘され、また、その冷凍から2度から8度の家庭用冷蔵庫に入れ直したと。冷凍庫に入れたり、冷蔵庫に入れたりということも公表されております。対応は間違ってたのか知りたいと。間違ってますよね、これ。これ、石尾プロジェクトリーダーがファイザーに問い合わせた内容でございます。

それで、松本保健師のほうからは、マイナス75度ディープフリーザーから取り出し、国からもらった保冷ボックスで移送をし、ワクチンを接種会場の冷凍庫に入れてしまった。今回、4時5分にディープフリーザーから取り出して保冷ボックスで移送して、冷凍庫に入れたのが5時前後。6時に連絡があり、冷凍庫から冷蔵庫に移し替えたということがあるんですけども、これ、証人はこの移送には関わってらっしゃったんですけども、どちらの証人、証言というか、どちらの質問、ファイザーに対する質問内容が正しいんですか。濱坂証人。

- 証人（濱坂知子君） 私はその時間的なもの、いつ冷凍庫から出された、ディープフリーザーから出されて、という時間的なものはちょっとわかりません。ただ、運んでいる最中にロガーを入れて運んでいるわけではないので、それがマイナス16度以下に保たれていたってことはどうなのかっていうところは思います。
- 議長（新澤良文君） 温度管理ができてないという部分で、再冷凍はできないワクチンであったという御認識だということなんですけども、ちょっとしつこく食い下がるようで申し訳ないんですけども、保冷剤を入れて配送した移動時間5分ぐらい、この5分ぐらいしかこの保冷ボックスの中に入れてませんよってというような問合せ

を、ファイザーに、石尾リーダーのほうをやっているみたいなんですけど、これ、5分ぐらいなんです。そうか松本証人がファイザーに問い合わせてる、時間的なことはわからないってことなんやけども、5分か10分か20分かぐらいは、おおよそわかると思うんですけども、この点についてはどうなんです。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） ディープフリーザーからワクチンを取り出して、すぐに保健センターからリベルテに運んだとすれば、距離的なものから言うと5分程度では可能かとは思いますが。ただ、そのワクチンがいつの時点で出されているのかわからないところは、私はわからなかったのと、あと、はい、そうです。

○議長（新澤良文君） 御本人は、保健センターのほうには取りには行ってないんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 一緒に行ったんですけれども、藤原保健師と前田補佐と、その他の注射器であったり、針であったり、その他の物品の数を数えることをしていたので、ワクチンの取引っていうことはしていないので、そこはちょっとわかりません。

○議長（新澤良文君） では、ワクチンを出した時間というのは、これもう記録に残っているんですけども、じゃあ、その辺はわからないとしても、保健センターに行って、何分ぐらい、保健センターにいらっしゃったんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 注射器とか結構数があったので、15分以上はいたように記憶しています。

○議長（新澤良文君） 15分以上はいた、移動時間が5分ぐらい、簡単に考えても15分足らずで20分以上はということで、今、記録残ってる中では、保健センターに着いてすぐにワクチンを保冷ボックスに入れたという証言もあって、保冷ボックスから、ディープフリーザーから出した時間は記録されてますんで、それと併せて、知っとったら、この石尾リーダーの証言が正しいのか、松本証人の証言が正しいのか。というのは、質問が違うから答えが違うという、ファイザーの人も困ってらっしゃるんですよ。高取町、もうどうなってるんですかと。ただ、松本さんの言うことであれば、ファイザーの高橋さんという方なんですけど、松本さんの名前言うてもよかったのかな、ええよな。松本さんの言うことであれば、これは再冷凍に当たりますと。石尾さんの言うように、保冷ボックス入れてすぐ、もう5分間ぐらいしか保冷ボックスに入れてないんですよっていうようなことであれば、これは、それも必ずその間の温度が必ず確認されてるという前提ですよ、それであれば再冷凍も可能ですというふうな対応はさせていただきましたということだったんですけども、

もう簡単にざっくり申し上げます。どっちが正しいですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 私は、もう再冷凍でないかというふうに思います。

○議長（新澤良文君） では、この再冷凍ということで、ワクチン、18日の町長も入った中での会議の中で、松本保健師がファイザー等々の問合せ、その答えを受けて町民に接種するかどうかということを決定的にするというような判断に至ったという、会議の中でのことなんですけども、それはどうして、この松本保健師が問い合わせで、回答では駄目だと言われたことが取り入れられなくて、この再冷凍のワクチン、いわゆる健康被害がどうかということも担保できないようなワクチンを、わかりながら町民に接種したというような行為に至ってしまったのか。これ、18日の会議の中身と実際に行われた行為が違うというのは、これはどうしてなんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） どうしてかっていうの、私にもちょっとわかりません。

○議長（新澤良文君） このときの会議の中で、松本保健師の業者に対する問合せ等々をおいてという判断がなされた。その最終的な判断に至ったことは、この出席者全員、認識は同じですか。理解してましたか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 理解しているはずです。

○議長（新澤良文君） じゃあ、認識を理解していながら、この松本証人は使ったら駄目だというような報告を出しているにもかかわらず、再冷凍ワクチンと知ってて、町民に接種したというような結果になりますけども、これはそうなんですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） その会議の後のことは、私はちょっと本当にわからないので、その後にもし違うふうに話を決められたのであれば、石尾課長が聞かれたのかもしれませんが、その会議後というところは、私はちょっと関与してないのでわかりません。

○議長（新澤良文君） 関与してない、もう僕はあんまり女性をあれするのは、また人権やって、またどっかの人に言われるかわかりませんが、申し訳ないんですけども、食い下がって申し訳ないんですけども、これ、御自身はマニュアル等々を読まれていて、再冷凍ワクチンは接種したら駄目だということは認識があったということが1点じゃないですか。この16日に移送したワクチンというのは、これ、再冷凍ワクチンやという認識もあったってということじゃないですか。だから、この再冷凍ワクチンを認識もおありの中で町民に接種するという、最終的な判断は、ここには町長もいらっしやったんやから町長や執行部がしたんやろうけども、ええ

ことか悪いことかという判断ぐらいはわかりますよね。これ、だから、私が申し上げてるのは、何が再冷凍ワクチンに当たる事案なのかということも承知されてる、そして、この16日に運んだワクチンは再冷凍に当たるという御認識もある。それを21日に町民に接種したと。御自身、濱坂証人自身は、この再冷凍ワクチンを知ってながら町民に接種したっていうことはわかってらっしゃるという結果になるんですけども、それでよろしゅうございますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） もっと、そのときにやはり違うっていう、もう一度確認すべきだということであつたりとかを言うべきだったとは、今、思っています。

○議長（新澤良文君） 後悔されてるという意味ですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） もっと強く言えていればということと、あと、この県やファイザーに確認するときに、もっと証人というか、みんながいるところで、みんなが聞いた状態で確認するべきだったのではないかと思います。

○議長（新澤良文君） 加えてお尋ねしますけども、この21日の接種業務には御自身は当たっていらっしゃいましたか。濱坂証人

○証人（濱坂知子君） 当たっていました。

○議長（新澤良文君） 9月29日に提出を受けた情報提供シートについて、用紙の左側はワクチン管理者である保健センターで記入し、受け取りの署名を受けておられます。同行された濱坂保健師のお考えをお聞かせください。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 21日に、すみません、もう一度。

○議長（新澤良文君） 9月29日に提出を受けた情報提供シート、いわゆる、情報提供シート、ちょっと後ろ見ていただいてもいいですか。これは承知されてます。この情報提供シートに記載されている受取人のサインは、石尾リーダーになっていますが、この石尾証人、石尾リーダーのほうの尋問の中で、本数と日にちは見てますけども、温度は見えませんでしたというような証言をされてるんです。もう一度、見ていただいたらわかるとおり、本数と日にちを見たら温度はわかるというようになってるんですけども、どう見てもこれ、温度を見ない方法が見当たらないんですけども、これについてはどうお考えですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） サインと日付と入れるときに、どこに入れたらいいかというのは、そんな頻繁にやってなければわからないから、全体をざっと見ながら記入はするはずだとは思いますが。

○議長（新澤良文君） 私が申し上げたいのは、この温度というのは融通元接種施設での保管温度というところと移送温度というところにチェックがなされてるんです。

だから、この真ん中のところに日にちあるいは時間、本数っていうものを書いているんですけども、この日にちや時間や本数をチェックしてるのに、温度はチェックしてないという表現を石尾証人はされてるんですけども、これはどうお考えですか、一緒に御同行された濱坂証人は。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 温度を確認してないというのは、その表のことですか。

○議長（新澤良文君） そうそう、ちょっともう一回見ていただく。

これは見てみましたが、これは見てないと、知りませんでしたという証言をしてるんです。あり得ますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 見てると思います。ちょっと人によって、ちょっと何とも言えないんですが、普通だと見ておられるのかなというふうに思います。

○議長（新澤良文君） じゃあ、統括看護師というお立場の上でお尋ねします。

これ、情報提供シートを、融通元接種施設名、保健センター、融通先接種施設名リベルテホール、そして受取人、石尾等々の記入をされてるんですけども、この書類にはきちんと受取人サインあるいは受渡しのバイアル数、受け渡したロット番号に署名するようになってるんですけども、あわせて温度についてもチェックがなされてるんですよ。これは温度についてのチェックはしなくてもいいとお考えですか、しなくては駄目だと、認識の中で、御自身の認識において。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 温度を確認する必要はあるとは思いますが。

○議長（新澤良文君） では、次に、新たに6月13日の地域交流スペースでの接種についても、再冷凍があったとの報告がありましたが、濱坂保健師はどういうお立場で、この日、勤務されておりましたか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 地域交流スペースでは、私は予診受付担当ということで、先生の予診に行く前の予診のチェック等をしていました。

○議長（新澤良文君） 当日、冷凍庫から薬液を出されたのはどなたですか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 冷凍庫から出したということは知らないんですか、いつも冷蔵庫から薬液を出しているということなので、冷凍庫から出したということはちょっと私、誰がとか、冷凍庫自身はちょっとあることすら知らなかったもので、わかりません。

○議長（新澤良文君） じゃあ、このときに、ほんなら、冷蔵庫でも結構です。冷蔵庫、この業務、ワクチンを保管場所から出すという業務は誰が当たってられるんですか。濱坂証人。

- 証人（濱坂知子君） 薬液充填の看護師の方が、冷蔵庫から必要分のワクチンを取り出して充填するというふうにしていました。
- 議長（新澤良文君） この6月13日は、どなたがされてたんですか。
- 証人（濱坂知子君） パートの看護師さんです。
- 議長（新澤良文君） 平成記念病院というか、へいせいたかとりクリニックにパートで来られてる看護師さんということではよろしゅうございますか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 高取町が雇った看護師です。
- 議長（新澤良文君） では、これ、地域交流スペースでの接種においては、何か医療機関等々へ指導を徹底しますというような、先日、記者会見等々なされたんですけども、高取町の事業で高取町が雇ったアルバイトの人が、この薬液を保管場所から出していたということではよろしゅうございますか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 運搬は職員のほうがしていましたが、当日、使用するワクチンの必要分を冷蔵庫から出してってというのは、看護師がやっておりました。
- 議長（新澤良文君） これも百条調査が始まってから、6月13日について、再冷凍の事象があったということで発表があったわけなんですけども、6月13日の事象について、百条委員会が始まってから、この件については冷凍庫から出したかどうか、御本人は冷蔵庫だと思ってらっしゃったということなので、御認識がなかったということではよろしゅうございますか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） はい、そうです。
- 議長（新澤良文君） 実際は、この日は冷凍庫からワクチンを出しております。それを、先日、町長をはじめ執行部が記者会見でおわびされてたわけなんですけども、こんなことが度々ある中で、高取町はほかにも隠蔽しているのではないかと住民の皆さんは不安に思っらっしゃいますけども、濱坂証人は、ほかになにかこのワクチン等々の事案について、隠蔽あるいは気になること、ちょっとこれ、心配やなというようなことではございませんか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 今の時点ではありません。
- 議長（新澤良文君） これもワクチンというのは本当に健康被害、町民の命にも関わることでございます。先ほども松本保健師のほうにも言わせていただきましたけども、今後、何かお気づきのことであるとか、あるいは思い出したことであるとか、そういうことがございましたら、上司あるいは議会あるいは感染対策本部のほうに、きちんと公にされる場所に報告していただきたいと思います。お願いいたします。濱坂証人に対するほかの議員さんの質問をお受けいたします。何か御質問のある方、

いらっしやいませんか。西川議員。

○2番（西川侑壱君） ごめんなさい、僕のほうから1点だけ。確認も含めてなんですけど、濱坂証人が統括看護師に指名されたのっていつでしたか。前になんか話なさったのか、ちょっとごめんなさい、僕、記憶なくて申し訳ない。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 地域交流スペースの接種が終わって、リベルテでの集団接種が始まるようになってからです。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） ということは、今言った6月13日の案件というのは、統括看護師の立場だったんですよね。ごめんなさい、聞き間違えてて申し訳ない。そうなんです。ちなみに、リベルテで接種始まる以前に、どれぐらいの日数があったかとかってというのは記憶にありますか。指名されてから、18日から接種スタートしてると思うんですけども、例えば何日前に指名されたかとか、何日前にそういう辞令が下ったというのを覚えてはりますか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） すみません、ちょっとはっきりとは覚えてないんですけども、そんなに、リベルテで始まるすごく前っていうわけではなかったように思います。ちょっとごめんなさい、いつっていうところは覚えてないです。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） わかりました。ズームの勉強会等があったのを、ちょっと何日にあったかとかって、僕も確認してないんでわかんないですけど、それもそういう時間が取れたんかどうかというのをちょっと確認するために聞かせてもらいました。すみません。

○議長（新澤良文君） ほかにいらっしやいますか。谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 1点だけお伺いします。統括看護師の業務内容について、どなたかから説明はありましたか。

○議長（新澤良文君） 濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 具体的にはなかったもので、これは何をする役割ですかっていうのをお尋ねしたかと思います。そのときも、医療職としてのマニュアルがあることもなかったし、自分の中で確実にこれをというところでお伺いすることが、答えがちょっとわからない状態でした。保健師3人とその辺で何をするんだろうというお話をしていた記憶があります。

- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） そうしますと、統括看護師としての業務内容、職務、職責が明確でないまま、一応、辞令書で受けられたと。辞令が出て受けられたと。濱坂証人が独自でインターネット等から勉強されて学習されたと。最低限の知識を得られて、統括看護師としての職務を遂行されたということによろしいですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 辞令等はもらっておりません。今おっしゃったように、自分でもわかる範囲で調べたりとかっていう学習でした。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） 業務を遂行するに当たって、当然、不安があったと思うんですけど、そういう思いが何かありますか。辞令もなく、業務内容も書面でもなく、業務を遂行するに当たっての率直な感想をお述べください。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 誰かがこの部分を担う、統括であったりとか、看護職がする部分というのを担わないといけないっていうのを思っていたので、不安ももちろんあったんですけども、何とか業務をしていかないといけないのかなというふうな形で取り組んでました。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） 最後に、どなたから任命されましたか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 任命という形ではなかったと思います。動員表という形で、誰がどこっていうことで知らされて、という形で業務に入っていくように記憶します。
- 議長（新澤良文君） いいですか、もう。
- 3番（谷本吉巳君） ありがとうございました。終わります。
- 議長（新澤良文君） ちょっと最後に1点。統括看護師って、何か立派な重々しい名前なんですけども、本町においても統括看護師って、言い方悪いですけども、給食当番ぐらいの感覚であったんですかね。何も任命もされてない、責任もない、それぐらいの感覚なんですかね、言葉は悪いですよ。責任も持たない、あるいは統括看護師っていうお名前はいただいているけども、責任もないし、また、責任っていう部分も与えられていないという部分も、申し上げますとね、私ちょっと下品で例え方が合わへんかもしれませんが、本当に認識として、それぐらいの認識というか、

ほかに例えようが私の中では思い当たらないんですけども、それぐらいの感覚ですかね。いや、リベルテホールでの接種体制は、初めは植山所長や松本保健師が出勤する場合は、植山所長や松本保健師が統括看護師となっていたようですが、後日、保健センターの保健師2名を外して、濱坂、藤原保健師を中心にシフトを組み直したとお聞きしております。濱坂保健師は、統括看護師を受けられたとき、そういうことに関しましてはどうお考えだったのか。なぜシフトが組み直されたと思いますか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 事前に保健センターの方が、そのシフトを出しておられるとか、そういうことは知らなかったのと、あと、私自身、お手伝いというか、業務できる日があるならば手伝いますっていうことはお伝えしてました。初めにそうやって保健センターが出されていて、というところはちょっと私も知らなかったので、もうそれをもらったときには、ああ、保健センターの方は忙しいのかなとか、都合が悪いのかなというふうに思っていました。

○議長（新澤良文君） これ、ちょっと植山証人のときに質問させていただこうと思ってたんですけども、このシフトについては、事前に出ていたシフトから全て外されたというような話、証言が、それも植山証人というか、ほかの議員さんとも情報を共有したいんで、その辺は押さえときますけども、そういう経緯があるみたいでございませう。最後に、統括看護師の責任については、石尾リーダーから何か説明はされましたか。濱坂証人。

○証人（濱坂知子君） 特にされていません。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 今後のこともありますので、再確認ということで確認させていただきます。今日の証言で、21日の再冷凍した、破棄しなさいというワクチンを投与したことについて、温度に不安ながら使用したということを証言されました。前回、文書での、濱坂さんの内容でも、何が正しいのかわからなくなったと、みんな同席の場所で聞いていたらそれがなかった。これも反省と取れる弁であったと思います。今日でも同じ認識かどうか、それ、まず確認させてください。

○議長（新澤良文君） 質問の内容がわかりづらいみたいで、ちょっともっとわかりやすく質問。

○1番（森川彰久君） 21日に破棄しなさいというワクチンを使用したことについて、自分なりに不安を持っておられたのか、何が正しいのかわからなかったと、前回、証言されておりますので、今でもその当時の認識と同じであるかというのを

確認させてください。

- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 先ほども皆さんがおっしゃっておられるように、質問内容が違えば回答も違うというところで、そこで、ちょっとどうなんだろうというところが私の中でも思うところです。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） なぜ、それをお聞きするかとといいますと、これ、9月28日付で、中川町長から、ワクチン接種事案に対する検査等の検討会開催についてが、参加者のメンバーが町長、副町長、関係課長、保健師、この保健師というのは濱坂証人も入ってるんですね。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私は入っていないかと思えます、そこには。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） ということは、保健センターの方ですか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） そうですね、その後は保健センターの方です。そうです。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） 入ってない。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 入ってないです。会議ではないですよ、18日の会議にはいてましたけど。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） 9月28日。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私は、ちょっといてないんで。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） ごめんなさい。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） 9月27日。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 入ってないです。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。

- 1番（森川彰久君） この保健師というのは、どなたと思われませんか。
- 議長（新澤良文君） 濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） 私でなければ、保健センターの保健師の方かなと思います。  
あと藤原保健師か、私以外の保健師になるかなと思うんで、ちょっと誰っていうの  
わかりません。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） じゃあ、統括保健師がこの会議に参加されないのは、今お聞きして、あれっていう、さらなる疑問が湧いたのと、こういう事案が起こって、新たな取決めをいろいろ、これ、7項目か検討されておる中で、最初にお聞きした質問は、疑問であったが言えなかったというような体質、体制、風土がこの会議においても、同じようなことでないようなことを願って質問させていただいています。だから、濱坂さん出ておられなかったら仕方がないですな、終わります。
- 議長（新澤良文君） ちょっと最後に、気になった点があったので、申し訳ないですけども、質問が違えば回答が違うっていうことをおっしゃいました。それはもうそのとおりだと思うんですけども、濱坂証人は、今日のこの尋問の中で、御自身も。  
（発言する者あり）静粛に。  
御自身もワクチンについては、再冷凍ワクチンについては、16日の移送についてもそうですし、そして、この再冷凍ということ、知識もあって、認識もあって、その上で御自身は不本意ながら7月21日に、この再冷凍ワクチンを町民に接種する従事に関わってしまったということを先ほど証言されたんですけども、だから、その考えが、質問が違えば答えが違うっていうのは、もう違う段階に来てまして、御自身は認識もあったということで証言なされたんですけども、これは先ほどの証言を確認の上でお尋ねしますけども、こういうことでよろしゅうございますか。濱坂証人。
- 証人（濱坂知子君） はい、そのとおりです。
- 議長（新澤良文君） それでは、これで濱坂証人の尋問を終わります。  
ちょっと休み時間短くなりますけど、申し訳ない、1時半から、藤原保健師の尋問を始めます。

午後 0時47分 休憩

午後 1時33分 再開

- 
- 議長（新澤良文君） それでは、再開いたします。

次に、藤原保健師、証言台のほうへ。宣誓の後、宣誓書に署名捺印をお願いします。

○証人（藤原香織君） 私は良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また、何事も付け加えないことを誓います。令和3年10月11日、藤原香織。

〔藤原証人 宣誓書に署名、捺印〕

○議長（新澤良文君） それでは、藤原証人にお尋ねいたします。

ワクチンの取扱いや接種についての研修体制についてお尋ねいたします。ズームによる国や県の会議が頻繁にあったそうですが、統括看護師である藤原保健師は参加していましたか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 統括看護師になったのは7月の中頃過ぎに知らされたので、また、それはリベルテで行うときの担当であって、それ以前は総括の役割はございませんでした。保健センター、住民課のほうではワクチン担当になっておりませんでしたので、そういう情報は一切入ってきませんでした。

○議長（新澤良文君） まず、ワクチンを担当されるに当たって、こういった学習あるいは知識を得るための情報収集をされましたか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） まず、地域交流スペースに、経過観察を行う担当となりましたので、インターネットなどで救急対応等を、ほかの市町村のマニュアルなどを確認しながら学びました。

○議長（新澤良文君） では、今回のいろんな事故等々があったのですが、そのいろんな事故、再冷凍あるいは針刺し事故の疑い等々の事案についての御認識はありになりましたか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 針刺し事故などは基本的な医療事故ですので知っていましたが、いつ起こったなどは、周りの人から聞いて知ることになりました。冷凍については、再冷凍という、冷凍するということと再冷凍という認識はありませんでした。ただ、ワクチンは冷蔵庫に入れるという知識はありましたので、それ以外のことはいけないことだという認識をしていました。

○議長（新澤良文君） 再冷凍については御認識があったということでよろしゅうございますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 松本保健師から再冷凍に当たるということを教えていただき、そこで初めて認識しました。

○議長（新澤良文君） 先ほど、御自身の証言の中でワクチンを取り扱うに当たって、他の自治体等々のマニュアル等をお読みになったというお話なんですが、どういう部分に関して知識を得て勉強なされたのかお聞かせください。藤原証人。

- 証人（藤原香織君） 先ほど申しましたように、地域交流スペースでは経過観察でしたので、救急対応など自分の担当しているところについて、自己で勉強しました。リベルテホールで担当するに当たっては、ワクチンの充填の仕方のところは地域交流センターでは担当になっていなかったなので、充填方法等の扱いのところを勉強しました。運搬に当たっては担当になっていなかったなので、特にそこを深く自己で勉強するということはしておりません。
- 議長（新澤良文君） 逆にお尋ねしますけども、統括看護師という御認識の中では、そんなに責任は感じておられるのかどうかはわかりませんが、役割、あるいはワクチン接種に従事する者として、そんなにワクチン接種についての知識がなく従事することに不安はなかったですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 前回でも証言したように、役割など具体的に何も決まらないまま統括看護師というところの役割を担っていたので、不安があったと申しました。
- 議長（新澤良文君） 不安があったら勉強したらええだけのことじゃないですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 当たっている部分については、自己で勉強いたしました。ワクチン運搬については、当たっているという認識がありませんでしたし、ワクチン運搬をするような形になったのは、7月20日以降でした。
- 議長（新澤良文君） いやいや、医療に携わってる者として、私自身でもそうですけども、マスコミ等々の中で、例えば温度管理が2度から8度までしか駄目だとか、再冷凍は駄目だとか、そういう認識っていいですか、知識というのはあるんですけども、それぐらいのことは御理解なさってるんですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） ワクチンの保管と扱いについては、自分が担当する範囲であったので、2度から8度というところまでは理解しておりました。
- 議長（新澤良文君） せやから、回りくどい。さっきから自分の担当するところとか、担当しないとことか、そんな言い方されてるんですけども、せやからじゃあ、この2度から8度のワクチンの保管ってというのは認識されていたってことよろしゅうございますね。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 認識していました。
- 議長（新澤良文君） じゃあ、それに基づいて質問します。ワクチンについてお尋ねいたします。家庭用冷蔵庫の購入や家庭用冷蔵庫での薬液の保管、棒温度計のみの温度管理などが保健センター植山所長の指示であるとの証言もありますが、知っていることをお聞かせください。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 家庭用冷蔵庫であるということは、リベルテホールの準備をしていた日ですね、ちょっと日にちが定かでないんですが、15日か16日に初めて、家庭用冷蔵庫が入っているのを見ました。そこで、びっくりして、江口さんなどに家庭用冷蔵庫がなぜ入っているかということについてお尋ねしました。そこで、植山所長が家庭用冷蔵庫でよいということを御発言したということで、家庭用冷蔵庫の購入になったということをお聞きしました。また、ヒトコムの大向さんがいらっしゃったので、そのときにお聞きすると、保健センターの植山所長が家庭用冷蔵庫の中でもワクチンが、吸ったワクチンが10個のトレー入るぐらいの大きさのものにしてほしいというふうなことも発言されていたということで、保健センターがそういう判断をされたのであれば、少しそこで安心した記憶があります。

○議長（新澤良文君） では、温度管理についてお尋ねします。先ほど、証人は2度から8度の温度管理が、このワクチンには必要やということは知識としておありということを証言されましたけども、この家庭用冷蔵庫について、きちんと温度管理がされていたかどうかということは御承知ですか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 初めて冷蔵庫にデータロガーが入っているのを見たときに、マイナス6度であったので、この冷蔵庫で大丈夫なのかという不安を持ったのと、あと家庭用冷蔵庫ということを初めて聞いたときに、一般的な自分の今までの経験から、冷蔵庫に霜が降りているなどの現象がある場合を見たことがあるので、家庭用冷蔵庫には不安があり、また、実際にマイナス6度という温度も見ましたので、そのことについては江口さんやほかの上の方に、前田サブリーダーなどに、心配なので確認しました。あとは、保健センターの松本さんにもお話をしましたところ、冷蔵庫が来た当初は温度が安定しないので、少し温度管理を見たほうが良いというふうに助言されているということをお聞きしたので、その後の経過を今後見ていられるのかなと思いました。

○議長（新澤良文君） では、この家庭用冷蔵庫は温度管理できていないという認識だったということによろしゅうございますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） どこまでできていないという、買った当初の温度を見ていたときはできていないと思いました。

○議長（新澤良文君） 逆に申し上げますと、温度管理ができていたという証拠というか、そういう確認は御自身はなさっていないということによろしゅうございますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 家庭用冷蔵庫を使っておられるときに、どのように管理をし

ているのかというのを尋ねますと、棒温度計をワクチンの工作中などに確認したほうがいいっていうことは、皆さんと話をしているときに情報を得ました。その中には、特に温度が変化、大きく変わるようなことはないところに進んでいるということをお聞きしたので、冷蔵庫が一定になっているのではないかというふうに思っていました。

○議長（新澤良文君） では、御自身の知識の中で、データロガーについてはどれぐらいの知識をお持ちなんですか。データロガーというのはなぜ必要かとお考えですか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） データロガーの存在は、冷蔵庫でマイナス6度を見たときに初めて知りまして、温度を測るもので、そのデータを蓄積するものだとお聞きしたので、温度を正しく管理するものが冷蔵庫につけてもらえているのかなと思いました。

○議長（新澤良文君） 冷蔵庫の温度を管理するのがデータロガーっていう御認識があったということによろしゅうございますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） はい。

○議長（新澤良文君） そんな中で、新聞等々の報道でもあったように、この家庭用冷蔵庫、そもそも植山所長あるいは松本保健師等々が、この家庭用冷蔵庫を使ってもというような話の中で、厚生労働省からも言われてることの中で、温度を必ず管理できるのであればっていうことを証言なさってますが、これは聞いたことありますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） そのことについては、大分、後になってから、保健センターの方かプロジェクトチーム、保健センターの方ですか、松本さんがそのようにおっしゃっていたので、それで知ることになりました。

○議長（新澤良文君） このワクチンというのは2度から8度で温度管理しなければいけないという御認識はおありやということを証言なされましたけども、棒温度計ではこのワクチンを2度から8度で24時間管理なんかできないんじゃないですか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 私もその点については不思議に思いましたので、保健センターの、また、棒温度計は植山所長がこういうのもあるよということでお話しされたということをお聞きして、また、それは本当かどうかと不思議に思いましたので、松本保健師にそんなような発言があったのかということと、冷蔵庫は本当に使っているのかというところで尋ねて確認しました。

- 議長（新澤良文君） 植山保健師から直接、棒温度計使ってもいいよということをお聞きしたということですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 棒温度計のことをお聞きしたのは、江口さんや、あと何人かから、あとは覚えてないんですけど、植山所長かに確認、尋ねてみたっていうことはお聞きしたので、本当かなというところで松本さんに聞いてみました。
- 議長（新澤良文君） では、御自身の知識の中で、棒温度計では24時間温度管理できないって、これはわかりますよね。その中では棒温度計でどうやって24時間、温度を管理、誰それが言うたからいいとかじゃなしに、御自身の考えとして、どうお考えですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 自分の考えでは、24時間管理できない棒温度計がなぜ使われるのかということ、おかしいという疑問を持っていましたが、どこかでそれを判断したところはあるのかなと思いましたので、それは事実としてお聞きしましたところ、御所市のほうの1医療機関でそういう例、家庭用冷蔵庫で棒温度計等を入れて管理しているということのお話を、松本保健師から聞きまして、そういうこともあるのかなというところで、少し安心してしまったところがあります。
- 議長（新澤良文君） そもそもデータロガーがあるのに、なぜ使わなかったのかという単純な質問についてお尋ねします。御自身はどうしてだと思いですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） データロガーがやっぱり心配でしたので、江口さんと一緒に過去の温度がどうなっているのか見せてほしいということをお願いして、パソコンで見せていただくと、あまりにも温度が不安定だったので、ああ、これは冷蔵庫が新しいからなのか、データロガーが壊れているからなのか、ちょっと私には判断できないので、一度、データロガーも新しいものに変えてもらうか、間違っていないよというところを確認を保健センターに相談してはどうかというところをお話ししました。
- 議長（新澤良文君） それは江口に相談したということですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） はい。
- 議長（新澤良文君） データロガーの数字等々が信用できない、本町にはデータロガーは4台あったということは御存じですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 知りませんでした。
- 議長（新澤良文君） では、次に、ワクチンを保健センターのディープフリーザーから出して、リベルテホールへの移送方法についてお伺いします。先日から、尋問

でワクチン管理をしている保健センターの植山所長からの情報提供不足や指導不足により、7月16日の再冷凍の事故が起こったとの、そういった考えをされている方がいらっしゃると思うんですけども、そういう発言もあるんですけども、御自身はどうお考えですか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 私はその発言と考えはしておりません。プロジェクトチームと対策本部と保健センターがワクチンで担当でチームとなってやっていく中で、それぞれがやはりきちっとそういうところは把握してする、把握しとくべきだと思いますし、また、あとはワクチンを運ぶという点ではマニュアルやルールさえきっちりしていれば、誰でもできることでしたので、担当などをきちっと決めるなどをして実施して、また、担当者以外がする場合はきちっとそこをお伝えするなどの体制を取っていればよかったのではないかと思います。私もワクチンを運ぶことはずっとやっていなかったんです。そこで初めて、濱坂保健師が取りに行けないときに行ってほしいということをお願いされたときは、やはり今まで運んでいた方に、どうしたらいいかなど、保健センターの方にも、この部分は知らないのやってほしいということでお手伝いをいただいて、注意点などを聞いて、初めてのときは運んだ記憶があります。

○議長（新澤良文君） 具体的に濱坂保健師と別で運んだっていう、具体的にどういった日にちというのは、ご自身は覚えてますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 初めて、たしか運んだ日が、21日の日に。

○議長（新澤良文君） 何月。

○証人（藤原香織君） 7月21日の日は再冷凍になると言われている、そのワクチンを前もってあるので、あと足りない分だけを持っていくっていうところで、濱坂保健師はもう既に従事しておられるので、私に連絡が総務課、どこから、プロジェクトから来て、保健センターに取りにいて足りない分を持ってきてほしいと確か言われた日があったと思います。

○議長（新澤良文君） 7月21日っていうことですね。7月16日のワクチンは、その疑義がある、問題のワクチンについては、御自身は関わっておられませんか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） そのときはワクチン運搬ではなく、ワクチンを運搬するところにはいなかったの、ワクチンの移動方法などについて詳しく知りませんでしたし、そのときは、なので、石尾課長さんがワクチンをディープフリーザーから取り出したりしていただいてました。あと、ほかの注射器などを一緒にこれだけを

数えてくださいというところで、一緒に数えていました。

○議長（新澤良文君） では、この7月16日、ワクチンの移送等々には関わっていないということでございますけども、ワクチン移送をされた方と同行はされてるということではよろしゅうございますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） はい、役場に帰っている途中で、公用車が止まり、一緒に行ってほしいということで、保健センターに取りにいったので同行しています。

○議長（新澤良文君） この保健センターでの滞在時間はどれくらいおられたんですか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 滞在時間をしっかり記憶はしておりませんが、すぐに出て、取りにいったって出ていったという記憶はございません。初めて注射器なども数えるというところで、ちょっと時間がかかったように思います。

○議長（新澤良文君） じゃあ、5分程度の時間ではなかったということではよろしゅうございますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 5分とか、そのはっきりした時間に関しては、時計は見ていなかったもので、はっきりお答えすることはできません。

○議長（新澤良文君） では、ファイザーから、7月16日の移送について関わっていらっしゃったとは言いませんけども、同行されていたということで、ちょっとファイザーから百条調査に基づいて問い合わせた質問等についてお尋ねいたします。先ほども濱坂証人のほうからも聞かせていただいたんですけども、まずは常識として、質問が違えば答えが違うというのは、これはもう当たり前のことで、ファイザー社に問い合わせたところ、恥ずかしながら本町からは2件の異なった質問が入っておりました。これはファイザーのお客様相談室に来た質問事項を議事録に起こされたものを、証拠として提出させたものなんですけども、まず、高取町役場の石尾様から、少し読み上げます。金曜の夕方に、マイナス70度の冷凍庫から出し、ワクチンを接種会場へ保冷バッグに保冷剤を入れて配送した。移動時間は5分ぐらい。接種会場にて、ワクチンが入った箱の中の温度がマイナス15度より低い状態であることを確認し、マイナス18度の冷凍庫へ入れた。スタッフより再冷凍に当たるとではないかと指摘され、また、2度から8度の家庭用冷蔵庫に入れ直したと。対応は間違っていたのか知りたい。間違っていた場合、ワクチンを使用できないため、正しい対応について知りたいというのは、高取町、石尾様から電話が入ったというファイザーの回答でございます。

それについてのファイザー側の回答は、ファイザー株式会社コミナティ製品担当者、

マイナス15度より低い温度が保たれていたということですので、マイナス15度からマイナス25度であれば冷凍されておりますので、冷凍庫での保管で大丈夫です。文書を、2021年7月、本来はマイナス90度からマイナス60度から、マイナス25度からマイナス15度に移し、1回に限り、再度マイナス90度からマイナス60度に戻し保存することができます。2.冷蔵保存については、2度から8度に戻されたということですので、再冷凍はできません。31日の間に御使用くださいというような回答がされています。

一方で、松本さんもファイザーのほうに問い合わせられています。こちらのほうは、マイナス75度、ディープフリーザーから取り出し、国からもらった保冷ボックスで移送し、ワクチンを接種会場の冷凍庫に入れてしまった。今回、4時5分にディープフリーザーから取り出して保冷ボックスで移送して、冷蔵庫に入れたのが5時前後、6時に連絡があり、冷凍庫から冷蔵庫に移し替えた。もしかしたら町役場からは取り出したのは5分ぐらいだと言ったかもしれないが、町役場がファイザーに問い合わせた際に冷蔵で配送し、冷凍庫に入れたものを使用しても大丈夫だと言われたらしい。本当か。そして、保冷ボックスの温度は2度から8度で間違いはないか。そして、町役場はどのような問合せをしたか教えてほしい。

これにつきまして、ファイザー株式会社コミナティ製品担当者が回答してまして、文書上、解凍後は再冷凍しないことと注意喚起しております。コミナティの凍結融解に関する安定性は確認されておられません。なお、本剤を再冷凍した場合の使用可否につきましては、承認された用法、容量以外で用いた際の体内動態や安全性及び有効性の検討を行っておりませんので、適正使用の観点から、弊社としては推奨しておりません。次に、保冷ボックスがどのような温度帯になるか、弊社では情報を持ち合わせておりません。次に、個人情報のため、お伝えできかねますというのはファイザーの回答だったようなのですが、簡単に申し上げますと、高取町役場の石尾さんからは、保冷ボックスに入れて、すぐに移動を、5分ぐらいの移動したと。そして、ワクチンの温度がマイナス15度より低い状態であることを確認し、マイナス18度の冷凍庫へ入れたってという質問と、そして、松本保健師のほうは、ワクチンを4時5分にディープフリーザーから取り出して保冷ボックスで移送して、冷凍庫に入れたのは5時前後というふうな回答があったんですが、これ、5分なんか、簡単に申し上げますと、5分なのか、御自身もこのワクチンをいつ入れたかとかいうことは認識がないということで、だったんですけども、大体感覚的に、注射器を御自身は数えてらっしゃったりとか、そういう諸々の行為を、行為というか業

務というか、仕事をなされとったということなんで、大体、時間というのはおおよそでもわかるはずなんですけども、大体この滞在時間というのは何分ぐらいおられたんですか。この2つの異なる質問に対して、どちらのほう为正しいと、どちらが正しいとは言えないまでも、滞在時間はどれぐらいおられたかということをお答えいただけますか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） ワクチンを数えていたところの時間は不明確だったんですが、その後、到着してから、リベルテに到着してからもどうするかっていうところで話、いや、大丈夫ですかっていうことで大分言ってた時間があったので、それを、後からですが、5分っていうふうにお話ししていたところをお聞きしまして、5分ではないなというところで、それであれば、松本保健師のほうきちっと出た時間までを把握されているので、そちらのほう为正確性が少しなりともあるんじゃないかと思いました。

○議長（新澤良文君） 御自身の認識の中で、この今回の16日のワクチンについては、そういうことであれば、再冷凍ワクチン、再冷凍してしまった、事故にあたるものか、あるいはプロジェクトチームが主張するように、問題ないワクチンであったとお思いなのか、どちらだと思いますか。藤原証人

○証人（藤原香織君） 今、全ての事実を知ったところでは、使うべきではないというふうに思います。

○議長（新澤良文君） では、もう1件、お昼の間にちょっと県のほうに、これも県のワクチン室の松井さん宛に、これもちょっとプロジェクトチームの主張とは違って、高取町新型コロナウイルスワクチンプロジェクトチームの石尾さんという人から電話が入った。あと、松本さん、異なる質問が入ってるというわけで、これも県のほうに恥ずかしい話なんですけども、ワクチンの取扱いに関して相談したい、これはプロジェクトチームの石尾さんから電話が入ったらしいです。それで、18日にワクチンを保健センターの超低温冷凍庫、マイナス75度を取り出し、接種会場の冷凍庫、18日ちゃう、16日やな、16日に移送した。移送には、国から提供された保冷バッグを利用したが、時間は5分ほどであり、ロガーを使用して冷凍状態、マイナス20度以下で移送した。上記の移送方法に関し、町の保健師から、接種会場の冷凍庫に入れた行為は再冷凍に当たるのではないかと指摘されたということで、県に対しては、データロガーをつけて保冷バッグで運んだっていうような質問をされております。これは県の松井さんという方が、ワクチン室の、証言されているんですけども、この保冷バッグにデータロガーはついてましたか。藤原証人。

- 証人（藤原香織君） データロガーはついていません。
- 議長（新澤良文君） では、この18日、16日のワクチンを移送したときの事案について、18日、日曜日の業務終了後に会議が行われておりますが、これは藤原証人は参加されていないということでよろしゅうございますか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 参加していません。
- 議長（新澤良文君） では、次に、9月29日に提出を受けた情報提供シートについて、用紙の左側にワクチン管理者である保健センターで記入し、受け取りの署名を受けておられます。同行された藤原保健師の考えを教えてください。このワクチン情報提供シートということ自体は御存じですか、存在自体。
- 証人（藤原香織君） どの用紙のことをおっしゃってるのか、ちょっと。
- 議長（新澤良文君） ちょっと後ろを向いてもらえます。
- ワクチンを取りに行ったときに、どこからどこまで、そして誰が何度でって、これ見たことある。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 自身が初めてワクチンを運ぶところに担当になる前に、総務課長にどのようにするのかを教えてくださいました。
- 議長（新澤良文君） この情報提供シートの存在ということでよろしゅうございますね。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） その存在と書き方やワクチンの運び方を総務課長より教わりました。
- 議長（新澤良文君） そのときに、書き方の中でどこどこを確認しようと。例えば、この情報提供シートの中では、どこからどこまで誰が、温度は、保管温度何度か、それと、受渡し日時と受渡しバイアル、ロット番号、それで最後に超低温冷凍庫から取り出した時刻、そして移送温度というのを全て記入するようになってるんですけども、御自身は、これは全てきちんと記入されていた、でよろしゅうございますか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 私が全部確認しながらサインをしました。ただ、初めの地域交流センターのときに、朝、取りに行っていたので、ある程度、変わらないところは、先に保健センターが記入してくれているところがあるっていうところも教えてくださいました。ただ、取り出した時間については、取り出した後、私が、ある日、松本保健師とお話をして、5分ほど経ったときに松本保健師は、5分経ったので、ここの時間を変えてくださいということで、きっちりその時間に書き直したので、とてもきっちり管理されているなというところを思ったのがすごく印象的です。

- 議長（新澤良文君） 人のことなんでちょっと答えにくいかと思うんですけども、プロジェクトリーダーは、この情報提供シートについて、日にちあるいはバイアル数、ロットナンバー等々、時間もそうなんですけども、は覚えてますけども、温度は何度でどうこうという記入、記載というのは覚えてないという証言をなされてるんですけども、そういうのってあり得るんですか。藤原証人。事務的なことでね。
- 証人（藤原香織君） 私が初めてやるときに、どれがどうなっているかというのがすごく不安だったので、融通回数などは何を書いたら、わからなかったのが、そういうところまで保健センターに確認して全て埋めるようにしていましたので、わからないってところが私自身ではちょっとできないです。
- 議長（新澤良文君） では、御自身は、この7月16日の再冷凍事故については、何でこういう事態になったのかな。というのが、ワクチンが再冷凍であるんじゃないかということが、御自身は参加されてないにしても、7月16日からもそうなんですけども、それで、18日の業務終了後には、町長をはじめ副町長、参事、石尾リーダー、前田サブリーダー、松本保健師、総務課長等々、協議の上、この再冷凍ワクチンについては、どうするこうするっていうようなことも協議されている。そして、なおかつ7月19日はプロジェクトチームと保健センターが、それぞれ県あるいはファイザー、保健センターは厚生労働省まで電話入れているんですけども、相談してるんですけども、ここまで疑義のあるというか、そういうワクチンを21日に町民に接種するという、大きな決断に至ったっていう、その決定するに至った経緯等々、どうしてこういうことになったのか、御自身の考えられるところ、知るところにおいて、どうお思いになるか、お聞かせください。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 一つは、下の者からの意見を聞き入れるっていうその体制など、そういったところがあればよかったのかなというところと、あとは、危機管理意識のところ、あと、危機管理体制などのところがちょっときちっと、それぞれもですし、体制としてもですし、できていなかったことで、一度、使わないでというところになったところを、さらにまた使うっていうところへ変わったのかなと思います。
- 議長（新澤良文君） 危機管理能力といいますか、もう藤原証人がおっしゃるとおりで、やっぱり現場の声を何で聞かないんだというのが一番、町民の皆さんもそうですし、私たちも疑問に思うところなんですけども、危機管理意識というよりも常識が足らなかったんじゃないかと。こういう疑義のワクチン、もうファイザー等々は、県もそうですし、こういうワクチンは人体には接種しないでくれという指導をされ

ている、責任は持ちませんよということをおっしゃってるワクチンを町民にわかっていて接種してしまうという、大きな責任問題になってくると思うんですけども、危機管理意識というよりも常識が足らん、常識の範疇やと思うんですけどもね。

そういった中で、7月25日、7月28日、これについては、リベルテホールでまた町民の皆さんに、必ずしも2度から8度できちんと管理していなかったワクチンを接種したというのが報道等々で問題提起というか、報道されております。この件について御自身はどうお考えになるでしょうか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 2度から・・・、冷蔵庫をきちっとした形で24時間管理してないってところでのワクチンっていうところは、本当に使うべきではないと思います。ただ、そのときの冷蔵庫でやっていこうってなったときに、これでも大丈夫っていうふうにいるいろいろな情報、お話しする中で、棒温度計が大丈夫だし、ほかのところもそうしているというところで安心してしまい、そこまでの私も危機管理意識が足らなかったというふうに思います。

○議長（新澤良文君） 結果的に温度管理ができてないワクチンを町民に接種してしまった、この再冷凍ワクチンを接種してしまったっていうこの件についても、今、町民に対してどのような思いでおられますか。このときは悪いことをしてるんじゃないかというような後ろめたさはあったんですか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 再冷凍を使うということの話のときは、もうきちっと確認して、大丈夫っていうふうに伝えられていたので、そこにあまり疑問のところは少なかったのかなというふうに思います。また、私のリベルテホールでの仕事は8月に入ってからでしたので、それまでのところのワクチン接種について、ちょっと自分自身が意識が低かったのかなと思います。なので、もう少し一緒に考えていけばよかったなというふうに思って、町民の皆さんには申し訳ないと思います。

○議長（新澤良文君） では、新たに6月13日の地域交流センターの接種についても再冷凍があったと報告がありましたが、この件については藤原保健師は関わってはおられませんか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） 私は、地域交流スペースでその日に勤務していたかどうかはちょっと記憶にないんですが、ほとんどの日は勤務していました。ただ、私の担当しているところが経過観察であって、接種した後の人を見ている場所にいましたので、ワクチンの管理などには関わっておらず、申し訳ないんですけど知りませんでした。

○議長（新澤良文君） この日のワクチンの冷凍庫、今は冷凍庫ってわかるんですけども、冷蔵庫から薬液を出されたのはどなたになりますか。藤原証人。

- 証人（藤原香織君） 毎日、担当になるところが経過観察の場でありましたので、いつも誰がワクチンを出したりというところは把握しておりません。
- 議長（新澤良文君） 考えられるとすれば、例えば誰彼なしに冷蔵庫を開けるとい  
うわけじゃないんで、どういう役目の人がこの冷凍庫あるいは冷蔵庫からの出し入  
れというのを担当されるんですか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） へいせいクリニックの看護師さんか、濱坂さんか、またはそ  
の日に充填に当たっている看護師さんか、またはいつもワクチンを運んでくれる総  
務課長や前田補佐か、参事か、どなたかがされているのかなというふうに推測でき  
ます。
- 議長（新澤良文君） 現場単位で、冷蔵庫から誰が出すかっていうことはそんなに  
重要じゃなかったっていうか、誰でも冷蔵庫を開けてワクチンを取ってこいみたい  
な感じで、その出し入れというのは誰がするのかは決まっていなかったということ  
でよろしゅうございますか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 私がちょっと自分のところではないというところで把握して  
いないので、そこを担当している方であれば決められていたかと思います。また、  
どこにワクチンの冷蔵庫があるかだけは、場所については、一番初め、自分がどこ  
に当たるかわからなかったりとか、急に取ってきてくださいっていうことに、もし  
なったときに困ると思って、冷蔵庫の場所だけは、一番初めの始まる開始の前に、  
参事とへいせいクリニックの看護師さんに鍵を開けてもらって、ここですよとい  
うところで確認したのは記憶しています。
- 議長（新澤良文君） では、次に、ワクチン接種体制についてお尋ねします。  
リベルテホールでの接種体制は、初めは、植山所長や松本保健師が出勤する場合は  
植山所長や松本保健師が総括看護師となっていたようですが、後日、保健センター  
の保健師を2名外して、濱坂、藤原両保健師を中心にシフトを組み直したとお聞き  
しました。この件につきまして、藤原保健師は何かこのシフトの変更等々について  
疑問といたしますか、そういったことはございませんでしたか。藤原証人。
- 証人（藤原香織君） 松本保健師さんから、初めにシフトに入れるところを書いて  
いるというところを後から聞きました。当初は、私はずっと交流センターのときは  
休みなく働いていたので、保健師さんの負担を減らしていきますということをお伺  
いしてたので、松本保健師と植山所長がたくさん入れるってところで記入した  
のが減ってるというところには、違和感はあまりありませんでした。それは、毎日  
出なければいけないというところを、これから減らしていくからねっていうふう

お聞きしていたので、そこは納得できました。ただ、総括看護師というのは当初はなかったんですが、後からあって、私が見たときはもう既に私と松本保健師と濱坂保健師が入っていて、そこに植山所長が入ってないところはちょっと違和感を感じて、どうしてかなというところで思ってたんですが、誰からお聞きしたかわからないんですけど、ワクチンの管理はとっても大事なので、植山所長はその管理のところをきちっとしたいというふうに言われてるというところをお聞きして、私がそこにつくとワクチンを吸わなければいけないということをお聞きしたので、それは私は練習すればできますが、うまく手際よくできるかは心配なので、そこに配置されることはちょっと御迷惑がかかるし、できればそこにはしないでほしいということをお伝えしていただきましたので、植山所長は、以前一緒に働いているときも、看護師の経験も長くおありで手際よく保健センターでもされてるってお聞きしたので、そのためにそこに行って、きちっとワクチン管理をするっていうところで行かれてるのかなというところで思っていました。ただ、それにしても私たちがすれば、総括看護師という名前がついてるので、そこに行きたいとおっしゃっても、総括看護師に来てほしいなというところは思っていました。

○議長（新澤良文君） では、最後に、総括看護師の責任について、何かその任務を受けたときといいますか、そういったときに任命されたときに、総括看護師の仕事あるいは役割、責任については御説明を受けましたか。藤原証人。

○証人（藤原香織君） その点は受けていなかったです。自身としては、その当日に、観察室と補充と運ぶところと接種のところの医療の関係するところをきちっと見ていく役割ではないかなっていうところを自分自身で思いまして、注意すべき点とかをちょっと自分なりに書き出したりしながらしていました。

○議長（新澤良文君） どなたか、藤原証人に対して質問のある方がいらっしゃればお受けいたします。よろしゅうございますか。

〔「なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） じゃあ、藤原証人の尋問をこれで終わります。お疲れさまでございました。

ここで暫時休憩いたしまして、次に、中川町長から証言をいただきます。暫時休憩。

午後 2時32分 休憩

午後 2時41分 再開

---

○議長（新澤良文君） 再開いたします。

次に、中川町長、証言台のほうへお願いいたします。

宣誓をしていただいて、宣誓書に署名、捺印をお願いいたします。

○証人（中川裕介君） 宣誓書。私は、良心に従って真実を述べ、何事も隠さず、また、何事も付け加えないことを誓います。令和3年10月11日、中川裕介。

〔中川証人 宣誓書に署名、捺印〕

○議長（新澤良文君） では。

○証人（中川裕介君） すみません、先に補正予算のお願いと、ちょっとおわびだけさせていただいてもよろしいですか。

○議長（新澤良文君） はい。どうぞ。

○町長（中川裕介君） 先に、今ちょっと議長からお許しをいただきまして、高取町長として、今回の案件につきまして心より深く反省をしております。おわびを申し上げます。また、先ほど検査のための補正予算、御議決いただきまして本当にありがとうございます。本当にしっかり検査をやってまいりますので、皆様方の御理解いただきますように何とぞよろしくお願いいたします。よろしく申し上げます。すみません、ありがとうございます。

○議長（新澤良文君） それでは、中川町長にお尋ねいたします。

9月21日から24日、29日、10月5日と、これまで4回の調査のために証人尋問を行い、本日で5回目の調査となり、町長につきましては2回目の証人尋問となります。これまで証人尋問では、7月11日については、遅くとも7月12日には、針刺し事故等、また、二度打ち等の可能性を疑ったほうがよいという町幹部からの進言をされて事故の認識がおありになったと推測されますが、結果として町幹部の隠蔽と捉えかねないような対応になりました。これについて中川町長はどうお考えなのか、お聞かせください。

○証人（中川裕介君） 7月21日に私、証言させていただきまして、そのときに申し上げますけれど。

○議長（新澤良文君） 9月21日。

○証人（中川裕介君） すみません、9月21日に御証言させていただきました、そのときに申し上げましたように、そこら辺の記憶についてあまり覚えてなくて、実際に職員、また、現場の保健師さんの証言を聞いておりまして、そういうようなことを私が申し上げたということで、深くそのときにもっと少しでも事案に対する認識を持ち、また、危機管理の意識を持って、皆さんのいろいろ御提言、また、御意見いただいているのに、何でこのことをそのときに即時に対応せず、今、議長がおっ

しゃったように、結果的に隠蔽したと言われても仕方がないというふうに思っております。もうただただ反省とおわびのみでございます。本当に申し訳ございませんでした。

○議長（新澤良文君） 反省の弁をいただいて恐縮なんですけども、この7月11日の事案につきましては、少なくとも町民の59名については、感染症のリスク、C型肝炎、B型肝炎、エイズ等のリスクがあった中、そういった11日の時点でもそうなんですけども、12日には、町長、副町長、総務課長、プロジェクトリーダーからの進言があったにもかかわらず、御自身の今、認識の甘さとおっしゃいましたけども、判断で、これを町民の命あるいは健康被害のリスクを考えもせず御判断をされたという、このことについて、再度、恐縮ですが、町長のお考えをお聞かせください。

○証人（中川裕介君） 今、議長の御質問にございます、町長としまして、やはり自分の発言の重さというのは、もう改めてっていいですか、そういうことは肝に銘じてしていかなきゃならないと思っております。常にやっぱり冷静、それと沈着で皆さんの意見を積極的に聞いて判断するという、それが本当の町長の姿と思っております。そのとき、そういうことが私には劣ってたというのは、もうただただ本当に反省、今後こういうことがないようと思っておりますが、危機管理意識を持って住民の皆さんの安全・安心、それと健康を最優先に常に判断をしていくということで、そのときにしっかりそういう判断をしなかったというのは、先ほど私、申し上げましたとおり、ただただ反省でございます。本当に申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） 事実の真相究明をしている議会でございますので、ここで、あえてまだ食い下がって質問させていただきます。御自身は、県にお勤めの頃、そしてまた、医大等々で医療についての御認識は深いと感じておる次第なんですけども、この針刺し事故については、御自身の御認識の中ではこういった危険性、私が先ほど申し上げましたけど、C型肝炎、B型肝炎あるいはエイズ等々の可能性ということをお知らせしたけども、御自身としては、この針刺し事故があった場合、こういった危険性があると御認識なされておったのでしょうか。

○証人（中川裕介君） 針刺し事故でございますが、今、議長おっしゃったように、感染症というのが一番重要なリスクポイントというふうに、それは認識しております。そのときに、そういうことってというのが自分ではちょっとわからなかったんですけど、あまりそういう意識が、ひょっとしたらそういうのは認識をしながら即時に実行できなかったということは本当に申し訳ないというふうに思っておりますし、

当然危機管理の意識が甘かったと言われても仕方がないと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 危機管理意識がなかったと、そのとおりだと思うんですけども、もうそもそも人としてどうなんやというようなことも問われてくるのかなと。行政の長として、あるいはこの町のリーダーとして、高取町の行く末、あるいは船をこいでいらっしゃるその船頭として、町民の命をないがしろにして、また、週刊誌等々でこの事実が明らかになるまでこれを隠蔽した、この点については非常に重い、また、悪質なことがあると思うんですけども、御自身が週刊誌報道等々でこの事実を報じられたときに、どう考え、町民に対してそのときにどういう思いでこの報道を受けられたのか、また、そのときの気持ち等々をお聞かせください。

○証人（中川裕介君） 私としては、もう本当に反省だけでございます。町民の皆さんに対するおわびともう反省でございます。安全・安心ということで健康ということを最優先にしっかりやっていったつもりやったんですけど、まだまだ至らないところがいっぱいあって皆さんに御迷惑をかけ、本当におわびする以外ございません。本当に申し訳ございませんでした。

○議長（新澤良文君） そして、この週刊誌等々の報道の中で指摘されたシリンジの一本余りという件に関しまして、その後、打たずに帰った人がおった。この点について、そういう判断をなされたということについては、前回の議会の中でもお尋ねしたところなんですけども、この行政として打たずに帰ったという判断に偏ってしまった、あるいはいろんな可能性もある中で、どちらかと申し上げますと、針刺し事故というのは全国的にいろんな自治体で起きている事故でございまして、その可能性が高い、まして打たずに帰った人の可能性というのは、特定もされていないから何の根拠もないような判断に至った、この判断に至った経緯というのは、しつこいようなんですけども、もう一度聞かせてください。

○証人（中川裕介君） 先ほど御答弁させていただいたように、そのときの記憶ってかなり忘れております。ただ、ほかの保健師さん、また、副町長をはじめ職員が証言をしております。その多分11日の夕刻に、様子を見ましょうというふうに申し上げたかとも思います。今いろいろ今回の百条議会で現場の保健師さんの証言を聞いてみますと、針刺し事故というのがやっぱり可能性が非常に高いというふうに思っておりますし、当日従事されてました保健師さんの御証言でもございましたけども、例えばチェック体制とかそういうふうなこと、接種せずに帰るっていうのはなかなかないということでございましたので、そのときに私のほうがもっといろいろな現

場の職員さんのお声を聞いて、すぐに適切に判断をさせてもらってたらなということでございます。先ほど申しましたように、現場の保健師さん、現場の声を聞くというのはやっぱり非常に重要でございます。実際に業務をされておりますので、その内容が十分わかると思います。そういう声を私も含めましてしっかり聞けなかったというのが、もう本当に反省する次第でございます。本当に申し訳ございませんでした。

○議長（新澤良文君） この件につきましても、また後ほど申し上げますけども、例えば再冷凍の件につきましても、町長、町民に対しては正式にこの事故の報告あるいは説明あるいは謝罪ということに対しては、かなり日にちが経っているもかかわらず十分な説明はされてないと思うのですが、この点についてはどうお考えなんですか。

○証人（中川裕介君） 申し訳ございません。少しでも早く、今、議会でこういう形で調査していただいておりますので、そういうようなことを含めまして町民の皆さんにまずしっかりと謝罪をする、それからこういう形で議会のほうの予算も上げていただきましたので、しっかり検査をさせていただくということで発表させていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） この59人の該当者の方、僕、新型コロナウイルス感染症対策本部でも意見させていただいたんですけども、9月の19日に副町長等々町の職員が何人かで、こういう事実がありましたということを説明に行かれた。そして先日の感染症対策本部会議の中で私は質問したんですけども、その時点では、まだ19日に、もしかしたらという説明も、した方々に対して一本の電話も何の説明も、そして今後どうするかということも説明されてなかった。この点について、その後、改善はされましたか。

○証人（中川裕介君） 私からすると、8日、金曜日だったと思うんです。ちょっと日程があれですけど、役場のほうから59の方に電話をさせていただきまして、それと、また文書も通知させていただきまして、実は今日補正予算を通していただきましたので、明日、7月11日の方、それと8月1日の方、全部で99名おられます。検査を早速させていただきたいということで、もう今日職員も行ってますけども、準備をさせていただいているところでございます。8月1日の方、7月11日の方、通知文、それとお電話で連絡をさせていただいております。それで、明日に感染症及び抗体検査を実施させていただくというふうに、今そういう段取りで進めております。以上でございます。

- 議長（新澤良文君） 7月11日の件も、当初から認識の違いというような形で承知されとったというか、そういう発表しかされてなかったということで、自治会のほうからも、今度自治会の臨時総会をされるとお聞きしております。その中では町長に対しての質問等々はされると思うんですけども、この7月11日、まずこの件については、町が過失といいますか、瑕疵があったと、この部分に対してはお認めになりますか。
- 証人（中川裕介君） いずれにしても、やっぱり危機管理意識、非常に甘かったということでございますんで、針刺し事故というのも十分可能性が高いということでございます。実際に町でこういう形で進めておりますんで、事故があったと、今日、朝も申しましたように、責任を認識しております。それに対して適切な対応がそのときにできなかったということでございます。反省しております。
- 議長（新澤良文君） まず、ちょっときついことを申し上げますけども、週刊誌等々で報道されていなければ、いまだにこれは町民の方に対しては何のあれもなかったでしょうし、これは町長のほうから明らかにするということは、お考えはなかったんですか。と申しますのは、やはり感染症という、町長も医大等々で働いておられた、あるいは県の幹部でもおられたということですので、感染症というのに関しては、リスクということに関しましては十分な知識があったと考えられます。にもかかわず、これ2か月以上も町民をないがしろにしてほっとき放しと申しますか、隠蔽されたわけなんですけども、週刊誌で事実がリークあるいは公表されていなければ、これは表に出てきたんですか。
- 証人（中川裕介君） 先ほど申しましたように、もう結果的に隠蔽したと言われても仕方がないと思っております。本当に申し訳ございませんでした。
- 議長（新澤良文君） 今までは週刊誌等々で報道されなかったら、これは積極的に町民のことを考えて公表するというまでには至らなかったというお考えやったということではよろしゅうございますか。
- 証人（中川裕介君） 結果的にそういうことになっておりますので、本当に申し訳ございませんでした。
- 議長（新澤良文君） では、8月1日、先ほど町長、答弁の中でもございましたけども、これは接種済みシールが2枚足らなかったという案件でございます。これも針刺し事故または二度打ちの可能性、これは100%ということとは言えない、絶対なかったということとは言えないということ先ほど申しておられたのかと推察するんですけども、そういうことではよろしゅうございますか。

○証人（中川裕介君） 先ほど申しましたように、まず行政としては、住民の皆さんの安全・安心、健康というのをやっぱり最優先に、極力リスクを減らそうということで努めるべきやと思っております。その段階で、今回のシールが2枚不足してた、接種者とシリンジが合うてたということ、あと、予診票も合っていたということなんですが、念にはじゃないですけども、最優先にやっぱり住民の皆さんの安全・安心をという観点から、針刺し事故は100%ないということも言えませんので、今回、同じように明日ですけども、感染症と抗体検査をさせていただこうと。もう御本人には既に通知済みでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 次に、7月16日、移送したワクチンについては、結果として再冷凍であり、使うべきではなかったとの保健師の進言を無視し、接種担当者の報告を受けて7月21日に住民に接種、こちらも百条調査で明るみになるまで隠蔽していたということが疑われるんですけども、この件についても積極的に町長のほうから町民に発表するという思いには至らなかったということでよろしゅうございますか。

○証人（中川裕介君） その段階で私もここら辺の記憶があまりなくて、7月18日の打合せとか、また次の日だったんですか、打合せされたっていうのはないんです。ただ、証言をいろいろ聞かせていただきました。ファイザーの答えが、当然聞き方が違うから答えも違うという形で、何ていいますか、正反対の答えになっております。そういう意味で、今のそこまではしっかり事実確認をしてなかったというのは事実でございます。本当に申し訳ございませんでした。

○議長（新澤良文君） この件につきましては、7月18日、日曜日の業務終了後に反省会という形で午後6時から、出席者は、町長、副町長、参事、総務課長、石尾プロジェクトリーダー、前田サブリーダー、そして濱坂保健師、松本保健師という形で話し合われております。証言によりますと、この日の会議の最後には、松本保健師がファイザーあるいは関係機関等々に問い合わせ、その結果において判断しようということになったという証言を聞いておりますが、そのとおりでよろしいですか。

○証人（中川裕介君） 先ほど言いましたように、その時点であまり自分としては覚えてないということで、ただ、証人がおっしゃってるんで、それは事実やと思います。

○議長（新澤良文君） ちょっと町長の証言の中では覚えてないっていう証言が多いんですけど、弁護士の人と相談した結果そうなるのかなということも推察

されるんですが、そもそも町長、これは弁護士に相談されたんですか。

○証人（中川裕介君） 何もしておりません。

○議長（新澤良文君） この記憶にないっていうのは、大きな事案だと思うんです。例えば再冷凍に当たるんかどうなんかということをお話し合った協議会であるとか、そして先ほどの針刺し事故の可能性もあるという大きな事案についてのことであるとか、記憶が曖昧、記憶が曖昧って、こういう住民の、あるいは町民の命、健康被害に関わることに對して記憶がないっていう、あんまり記憶がない、記憶がないっていうこと自体が責任感がないと思われるんじゃないんですか、どうなんですか。

○証人（中川裕介君） 反省いたします。そのときには、毎週水曜日、日曜日にワクチン接種に追われておりまして、皆さんに少しでも早く、また、少しでも多くの方にワクチンを接種していただきたいという気持ちで日々過ごしておったと思います。そういう意味で、今、議長からお叱りを受けておりますが、そう言われても仕方がございません。

○議長（新澤良文君） じゃあ、この16日のワクチンの再冷凍、結果的にいろんな状況証拠あるいは証言等々を判断した場合、ファイザーあるいは厚生労働省、今日は県のほうからも石尾プロジェクトリーダーと奈良県のワクチン担当の松井さんとの会話に対する議事録と申しますか、会話記録が県から百条調査権に対する証拠書類として提出されております。こういうところを確認させていただきますと、プロジェクトチームの人たちっていうか、石尾リーダーが、まず違う、あるいは虚偽の質問と申しますか、そういうことになって、流れ的にこのワクチンが大丈夫やというようなことになったのかなと。と申しますのは、このワクチンを移送するときに、データロガーをつけていたであるとかっていう、これまた石尾リーダーを尋問しなければわからないこともたくさんあるんですけども、結果的にこれは全てのことを、ファイザーからの証拠もございませぬ。全てが、つまりはこれは再冷凍に当たるということをお、今になって遅いんですけど、お認めになりますか。

○証人（中川裕介君） 今、議長から御質問を受け、それと、皆さんのいろいろ証言を聞かせていただいて、自分なりにいろいろと、国の取扱説明書、また、ファイザーの取扱説明書、ホームページ等に掲載しておりますので勉強させていただきました。まず、厚生労働省の事務連絡によりますと、各地方公共団体、市町村に配付されたバッグは、冷蔵移送用保冷バッグと書いておりますんで、これはあくまでも冷蔵を前提とするように私は考えます。それと、もう一つは、国の手引、また、ファイザーの手引を見ますと、冷蔵移送したワクチンは冷蔵保存すべきです。2度から8度

とすべきですと。冷凍庫に保存することは、取扱いのマニュアルには従っていないということですので、そういうようなワクチンを接種したというのは、それは取扱い等に従っていないワクチンを接種したということは、もう誠に遺憾でございます。

そういう意味で、当時のリベルテホールで、保健センターから保冷バッグに入れて保冷剤も入れておられたということで証言をされてますけども、それを、冷蔵ワクチンでございます。先ほど言いましたように、冷蔵庫で冷蔵移送するという前提で作っておりますので、それを冷凍庫に入れるということは、もう再冷凍の可能性が非常に高い、再冷凍と言わざるを得んと私は今の段階で自分としては考え、ただ、ワクチンの専門家でもございませぬし、医者でもございませぬ。わかりませぬが、自分としてはそういうふう結論をつけたというふう考えております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） その結論は、いつつけたんですか。

○証人（中川裕介君） 実際にいろいろ皆さんの御意見を聞いております。証言を聞いております。そういう意味で、また自分も勉強させていただいたということでございます。1つは、例えば問い合わせ、ちょっといろいろ勉強しまして、そういう・・・でございます。

○議長（新澤良文君） 今週の土曜日までは、その結論には至らなかったということですか。先週の土曜日まで。

○証人（中川裕介君） しっかりちょっと自分なりにいろいろ勉強させていただいたかったというふうなことでございます。申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） まず事実として、運ばれた経緯あるいはこの取扱い等々について、そして現場、石尾証言、松本証言等々もあるわけなんですけども、これ全ての証言あるいは事実確認等々は、この百条調査権発動の議会においても当初から指摘されてるところなんですけども、この16日の時点での、これは疑義があるという疑義ワクチンだということで話し合われてるという、もうこれ書類に全て残っているんですけども、このときには、町長も、そういうリスクのあるワクチンであれば廃棄すればよいではないかという発言もされております。ということは、何らかの疑義がある危ないワクチンだったということは認識されてた。精巧な正当な、人の体に打つもんですから、きちんと管理されて、きちんと温度も安定していてというような、本来当たり前のことなんですけども、そういうワクチンではなかったということは御認識されてたということが、今までのこの7月18日の会議記録等々あるいは証言等々全てを考えるとそう取れるんですけども、町長はどう思

われますか。

○証人（中川裕介君） そのときは、その取扱いマニュアル、例えば冷蔵はどうやとか、冷凍はどうやとか、そういうことまで知識がございませんでした。誠に申し訳ございません。そういう意味で、まずやっぱりその段階で、さっきも私が申し上げたんは、ややこしい疑問のあるものは、薬なんで廃棄すればいいんじゃないかなというふうに、何の根拠もなく、そういうふうに申し上げたかと思います。以上でございます。

○議長（新澤良文君） でも、何の根拠もなく言われたということなんですけども、これって16日に18日に接種する分を事前に取りに行って、その後、保健センター、プロジェクトチームの中で議論になり、そして18日午後6時からこのことについても話し合われてるっていうことを考えますと、怪しい、あるいは疑義のある、あるいは不安な、不安ワクチンであったということは、御認識されてたということじゃないんですか。

○証人（中川裕介君） そこは、今の段階であれば、まず、そのマニュアルというか、取扱いに従ってないかどうか、従ってるかどうか、そこが一番ポイントやと思います。その段階で私どもの職員が、そういうことで、従ってません、従ってます、それとどうかというのは、やっぱり質問でファイザーに聞かれて、いろいろお答えをされてたということで、今であれば、いろいろ本当に勉強もさせていただくんですけども、純粹に言えば、その取扱いどおりにやっていますか、そうじゃないんですかというふうに、私は今であればそういうふうに感じます。だから今であれば、それは取扱いに合っていないからもう廃棄しましょうというのが本筋かなと思っております。その段階では、ちょっとそこまで知識がなかった。それと、逆に私が職員に、関係者に、そういった取扱いマニュアルを見たらどうなの、という言葉積極的にかけなかったというのが、もう反省でございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 先ほどから町長、照れ笑いみたいなのをされるんですけども、それはちょっと。

○証人（中川裕介君） いやいや、そのつもりはございません。すみません。そういうことはないです。すみません。

○議長（新澤良文君） 7月21日に使用した再冷凍ワクチンについては、県の新型コロナワクチン接種推進室とファイザー社から得た回答と、医師からの了承も得たことをプロジェクトチームリーダーである石尾課長から報告を受け、住民に接種したと証言されています。この件については、こちらについては使用不可であるとし

た、ファイザー社や厚生労働省への問合せ結果を報告した保健センターの伺いには取り合わず、この百条調査で判明してきたプロジェクトチームである石尾課長は、事実と異なる説明から、県担当課とファイザー社から得た回答と医師からの了承の報告を優先されたという、これ簡単に申し上げますと、保健センターの、くどいようですけども、ファイザーあるいは厚生労働省あるいは県のほうに問い合わせしております。そしてプロジェクトチームの、ここは厚生労働省には問い合わせしていませんけども、県、ファイザーに問い合わせしております。この場合、議事録っていうのは電話記録というのが残ってるわけなんですけども、保健センターのを採用しないでプロジェクトリーダーのほうを採用したこの根拠、なぜ優先したのかという点についてはどうしてなのか、お聞かせください。

○証人（中川裕介君） 優先したっていうか、そのときのちょっと、ただ、今言えることは、保健師さんの証言はやはり重いと思います、はっきり申し上げまして。それと、しっかりマニュアルもお読みになってると思いますんで、そのときの判断が誤っていたと申し上げるしかございません。申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） では、この7月21日のワクチン、再冷凍ワクチンを接種した町民に対して、どのような対応、対策あるいは今の時点でどういった説明をされてるんですか。

○証人（中川裕介君） 7月21日の全部で306名の方でございます。306名の方につきましては、事前にお電話で連絡をさせていただいております。それと、検査日程もやっと決まりましたんで、10月の15日、今週の金曜日、10月の21日の木曜日、10月の22日の金曜日、全部で306名の方の抗体検査を実施させていただくという段取りで今考えております。できれば、今日、皆さんに御通知をさせていただくというふうなつもりで、今準備をさせていただいているところでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 7月21日のこの再冷凍ワクチンが先週の土曜日まで、これが再冷凍とは勉強不足で理解がなかったという証言を先ほどされたわけなんですけども、では、先週の土曜日に、この再冷凍ワクチンということを御自身も勉強され、これを再冷凍ワクチン接種事故という形でお認めになるわけでございますか。

○証人（中川裕介君） マニュアルどおりしてませんので、再冷凍と言わざるを得んと思います。事故でございます。

○議長（新澤良文君） 次に、新聞等々の報道でもございましたけども、7月25日、28日の事案でございます。そもそも先ほども議論してきたところなんですけども、

リベルテホールの家庭用冷蔵庫、新型コロナウイルス感染症対策本部会議でも議論しましたが、この家庭用冷蔵庫は温度が安定していなかったという事実が報告されておるところでございます。また、一方で、温度をきちんと管理できとったという証拠も出ておりません。なので、このワクチンの特色上といいますか、ワクチンの絶対条件である冷蔵保存の場合は2度から8度、これ24時間管理しなければいけないという条件は満たしてないワクチンを、またまた7月の25日あるいは7月の28日に、この人体に影響があるかもしれない温度管理ができてないワクチンを積極的に接種してしまったという事案についてはどうお考えですか。

○証人（中川裕介君） まず、従事する職員の皆さん、そのマニュアルを一人一人の研修、そこら辺の徹底がやっぱり不足してたと思います。特に今回の分については、保存といいますか、保管についての知識が不足してたというふうに私は思っております。まず、そういう形で温度管理のデータが取れとればよかったんでしょうけど、ちゃんと取れてない。だから、そういう意識もあんまり思ってなかったのかもわかりません。それと、もう一つ、冷蔵では2度から8度という形で、そういうふうな温度をちゃんとデータで証明できるようなワクチンでなかったということでございますので、温度管理が適切じゃないワクチンを接種したということは誠に申し訳ない、町民の皆さんにはおわびしかございません。以上でございます。

○議長（新澤良文君） では、この温度管理が適正にできてないワクチンを町民に接種してしまったという事故に関しましては、お認めになりましたか。

○証人（中川裕介君） 先ほど申しましたように、取扱いと違うことをやってるんですから、そういうことでございます。

○議長（新澤良文君） これを御自身が、先ほど再冷凍については先週の土曜日までわからなかったということなんですけども、納得できなかったことなのかもしれませんけど、この7月25日と28日に温度管理がされてないワクチンを、健康被害、命の危険も保障できないワクチンを町民に接種したっていう部分に関しましては、いつの段階で間違っていた、問題があるということをお気づきになったのですか。

○証人（中川裕介君） これは、同じようにマニュアルをちょっといろいろ勉強させていただいたということでございます。特に、これは2度から8度という形でどこにも書いてございますし、議長がもう既におっしゃっているところで、そのデータが取れてるかどうかということなんですけども、取れてなかった、残ってないということでございますので、ちょっと時期はわからないんですけども、今週か、先週、今週じゃない、先週の初めか、その少し前ぐらいだったと思います。

○議長（新澤良文君） では、この温度管理ができていないワクチンについての対策あるいは住民に対する説明、対応等は今後どうされるおつもりですか。

○証人（中川裕介君） 今、先ほど申しましたように、7月11日、8月1日、7月21日接種分につきましては、個別に関係の住民の皆さんには御連絡をさせていただいております。それとあわせまして、7月25日、7月28日につきましては、関係の方には個別に御連絡をさせてもらって、今はまだスケジュールは決まっておりませんが、可及的速やかに抗体検査を実施させていただくように準備をさせていただきたいと。本日、補正予算を審議をしていただきましたので、それで進めさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 町長が御認識されてる中で、7月25日、メモは取ってはると思うんですけども、7月25日、28日、該当の町民は、何人いらっしゃるんですか。

○証人（中川裕介君） 7月の25日は623人、7月の28日が306人でございます。

○議長（新澤良文君） そして先日の交流施設いくせいの。5月7日から6月15日、この前、記者会見されたわけなんですけども、町内の職員及び町民入所者115人等、全部で244人っていうことですね。この244人を足した、7月11日から一連の疑義あるいは過失、瑕疵等々あるワクチン接種、合わせましたら約3分の1近くの町民がまともなワクチンを打ってもらってない、また、ワクチン事故に巻き込まれていると、このような大きな結果になってくるわけなんですけど、これを受けて町長はどう思われますか。

○証人（中川裕介君） まず今、私ができることは、大変町民の皆さんに御迷惑、また、御心配をかけております。一日も早く関係の皆さんへの抗体検査を進めさせていただきたいと、それ以外ございません。皆さんに御迷惑をかけ、また、御心配をかけ、本当に申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） 先日の記者会見等々を見させてもらったんですけども、今後は徹底的に指導あるいは注意をしていくということなんですけど、そもそも執行部は、町長自身が先週の土曜日までこの再冷凍ワクチンを納得あるいは理解できなかったっていう部分に関しまして、その前の週にあった記者会見等々での謝罪等々、何をして指導あるいは注意をなさると。これはもう、再冷凍ワクチンだったということで問題視されたわけなんですけども、保健センターにたまたま問合せがあって、それを受けたのが松本保健師ということで、これが明るみになるわけなんですけど

も、ちょっと僕、勘ぐり深いんで申し訳ないんですけども、松本保健師じゃなければこれは表に出てなかったのかなと。積極的にこの事案は、いくせい、へいせいさんとこの現場の方等々の責任だということで積極的に報道機関では記者会見をされたのかなと。自分のとこの件は、自分のとこの大きな失敗あるいは問題の件があるのに、先にこの記者会見をいはんのやなど不思議やったんですけども、ちょっと話が振り過ぎて質問がばらけたら申し訳ないんで、ずばっといきます。どうして、このいくせい施設あるいは特養の部分に関しては、積極的に記者会見をされたのか、素早い対応だったのかということをお聞かせください。

○証人（中川裕介君） それは、7月21日に私、高取町の事案について、町内医療機関じゃなく、本体の町がやらせていただいている分についても謝罪をさせていただき、すぐそのときに、1か月、2か月遅いやないかというお叱りは十分なんですけども、そういうことをやっぱり肝に銘じて、これは、もうどこであろうが、これは高取町でまたやってるやつについても同じような状況になったところで、速やかにやっぱり皆さんに公表させていただくと、それと、次の再建、再発防止策、対応を考えていくというふうに考えたわけでございます。これは、たまたま町内の医療機関ということじゃなくて、それはどこともそういう形で、そうじゃないと、今までやってきた、いろいろ百条委員会で調査していただいておりますんで、早速こういう形で対応させていただきました。本当にその7月11日の案件も含めまして、誠に町民の皆さんには申し訳ないと、そういう気持ちでいっぱいでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） この報道で私は何が申し上げたいかといいますと、再冷凍事故案件につきましては、保健センターのディープフリーザーから運んだワクチンが、へいせいたかとの冷凍庫に入るんか、リベルテホールの冷凍庫に入るんかという違いだけであって、行為自体は違いはないんです。なのに、特養あるいはへいせいたかとのクリニックあるいは交流施設いくせい、これはへいせいさんが中心になって接種していただいている施設については、再冷凍がありました、ごめんなさいというて記者会見されたわけなんですけども、リベルテホールに持っていったワクチンとへいせいたかとのこの施設に持っていったワクチン、冷蔵庫は違いますが、行為は同じで、冷凍したものを冷蔵用の保冷バッグで持って行って冷凍してしまうという行為は同じなのに、このリベルテホールのほうは、先週の土曜日まで自分の中で納得できなかったということがあったんですけども、同じ行為にもかかわらず、先週、10月8日でしたっけ、この櫃原の記者クラブで記者会見された。

行為は同じなのに、一方はその後の土曜日まで納得できずに、一方は積極的に記者会見されたと、この違いはどこでどう判断させていただければいいのでしょうか。

○証人（中川裕介君） それは、すみません、自分がマニュアルとか、そういう確認をしたということです。当然、へいせいとかとりクリニックさんですけど、町内の医療機関でこういう状況が起こった、それで、リベルテホールで今、議長おっしゃるように、行為は全く一緒でございます。それいろいろ自分で調べました。職員がいろいろ皆証言をしておりますけど、確認したかったと、それだけでございます。

それと、町内医療機関についても再冷凍の可能性が高いという話をさせていただいて、実際どういう形で保管されてたのかは、もう報告を受けてるだけなんですけれども、そういう意味で、納得するとか、納得せえへんとか、そういうふうなことじゃなくて、自分なりに勉強させていただいて、マニュアルどおり、おかしいとなれば、それはもう正しくしていかなあかんと。間違ってるなら間違ってるということで、それはちゃんと認めるべき、認めるって言ったらあれですけども、改めていくべきやということで、本当に今回こういう特に再冷凍とか温度管理が不適切と、適切じゃないというのは、これ完全にマニュアルをしっかり読んで、何が必要なのかということ、まずそれを関係の方が職員を含めましてしっかり認識して、それとやっぱり実践していくということが最重要やというふうに感じました。以上でございます。

○議長（新澤良文君） しつこいようですけども、いくせいのほうでは医療用冷蔵庫だったわけなんですけども、リベルテホールの冷凍、再冷凍案件につきましては、先ほど町長がお認めになったように、温度管理が適正じゃなかった。きちんと温度が管理されていなかった家庭用冷蔵庫での再冷凍でございます。家庭用冷蔵庫と医療用冷蔵庫、どちらも再冷凍やから同じやっていうことかもしれませんけども、そもそも報道資料等々で積極的に記者発表され、そして対策もされるということを発表されたわけなんですけども、今後この不適切再冷凍ワクチン、リベルテホールでのきちんと温度の管理がされていなかったワクチン接種、対象1,500人ぐらいの方が合わせたらいらっしゃるということなんですけども、この町民に対しては、どのように説明をされ、どのように謝罪をされ、そしてまた、ずばり聞きますけども、どのように責任を取られるか、お聞かせください。

○証人（中川裕介君） 今、議長からお話しいただいた、1,479名の方でございます。個別には該当の方には御連絡をすとして、例えばお知らせとか町のホームページなんかでリアルタイムに皆さんにお知らせをさせていただきたいと。それと、

検査の日程が決まりましたら、すぐに関係の皆さんに通知をさせていただくという形で進めていきたいと思っております。それと、今、私ができるのは、この抗体検査、また、感染症の検査をまず一日でも早く終わるように取り組むことでございます。今自分のできることがそこだというふうに思っています。以上でございます。

○議長（新澤良文君）　じゃあ、ずばり申し上げますけども、この件については、先週の土曜日、2日前に再冷凍の件は自分自身の中で納得されたということなんですけども、この今証言の中で、7月11日の針刺し事故、そして8月1日、これも針刺し事故の疑い、あるいは7月21日、再冷凍ワクチン接種、そして7月25日、温度管理不足と申しますか、温度がきちんと管理されてなかったワクチンを町民に接種、7月28日、これも温度がきちんと管理されていないのを町民に接種、そして高取町、町内特別養護老人ホームあるいは医療クリニックあるいは交流施設等々、これも高取町の事業でございます。この全ての案件について、交流施設等々はもう積極的に記者会見されたんですけども、7月11日から8月1日まで1,500人ぐらいの町民に対して、命の危険あるいは健康被害リスクのあるワクチンを接種したということに関して、先ほどホームページとおっしゃいましたけども、記者会見等々、あるいは町民に直接呼びかける等々の説明をされる御予定と申しますか、そういうことはお考えになっていらっしゃるということですか。

○証人（中川裕介君）　その件につきましては、先週金曜日、いくせいさんの関係で行きまして、記者クラブとお話をさせていただいて、補正予算、間近に成立をさせていただく議会のほうで御配慮いただいているので、それについては報道資料という形でお届けをさせていただくということで、また、取材等がございましたら積極的に対応させていただくというふうに思っております。また、住民の皆さんには、なるべく早い判断と申しますか、例えば区長さんの代表とか、区長さんに集まっただいてのお話をさせていただくとか、ということをまず考えております。ということで、今のところ、そういう形で対応させていただきたいと。積極的にまた発言させていただく場がございましたら、しっかり説明させていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君）　では、この件については、積極的に自らは説明するのではなく、聞かれたら答えるということですか。

○証人（中川裕介君）　いや、そんなことはございません。日程調整してお話をさせてもらうというふうな気持ちでございます。

○議長（新澤良文君）　日程調整って、誰とお話しされるんですか。

○証人（中川裕介君）　そこは、ちょっとまた詳細を詰めていきたいと。町民の皆さんにできるだけお話をさせていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君）　こういう疑義といいますか、マスコミ報道があったのは、あれ9月の16日か、9月の16日に週刊誌報道があった後に、町民の中でも、何が問題で、何が問題でないのかわからないという方がいらっしゃいます。一方的な、ばかなって言ったら怒られますけども、それと、一方的な偏った情報を町民に流してるような不届き者もいます。そんな中で、町民が何がほんまで何が嘘なのかということも、何が事実なのかってわからない中で、今日こうやって百条議会の中で全ての事案について、町長はこの事実についてはお認めになられたということで、町民に対して、やはり広く、そしてきちっと説明をされるべきではないかと思うわけなんですけども、その一つ的手段として、報道機関を使う。町長は、もう二回も報道、記者会見されてるんですけど、僕は、この前、思いましたよ、10月8日の日に。こんな言い方したら不適切かもしれませんが、チャンスがあったらこのときやなって。この10月8日の日に、全ての事案について実はっていう形で説明されていれば、2回も3回も4回も5回も頭を下げるといいますか、こんなことで騒ぎになるようなこともなかったんじゃないかなと。この10月8日の日に、ちょっと僕は性格が悪いんで偏った見方をしてるかもしれませんが、何かいくせい、あるいはへいせいさんとかにお任せしてる事業なんで積極的に記者会見をされたんやなど。自分とこの件はほっときぼりにしておいて、というふうな見方で僕は見とったんですけども、この町民に対する説明については、積極的に自らが報道機関等々を使うんじゃないしに、どういった形かわかりませんが、説明をされるということなのかなということ、どうされるのかなというのが疑問で、もう全てお認めになったというのは、今回もちょっと申し上げましたけども、国のほうに報告せなあかんというのは、これも町長、執行部などでよく御存じやと思うんですけども、事故案件は事故案件として、報告せないけないという義務があるんで、報告を二カ月以上怠ったということに関しては、あとはどういう調査が入るかというのは僕はちょっと存じ上げませんが、これをお認めになったということで、これは町民に対して積極的に説明をされるということは、ホームページ等々ではあまりよろしくないんじゃないかと思うんですけど、どうですか。

○証人（中川裕介君）　できる限り、町民の皆さんが知っていただけるような方法で考えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） だから、どういうふうにあナウンスされるんですか。今考えていくということなんですけど、ホームページや、あるいは広報等々に載せるというても、今、町民の方は間違っただアウンスをするような不届き者もいるんで混乱しております、実際問題。何が事実で何が事実でないのか、これ全てにおいて言えることは、疑義があるっていうのは、これはもう事実でございます。例えば針刺し事故においても、100%針刺し事故とは言い切れないかもしれない。ただ、それはその可能性が高い。再冷凍については、これは100%と言い切ってもいいんかもしれませんけども、不適切ワクチン管理についてもそうですし、全てにおいて、もう事実関係は認定という形で、もしこの事案を全て司法が判断するのであれば、これは認定で有罪になるような案件やと思うんですけども、そんな中で、なぜきちんと町民にあナウンスを、今、混乱してる、混乱してる原因は私にもあるんかもしれません。というのは、この百条議会という形に強引にさせてもらったということもあるんですけども、こうやって事実を認めさすまでに、認めていただくまでに、これ、どれぐらいかかっているんですか。町民の命を一番に考えられるのであれば、とにかく疑義のあることは全てやっていかないと駄目じゃないですか、その点ちょっとお聞かせください。

○証人（中川裕介君） 申し訳ございません。対応が遅くになっております。申し訳ございません。ただそれだけでございます。

○議長（新澤良文君） 今後のアウンス、町民に対する説明等々は、まだ今のところ考えが及ばないということではよろしゅうございますか。

○証人（中川裕介君） 一番いい方法を、ちょっと相談をしていきたいと思っております。以上でございます。ちょっと今、どれがいいのかっていうのはなかなか思いつかなくて申し訳ないんですけども、そういう状況でございます。

○議長（新澤良文君） では、ここで議員の皆様から御質問等がございましたらお受けいたします。西川議員。

○2番（西川侑彦君） すみません、どの程度検討されてるか、ちょっと僕もわからないんですけども、明日からか、明日から感染症検査ないし抗体検査が始まっていくと思うんですけども、例えばB型肝炎、C型肝炎、特に7月11日に当たっては高齢者接種だったというようなところもあると思うので、元々持っておられた方っていうのが、例えば7人か8人というふうに出てくる可能性は考えられると思うんですが、その辺りほどのように対応するという話をされているか、教えてください。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 明日、予診票、問診票等、また、同意書を作成させていただいて、その段階で、まず既往症の方の部分というのをチェックさせていただきたいと思っております。それと、あと結果については、本当に私、わかりませんので、医師の専門家の方と御相談というふうに今の段階で考えております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） まだちょっと具体的には、結果が出次第、ドクターとか医療従事者の有識者の方と相談してっていう形になる。抗体に関してはどうですか。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 抗体につきましては基準値がございます。一応一つの目安として、ロシュ社の分であれば0.8で、アボット社であれば50とかいう、そういう数値がございます。それを基準に考えていきたいと。当然それについても医師とまた相談を、こちらのほうではそんな能力もございませんし、あくまでもこれは臨床データではございません。抗体をどっだけ持っているかということで、あくまでもコロナの感染をしてるかどうか、というのはPCR検査なり抗原検査でございますので、一つの目安、今の段階では国のほうで何らかの目安は出ておりませんので、それを一つの目安で考えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） すみません。ありがとうございました。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 本日で5回目になるんですが、初めからずっと審議をさせていただいておまして一番感じたこと、一番知識を持っており、一番能力を持っており、一番理解している保健センターの職員がこの事業の中心にならず、なぜ、素人と申し上げます、素人と思われる人間が、このプロジェクトリーダーとしてこの事業をスタートしていったのか、というのが一番不思議なところであります。今まで本町のワクチン事業については、幼児なり、あるいは高齢者なり、インフルエンザなり、あるいは肺炎球菌なり、もう諸々のワクチン接種、予防接種事業については全て保健センターに、うちの町としては託してお任せしていたはずであります。このワクチン事業に関わって、なぜあえて、そのリーダー的な役割を素人に持たせているのかという点については、非常にこの議論を進めながら不思議でならないところでありますが、町長のお考えをお伺いいたします。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 今おっしゃったように、このコロナワクチンにつきましては、今年の1月から実際に保健センターの、その当時3名の保健師が一生懸命準備をしてきてました。これはもう事実でございます。ただ、世の中の状況とか今までの、何ていいますか、接種の希望というんじゃないくて、あくまでも任意でございますけれども、やっぱり政府も積極的に接種を推進された。今まで想定してこなかったすごい大規模な接種、町民の皆さんに接種をします。今、住民の方は6,500人おられます。それで、実際に12歳以上の方が大体6,000人ぐらいです。大体、今、接種されてもろてるのが5,000人強という形で、そういう方を接種せなあかんと。保健センターで、まず最初考えていただいたんですけど、もうこれでは追いつかんから、へいせいたかとり、それが65歳までで、当然プロジェクトがいいか悪いかは置くとしても、やっぱりそんだけの接種をさせてもらわなあかんと。それで、リベルテホールに移させてもらってという、やっぱり当然保健センターで、今までのことをやっていただいておりますし、町のほうにも保健師さんおられます。メインでいろいろそのマニュアル等、実際に医療従事者として携わっていただかなあかんという意識がございました。それ以上に、住民の人の数をやっぱりいかに早く接種していただく、そしたら、もう段取りの話になってまいりますんで、当然、先ほど言いましたように、実際に運搬したり、保存・保管したりしている人間で、マニュアルが徹底できてなかったということ、これはもう非常に反省する次第です。だから、私としては、本来は保健師さん業務でやっていただきたかったというのはそうなんですけれども、それは、保健師さん業務として、やっぱり医療技術職としての、そういう専門知識を持って、そこの部分のパートはやっていただく。ただ、全体の受付の段取りとか、予診券の発送とか、そういうやつは、言葉悪いですけど、事務職で十分できますし、そっちのほうが大ぶん長けてると思います。それと、現場の接種をする当日ですけども、当然薬液を吸ったり、それとか接種したりというのは、これは医療職の仕事やと思っております。その周りの案内をさせていただいたり、例えば事前に予診票のチェックをさせていただいたり、これはもう保健師さんだけじゃなくて普通の事務職の人間でもできますし、案内させていただくのは派遣会社の方でもできます。だから、そこを少ないメンバーで、いかに少しでも効率的に、早く接種をさせていただくということで考えた次第でございます。

○議長（新澤良文君） 森下議員。

○7番（森下 明君） 最初にも申し上げました。この大きな事業を進めるに当たっては、より責任のある立場、責任のある答えを出すという立場の人間に素人を置く

ということで、この事業がいろんな意味で問題を起こしてる大きな原因であろうかというふうに思いますし、ただ、接種事業を進めるのを急ぐがあまり、先ほどまで出てましたけど、きちっとした資格を持っている、あるいは能力を持っている、知識を持っている、そういう人たちの意見がしっかりと反映されたマニュアルづくり、うちの高取町のコロナワクチン接種事業を進めるということが、全くと申し上げます、できない状況でスタートしてしまったと言わざるを得ないというふうに思います。これ今さらという話でございますけれども、今後もワクチン事業を高取は進めていかなければなりません。もうたちまち来年もう一回打たなければならないであろうというふうに言われております。こんな中で、今の状況のままで、誰が、どこの町民が、安心して接種していただけるかということでございます。しっかりとやっぱり知識を持った人間、能力を持った人間、そういう人たちがやっぱり責任ある立場を、ものを言える当事者でなければならない・・・。

○議長（新澤良文君） 質問ですか。

○7番（森下 明君） そういうことで、今後そういう方向で展開するという思いはおありでしょうか。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 今回のいろいろな事案で皆さんに本当に御迷惑かけました。

3回目、今度、多分年明けからスタートしていくと思います。今回のことを教訓に、専門職、医療職の方を中心に頑張ってください。それと、やっぱり役割分担やと思います。やっぱり5,000人を接種せないけませんので役割分担しながら、職員ができるところ、また、派遣会社の職員さんができるところ、保健師さんができるところをしっかりと役割分担をして、それと、マニュアルをしっかりとお互いが確認しながら、ミスのないようにということで、お互いに注意喚起しながら、情報共有しながら努めていきたいというふうに思っております。以上でございます。

○7番（森下 明君） 終わります。

○議長（新澤良文君） ちょっといいですか。今、森下議員のほうからもあったんですけど、簡単に申し上げますと、マニュアル等々、簡単な事業やったとお考えやったと思うんですね。ファイザーのマニュアルをきちんと読んで、厚生労働省の指導、今もう明らかになってる、検証した中でもそうじゃないですか、2度から8度で温度管理して、データロガーもきちんと入れた中で温度管理する、再冷凍はしない、針刺し事故はすぐ感染症検査する、どこの自治体でも当たり前やってることを当たり前にしたらいだけのことやと思います。これで、町長、今おっしゃいま

したけども、人材がどうの、マニュアルがどうのと、こんな当たり前のことを、僕が思うんやけども、こんなん責任感の問題と違いますか、町長をはじめ現場の者、全ての者。例えば、石尾プロジェクトリーダーがプロジェクトチームの中で、僕はコロナ感染症対策本部会議でも言わせていただきましたけども、家庭用冷蔵庫の温度が安定していないということが明らかになりました。7月15日に買って、その冷蔵庫が、データロガーで測って。じゃあ、この家庭用冷蔵庫を使わなければよかつただけのことで、この温度がきちんと安定してないということが7月15日の時点でわかって、7月16日にこの家庭用冷蔵庫を使わなければいけないような状況になった中で、温度が7月15日に安定しなかったら使わなければよかつたのに、これ無理無理使うがために、そもそも温度管理をしなければいけないためのデータロガーを、違う記録が残ってしまうから、不適切な記録が残ってしまうからということで、データロガーを外して入れてしまった。こんなことじゃないですか、町長。そもそも責任感の問題じゃないですか、町長をはじめ。これ中学生でもできますよ。今、歯科医でもやってますよね、ワクチン接種。それなりの医療の資格の持った方が注射はされるんやろうけど、このワクチンの管理、運搬、保存等々は、もう決められたことなんで、きちんと職員それぞれが責任感があれば、温度管理ができなかつたら、それを使わなかつたらいいだけのこと。針刺し事故が起こったら、すぐに感染症検査をしたらいいだけのこと。そうじゃないですか、責任感の問題じゃないですか、町長。

○証人（中川裕介君） 誠に申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 私のほうからは、同じ事案を二度と繰り返してほしくないという観点から、先ほども保健師の方にお尋ねしたら、私は入ってないということだったんですが、この9月27日に開催されたワクチン接種事案に対する検査等の検討会開催、町長、副町長、関係課長と保健師、ちょっと教えてください。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 関係課長は、榊井課長さん、石尾課長さん、芦高課長さんやったと思います。保健師さんは、医療的なことが必要でございますので、植山所長にお越しいただきまして、いろいろまたアドバイスをいただくというふうに思いまして、来ていただいております。

○議長（新澤良文君） 森川副議長。

○1番（森川彰久君） 植山所長は、この会議に出席されたんですね。

- 議長（新澤良文君） 中川町長。
- 証人（中川裕介君） 9月27日の会議に御出席いただきました。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） 先ほど森下議員からもお話があったと思いますが、間もなく3回目のワクチン接種ということがささやかれてる中で、先ほど町長が答弁されました、ワクチンの認識を持ったのは先週の10月9日という、そのような体制でメンバーをお聞きしたら、ほぼ同じメンバーの方、刷新さがないので、このような取組で果たして、また三回目を安心して取り組んで、住民の皆さんがワクチンを打っていただけるのかなという疑問が一つあってお聞きしました。答弁は後で結構ですが、あわせて、この検討内容で7項目あるんですけど、これから関連事項として、GoToトラベルの再開ということもささやかれておりますね。そんな中で、陰性証明を持っておられる方、もしくは二回ワクチン接種をされたという証明書を持ってパッケージの旅行を組まれて行かれるように、いろいろ報道されてます。そういうものを検討課題に入れたいほうがいいんじゃないですかね。ちょっと関連事項ですねんけど、お聞きをします。
- 議長（新澤良文君） 中川町長。
- 証人（中川裕介君） 御提言ありがとうございます。ちょっと今、即答できませんけども、いろいろ勉強させていただきたいと思います。ありがとうございます。
- 議長（新澤良文君） 森川副議長。
- 1番（森川彰久君） 終わります。
- 議長（新澤良文君） ほかに。松本議員。
- 4番（松本圭司君） それでは、ただいま森下議員の言われておった体制、これがまずはなっていない。それと、議長が言われた管理職の責任感のなさ、これもあります。それに、町長が最終的に判断をされるのに上がってくる書類、これにも私は問題があったと。この20日付の松本保健師さんが書かれた2ページ目にありますけども、ワクチンの保存方法に関する相談についてというやつ、これでファイザーお客様相談室、藤田様が、冷凍機能が保たれているので再冷凍には当たりませんという報告、これが新型コロナプロジェクトのサブリーダー前田さんが報告してます。その下に、保健センターの松本保健師、それと植山所長、これ印鑑ついてます。ということは、前日に再冷凍に当たるので破棄しなさいという意見を出してる松本保健師がこの書類に印鑑をつけてます。こういう書類が出てきたら、私やったらOK、使おうかということになります。だから、こういう書類が、今になればもう再冷凍

に当たるので使ったらあかんというのが、私もほぼ知識がなかったんで、つい最近学習をいたしました。この書類は誰から説明を受けて、町長が使用許可を出しましたか。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） ちょっとあまり記憶なくて申し訳ない。実際は多分18日、また次の日、一方的に先ほど議長の御質問にございましたけど、そのときの判断が間違っていたと。結果的には保健師さんの意見を考えるのが必要やったというふうに思います。今の段階ではそうですけども、そのときは、そういうプロジェクトチーム側のを採用してしまっただと。ただ、私もそういうふうな知識がございませんでした。先ほど言いましたように、マニュアルどおりにやってなかったら駄目という、ほんまにそのことなんですけども、それをちゃんと自分自身もトップとしてちょっと勉強もしてなかったし、逆に言ったら、部下のほうからそういう御提言をいただけたら適切な判断ができたんじゃないかというふうに思っております。ただ、もうみな言ってしまったら、もう終わったという、もう過ぎた話です。そのときにしっかり知識がなかった、当然私が悪いんでございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 松本議員。

○4番（松本圭司君） わかりました。最終的には全て町長が責任を取らなければいけないと思いますが、やはり管理職についても、こういう責任感のない仕事をやってるということで、ある程度のことはやっていかれたほうがいいかなと思います。これは私の意見です。それとこういう書類には必ず日付を入れさせるようにしてください。以上です。

○議長（新澤良文君） ほかに。谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 何点か、お伺いしたいと思います。

まず、ワクチン接種事業については、1月から保健センターのほうで準備されてるということで、先ほど町長おっしゃったわけでございますが、体制についてどのようにお考えになって、体制づくりについて、どなたかに指示をされましたか。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 当面といいますか、始まると、多分12月末からやっていたいてるかもわかりませんが、保健センターで、いつものインフルエンザとか、いろいろなワクチンをここでやってくれてますんで、そこからということで考えて、彼女らも一生懸命やってくれてたと思います。ただ、先ほど言いましたように、通常の状態じゃないよ、ということがだんだんわかってまいりまして、そしたら本来、

保健センターで、週に2回、200人ずつぐらい接種しようという形で、それでは到底足らんやろうと。地域交流スペースいくせいで100人できたらと。多分おもしろいっけりあれですねんけど、保健センターも手いっぱいやから、いくせいのほうは何とか町のこっちの保健師さん、または総務課とか、その通常の事務屋さんでやってもろたらということ、もう手いっぱいですって。そんな感じを、ちょっと誰から聞いたんかわかりませんが、何かそんなことを聞いたと思う。そしたら、忙しいけど、手分けしていこうやと。先ほど松本保健師のほうから話してましたけど、4月23日にちょっと受付で混乱を起こしてしまって、これでは今度64歳、次のがありますんで。それと、65歳の方は、ある程度もうそれでいこうということ、決めてましたし、御高齢の方は、場所を変えたり、またいろいろすると、かえって混乱が起こるから、とにかく御高齢の方は頑張ってみんなでやろうということ、保健センターと地域交流スペースいくせいでやらせてもろたと思います。

リベルテホールで使わせていただくということ、実際、催しとかいろいろ入ってたんですけども、そこの方に快く譲りますわということ、使わせていただく形になりましたんで、あそこでやれば最高800人のキャパで、実際は670～680人を2回やったのが多かったと思いますねんけども、そういう形で進めさせていただいたということ、ありがとうございます。その中で、町の保健師も総動員、それと、実際に町の先生方も総動員、看護師の方も総動員、手が足らんからもっと来てもらてくれというふうな状態で進めさせていただいたというのが現状でございます。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） 午前中の濱坂保健師の証言の中で、総括看護師を命ぜられたということ、聞いたわけ、ありがとうございます、辞令書、任命書等はございません。業務内容、職務内容についても指示はございません。動員表をもらっただけです。という発言がございまして、このことについて町長、どうお感じですか。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 誠に勉強不足で申し訳ございません。その総括看護師さんの職務、お叱り受けるかわかりませんが、今回の証人喚問で初めて認識させて・・・、ひょっとしたら聞いてたんかわかりませんが、あまりそういう業務ということは認識しておりませんでした。申し訳ございません。当然、辞令も出してなかったんじゃないかなと。辞令でも出してたら覚えてるんですけど、そういうことでございます。

- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） 今回のワクチン接種事業でございますが、万全の体制で開始できたと町長はお考えですか。
- 議長（新澤良文君） 中川町長。
- 証人（中川裕介君） 先ほど申しました、本当に万全というのは、何ていうか、時間に追われて、65歳の方が終わられた次の週から、64歳の方がスタートするという段取りでございました。もう本当にばたばた状態で進ませていただいた。当然その中で、こういうふうな不手際といいますか、不適切な事案が起こってるということでございます。以上でございます。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） ほかの自治体では、民間業者を有効活用して、できるだけ極力職員の負担を軽減しようという動きがあると聞いておりますが、高度な判断を伴うことについては当然職員が行われなければならないわけでございますが、それ以外はできる限り民間業者に委託することも選択肢の一つと思われませんが、町長は、できる限り職員も町民の方に寄り添うということで参加するように、ということがあったと聞いておりますが、この点に関しては町長、いかがですか。
- 議長（新澤良文君） 中川町長。
- 証人（中川裕介君） まず、委託業者の人材も、私の経験から、かなりばらつきがあるというのが現状です。その中で、高取町の職員さんは、私は立派やと思っています。業務の都合もございと思いますし、ただ、御高齢の方、やっぱりお知り合いの方が来られると思うんです。やっぱり初めてのことで、少しでも顔見知りの人がおって話でもできたら気分が少しでも休まるやろなど、そういうつもりで、なるべく職員さんに出ていただいたらどうですかということで、それはお願いをし、ただ、本来業務とか通常業務が最優先でございますんで。それと、あとはうまいこと仕事を組んでいただいて、一人に偏らないようにということで案内をさせていただきました。以上でございます。
- 議長（新澤良文君） 谷本議員。
- 3番（谷本吉巳君） 最後の質問でございますが、三回目の接種が来年開始されるということで報道等と言われておりますが、これにつきましては、町の信頼がなければ町民の方も受けてもらえないと思いますが、今回の事案を踏まえまして、問題点は何であって、今後これをどのように改善されようとされているのか、お考えをお伺いします。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 今こういう形で調査をしていただいて、今までの課題、非常に具体的にいろいろありますけども、その課題をまず、なぜこういう形になったのか、それを潰していったって、そのためにどういう形でリスクヘッジしていくのか、ということを考えていきたいと思っております。当然、組織体制につきましても、やはり医療職の方を中心に考えていくというのがメインかなと思っております。いろいろアドバイスいただければと思っております。以上でございます。ちょっとまだ頭の中が混乱してて、そういう状況にございません。申し訳ございません。

○議長（新澤良文君） 谷本議員。

○3番（谷本吉巳君） ありがとうございます。これで終わります。

○議長（新澤良文君） 新澤議員。

○8番（新澤明美君） これまで、ほかの議員もおっしゃってるんですけど、例えば冷蔵庫の庫内の温度がどうだったかというので、大丈夫だったかなとか、動いてたかなという、その程度のお答えしかない。実際に、何月何日何時に何度であったという、そういう記録が全く残ってないんですよ。いろんな記録が出てきますけど、そこには何も書かれていない。マニュアルについても何も出てないみたいな、辞令も出てないという中で、きちんとした文書の管理、記録というものが、それがあまりあり過ぎるとまた大変なんですけども、やっぱり最低限必要なものが全く整っていない中で、余計に連携がされてない、受渡しもできてないという状況であると思っておりますので、ぜひそれは、私はしていただきたいと、こう思っておりますので、その辺の考え方と、今、コロナウイルス感染症の対策本部も行われておりますが、その議事録、記録というものが無いようにも聞くわけですが、その辺の有無を含めまして、当然それは作って、情報の共有ということも含めまして、議会に正しい情報をきちんとそちら側の責任で出していただきたいと思っておりますが、その点も含めまして回答をお願いします。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 今回のいろいろな不適切な事案でございます。当然、それを受けまして教訓とさせていただいて、先程、谷本議員のときにお答えさせてもらったように、しっかりと、例えば記録一つ、そういう意識がまずない、そういうようなことをなくすように、先ほど言いました課題の一つ、それを潰していくという形になると思います。それと、コロナの対策本部につきましては、議長、また、今回は谷本委員長が入っていただいております。何ていいますか、議事録等、ちょっと

私、今あるかどうか確認できないので申し訳ないんですけども、そういうことも踏まえまして、また相談させていただいたらと。実際入っていただいておりますので、それでまた、そこはちょっと、今のところそういう形で考えていきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） 新澤議員。

○8番（新澤明美君） 以前も議長も知らないことでいろいろ話があったりとか、対策の本部以外のところでいろんなことが話し合われてたりとか、ほんまに何がどこでどう動いてるかというその情報が一本化してない。だから、やっぱり情報の責任を町長に持ってほしいんですよ。それをやっぱり共有をする。それがやっぱり間違いを起こさない大事なことだと思っております。別に、だから議事録といっても一から十まで全部書いてくださいという話じゃないんです。やっぱり必要なことをきちっと伝えるということで、責任を持った文書を議会に出してほしいと、こういうことなんで、ぜひそれはそういう方向でお願いしたいと思っております。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 今、新澤議員の御質問、御要望の趣旨を十分理解させていただきました。ありがとうございます。

○議長（新澤良文君） ほかにございますか。西川議員。

○2番（西川侑壱君） 先ほどの森下議員の質問を受けてなんですけども、一つちょっと考え方を正しといていただきたい部分もあって、質問も含めてなんですけども、町長、今、効率よくとか、一人でも、一分とは言ってないかもしれないですけど、一日でも早く、多くの方に打ってもらうということを言っておられたんですけど、医療業界では、効率とかスピードよりも、何よりもまず安全性というところは重視しなければいけないと思うんですけども、その辺りの考え方はいかがですか。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） それは当然でございます。特に医療業界、例えば・・・でも一緒やと思うんです。まず安全・安心、ルール内です。申し上げたのはそういうつもりなんですけども、ただ、実際に来ていただいたときは、かなり余裕を持って人の割り振りをしてますし、何か芋の子を洗うようなやり方でもございませんので、当然、それはもう十分やっぱり住民さんの立場になって考えております。気持ち的にそういうことをさせていただいてるということで御理解いただいたらと思っております。

○議長（新澤良文君） 西川議員。

○2番（西川侑壱君） リベルテで接種するときに、先ほどトータルマックス800

ほど受けるっていう中で600っていうのは、どの程度のラインが安全かというところが僕はちょっとわからないんですけども、その辺りの判断というのを誤ると、今回のような事例になってしまうと思うんで、次、三回目接種するときには、必ず安全性というところを一番に重視していただきたいなというふうに思います。

○議長（新澤良文君） 中川町長。

○証人（中川裕介君） 十分心得て、肝に銘じてやらせていただきたいと思います。  
以上でございます。

○議長（新澤良文君） ほかにございませんか。

〔「なし」の声起こる〕

○議長（新澤良文君） じゃあ、私のほうから、まず、今、住民の方から素朴な疑問として上がってきていることをお尋ねいたします。今回、C型肝炎、B型肝炎、感染症についての検査結果、これが仮にC型肝炎に感染してる、エイズに感染してる、こんなんは別に行政として、あるいは厚生労働省なり国なり県なりの今までの事例等々、過去の判例に準じてやっていく。行政としてはどういう責任を取らなきゃいけないかって、もうこんなん決まってますんで、うちだけ、高取町だけは、いや、争うんや、というようなことは、そんなばかげたことはないと思うんですけども、住民の方が一番不安がってるのは、これだけいろんなことを隠してきたような嘘つきばかりの行政の中で、例えばC型肝炎、B型肝炎の結果っていうのは、また御本人さんたちの手元に来るんじゃなしに行政のほうで管理されるということなんで、また隠蔽されるんじゃないかという、こういう心配をされてます。僕も今の高取町やったらあり得る話やな、と思ってるんですけども、町長の認識は、このような心配があるという、町民が心配されてることに关しまして、町長はどうお考えですか。中川町長。

○証人（中川裕介君） 御心配、申し訳ございません。肝炎、H I Vにつきましては、御本人に送付、通知させていただきます。

○議長（新澤良文君） じゃあ、C型肝炎、B型肝炎も、町じゃなしに個人さん宛てに通知していただくということでもよろしいですか。中川町長。

○証人（中川裕介君） 一旦、町のほうへ検査データをいただいて、そのまま通知させていただきますというふうに考えております。

○議長（新澤良文君） もう1点、例えばこの抗体検査の議論、新型コロナウイルス感染症対策本部でも議論になったわけなんですけども、抗体のあるない等々、厚いじゃない、高い低いになるんか、高い低いも含めまして、専門的なデータはあると

思うんですけども、中には1,500人の検査をした中で7人は抗体ができてなかったということも報告されております。その抗体の中で、高い低い、もし仮に再冷凍あるいは不適切温度管理のワクチン、打たれてすぐならそれなりのデータも出てきたと思うんですけども、2か月以上も経ってるんで、きちんとワクチンを打てる人でもワクチン効果が薄くなってるといっての方がいらっしゃると思います。だから何を申し上げたいかと申しますと、ワクチンの効果と申しますか、抗体が低い人には軒並み三回目を打っていくのか、その辺の判断はどこで誰がどういうふうにするのか、抗体のこの検査結果についても個人に公表されるものなのか、あるいはまた役所のほうで内々でされるものなのか、お聞かせください。中川町長。

○町長（中川裕介君） 原則、抗体検査の結果は本人に通知させていただきます。ただ、今おっしゃいました抗体の数ですけども、かなりばらつきがあるように聞いております。そこは一応基準値がございます。それを超えておれば抗体がついてるといふふうに、今、疫学的には、そういう判断をされております。実際に専門家の先生にも相談しながら、そこら辺はどうしたらいいのか、それとか、例えば先例がどういう形になってるのかということも勉強させていただきたいと。ちょっと今はまだやってみないとわからないって、怒られますけども、そういう形で進めさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） これから後、ほかの自治体でも出てくるんかもしれませんけども、今のところ、この再冷凍ワクチンにしる、針刺し事故にしる、自治体あるいは市町村においては事故が発生してすぐに対応しております。ただ、本町においては2か月以上経ってるわけで、感染症のデータ等々も、先ほど西川議員も言うてましたけども、この感染症っていうのは、例えば問診票あるいはワクチン接種までの間にね、C型肝炎、B型肝炎という治療あるいは薬っていうか、そういう処方箋と申しますか、そういう治療を受けている以外の人であってもC型肝炎、B型肝炎に感染してしまっていたら、それ以前の人以外の方は全て補償しなきゃいけないということになってこようと思うんですよね。その辺は弁護士等々の判断になってくるし、判例や慣例ということになってくるのかもしれないんですけども、何を申したいかといいますと、この二カ月ほったらかしにしたから、そういう弊害がたくさんあります。すぐ処理あるいは公表を恐れずにやっていただければ、隠蔽せずに、その辺も町民に対する処理というか、処置あるいは対応というのがきちっとできたと思うんですけども、相当これもきちんと説明をしないといけないと思いますし、今、抗体検査を受ける対象外の方、高取町でワクチンを接種した方、こんな方々からも

声が聞こえているのは、あの人ら嘘ばかり言うてるのに、私ら大丈夫なんって、私らのワクチンほんまに大丈夫なん、私らも検査してよ、こんな声が聞こえております。これは一部の方、不安な方、こういう方がいらっしゃいます。町長御自身も、先週の土曜日まで、再冷凍は、納得といいますか、自分の中で覚悟というか、そこがでなかつたっていう部分の中で、今後、先ほど町長、高取町の職員は立派でということをおっしゃってましたけども、立派な職員だって思うんであれば下からの進言を聞いていただろうし、そんな立派かどうかということはあるんですけども、今後どうされるんですか。例えば抗体検査を希望される町民の方は、もちろん高取町でコロナワクチンを接種された方なんですけども、こういう方に対しては抗体検査をしてあげるといふ、こういった広い気持ちでおられますか。中川町長。

○証人（中川裕介君） 今の御質問ですけども、該当、今のところ私、考えてますのは、7月11日、8月1日、7月21日、あと7月25日、28日と、あと、地域交流、町内医療機関で、ということについて、抗体検査を、また、感染症検査をさせていただきたいというふうに思っております。

○議長（新澤良文君） じゃあ、後からもし出てきた場合は、またそのときに考える。一回目の町長のこの百条議会、百条調査権の発動による議会においては、僕は、そのときにも申し上げました。町長、この時点で認めはって、素早い、町民に対して、いち早くの対応をされたらどうですかっていうことを、議事録を読んでいただいたらわかると思うんですけども、全てこれは公開しますんであるんですけども、そのときに町長がおっしゃいました。今出てる事実において対応していきましていう部分で、そのときの事実っていうのは、7月11日の針刺し事故だけの案件でございました。その後で再冷凍っていうのも町長の中で先週の土曜日に納得あるいは覚悟ができたっていうこと、その後はマスコミ等々の新聞もそうですし新聞報道を受けてということですし、その後は、いくせい、あるいはたかとりっていうことで、まずは、ばれるたんびに認めるんじゃないしに、疑義のあることは対応、対策あるいは、疑義っていうのは行政としたらもう調査対象なんで、そんなことは僕みたいな頭の悪い人間、学歴の低い人間が言うんじゃないしに、町長は、立派な大学も出られ、県庁でもお勤めになつてる中で、それなりの認識、知識もおありだろうと思うんで、そういうふうな判断をされると思うんですけども、もう一度、町長、私から質問ばかりしてって、ほかの議員さんに怒られるかもわかりませんが、お願いということでしておきたいのは、もう一度職員の人に、このワクチン接種については、ほかに何もなかったんかということを経営部から下に降ろしていただいて、

些細なことであっても疑義のあるようなことがあれば、もうこちら側からめくっていくんじゃないに、そちら側から報告していただくというような形でやっていただきたいなと思いますんで、その辺、もう一度ちょっと、そちらはそちらで調査していただきたいなと思います。中川町長。

○証人（中川裕介君） 今、議長の御発言、肝に銘じて、先にしっかり調査させていただきます。また、そのときには御報告させていただくと。今の段階では、ちょっと私は何も聞いておりませんのでお答えしようがないんですけども、そういう形で確認をやっぱりしっかりさせていただきたいと思っております。以上でございます。

○議長（新澤良文君） ほかに何かございませんか。

〔「なし」の声起る〕

○議長（新澤良文君） ないようでしたら、これで中川町長の尋問を終了いたします。中川町長、お疲れ様でございました。

○証人（中川裕介君） ありがとうございます。

○議長（新澤良文君） ここで、ちょっと10分間だけ休憩させてもらって、今後の日程等々を話し合いたいんで、よろしくお願いします。

午後 4時35分 散会